

群馬県石造文化財総合調査報告書

庚申塔と月待・日待塔

上州の近世石造物(二)

群馬県教育委員会

群馬県石造文化財総合調査報告書

庚申塔と月待・日待塔

上州の近世石造物(二)

群馬県教育委員会

序 文

道端の石垣の上に肩を寄せ合う男女二神、憤怒の形相で邪鬼を踏まえる青面金剛、今は人通りも絶えた旧道の辻に斜めに立つ道しるべ、山裾に林立する百庚申の文字塔などなど。一時代前には、県内各所で普通に見かけた風景です。

最近の社会環境の急激な変化により、これらの石造文化財は危機に瀕しております。他処へ移動され、あるいは瓦礫の如く山積みになされ、首をもがれ、更には不心得者により持ち去られる石仏も少なからずあると聞きます。まさに石造文化財ご難の時代と言つてよいでしょう。

このような現状に鑑み、昭和五十八年度から三か年計画で「石造文化財総合調査」を実施して参りましたが、昭和六十年で一応終了し、近世石造文化財保護の基礎資料が集積されたと考えます。

夏の調査では、背丈をこえて生い茂る草を切り払い、日影ではヤブ蚊に悩まされ、冬には雪の下から掘り出した石仏の寸法を凍える手で測り、銘文を記録する。また写真撮影では、良い光線を求めて同じ崖を何回もよじ登るといった、難行苦行の連続であつたと聞いております。調査に当つた県下七〇市町村二〇〇余名の調査員各位の、このようなご労苦と、各市町村教育委員会の担当職員各位をはじめ本調査に陰に陽にご協力を賜つた皆様方に、改めて深甚なる謝意を表する次第であります。

ここに発刊の運びとなつた調査報告書が、県民各位に活用され、石造文化財ひいては民俗文化財に対するご理解と文化財保護思想の涵養の一助になれば幸甚であります。

昭和六十二年三月三十一日

群馬県教育委員会

教育長

千吉良

覚

目次

序文	群馬県教育委員会 教育長 千吉良 覚
凡例	
口絵	
上州の近世石造文化財(概論)	近藤義雄 37
上州の庚申塔と日待・月待塔	今井英雄 54
上州の庚申塔(市町村別)	73
上州の日待・月待塔(市町村別)	265
上州の庚申塔分布図(1)・(2)	(折込み)
上州の月待塔分布図(1)・(2)	(折込み)
石造文化財総合調査調査員名簿	

凡 例

一、本書は、昭和五八〜六〇年度に実施された「石造文化財総合調査」に於て、各市町村から提出された調査票をもとに、庚申塔、日待塔及び月待塔についてまとめたものである。

二、本書の編集は県教育委員会文化財保護課で行った。

三、口絵の写真は、調査票添付の写真のうちから適宜掲載した。

四、庚申塔及び日待・月待塔の一覧表は、市町村毎にまとめ、番号は市町村毎の通し番号とした。

五、表中の「形」については以下のとおりである。

- (1) 庚申塔。「文」は文字庚申塔（庚申、青面金剛、猿田彦大神、梵字塔など）。「青面」は青面金剛像塔。「殿」は石殿（石祠）形庚申。「灯」は灯笼形庚申。「層」は層塔形庚申。「像」は地藏菩薩等青面金剛像以外の像容庚申塔。「猿」は山王猿像など猿を中心とした像容の庚申。「臼」は石臼形の庚申。「他」はその他の形をとる庚申。
- (2) 日待・月待塔。「文22」「像（如・22）」はそれぞれ文字塔で二十二夜待塔、如意輪観音像で二十二夜待塔を示す。「像（勢・23）」は勢至菩薩像の二十三夜塔を示す。「文（巳）」「文（甲子）」「文（弁）」「文（大）」はそれぞれ文字の巳待塔、甲子待塔、弁財天、大黒天を示す。「像（弁）」「像（大）」はそれぞれ弁才天像、大黒天像を示す。「日」「月」はそれぞれ日待塔、月待塔を示す。

六、「所在地」は大字以下の地名で示す。

七、「方量」は高さ、幅、総高を記し、高さは主体部（身部）の高さを、幅は主体部の最大幅を、総高は地上の最高値を示す。

八、「年代」は、元号を用い算用数字で示す。なお安政七年は「安政7」と、寛政庚申年は「寛政12」のように示した。年代が確定できない場合は「不明」とした。

九、「銘文」は原則として調査票記載のとおりとしたが、左のように変更した箇所もある。

- (1) 異字・旧字は当用漢字に、変体仮名又は元の漢字又は平がなで示した。
 - (2) 文字不明の箇所は「□□」「□□」のように示した。
 - (3) 人名多数の場合は（他六名略）（女性名六名略）のように示した。
 - (4) 銘文の配列は、適宜変更してある。
- 十、庚申塔、日待・月待塔ともに紙数の都合で主要なものを掲載し全容については、巻末の「市町村別造塔数一覧」で示した。

庚申塔一



青面金剛像（宝曆十三）
前橋市西大室町 観昌寺



二猿庚申（延宝元）
前橋市公田町熊野神社



百庚申（嘉永四）
高崎市貝沢町 不動寺



青面金剛像（明和三）
高崎市下日高 行人像



青面金剛像（元禄七）
伊勢崎市国領町



庚申塔（寛文九）
伊勢崎連取町 上吉良墓地

庚申塔二



青面金剛像(正徳二)
太田市寺井 聖王寺



地藏庚申(延宝二)
太田市寺井 聖王寺



青面金剛像(延宝二)
沼田市材木町 舒林寺



層塔庚申(不明)
沼田市原町 愛宕神社



青面金剛像(宝永二)
館林市仲町 観性寺



三猿庚申(寛文十二)
館林市 羽附 新興

庚申塔三



青面金剛と馬頭尊
 渋川市入沢 鼻欠地藏



層塔庚申(承応四)
 渋川市並木町 遍照寺



猿田彦大神(安政七)
 藤岡市中栗須 神明宮



青面金剛像(元文年間)
 藤岡市下日野 高井戸



一石百庚申(万延元)
 富岡市上丹生



かのえさる(文政二)
 藤岡市上栗須 赤城神社

庚申塔四



庚申守夜塔(文化四)
富岡市小野 阿弥陀堂



猿像(庚申童子)(享保九)
富岡市額部



石殿庚申(寛永二)
安中市八本木 延命地藏



青面金剛像(元禄九)
安中市上磯部 観音堂



馬頭尊庚申(元禄五)
北橘村小室 東丸山



石殿庚申(延宝五)
北橘村小室 第一

庚申塔五



庚申供養（元禄八）
赤城村敷島 諸田



青面金剛像（不明）
赤城村津久田 福増寺



大青面金剛宝塔（文化十）
富士見村原之郷 円竜寺



庚申塔（万延元）
富士見村田島



庚申（安永五）
大胡町河原浜 応昌寺入口



青面金剛像（不明）
大胡町上大屋 観音堂

庚申塔六



青面金剛塔（寛保三）
宮城村苗ヶ島 金剛寺



燈籠庚申（延宝八）
宮城村苗ヶ島 金剛寺



一石百庚申（嘉永九）
粕川村深津 西福寺



青面金剛像（享保十一）
新里村奥沢東部

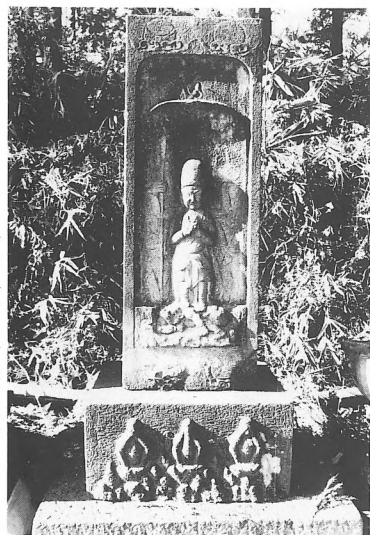


百庚申（寛政七）
粕川村月田 近戸神社



青面金剛像（享保十一）
新里村 山上天竺

庚申塔七



青面金剛像(不明)
黒保根村 清水観音堂



庚申塔(宝永三)
黒保根村八木原上



青面金剛像(享保五)
倉渕村三之倉 全透院



青面金剛像(文化十)
榛名町本郷 蔵屋敷



庚申(万延元)
倉渕村 水沼中郷



石殿庚申(万治二)
榛名町下里見 郷見神社

庚申塔八



上章活灘（元延元）
箕郷町白川 竹ノ鼻



青面金剛像（元禄五）
箕郷町 駒寄



庚申塔（延宝八）
群馬町北原村西



百庚申（元治元）
群馬町北原村西



庚申塔群（層塔は承応二）
子持村中郷 双林寺前



庚申塔（万延元）
子持村白井 大宮神社

庚申塔九



青面金剛像(不明)
小野上村小野子程久保



大青面金剛(宝塔(嘉永二))
小野上村村上古城台



庚申(嘉永元)
伊香保町伊香保



層塔庚申(延宝元)
榛東村山子田 柳沢寺

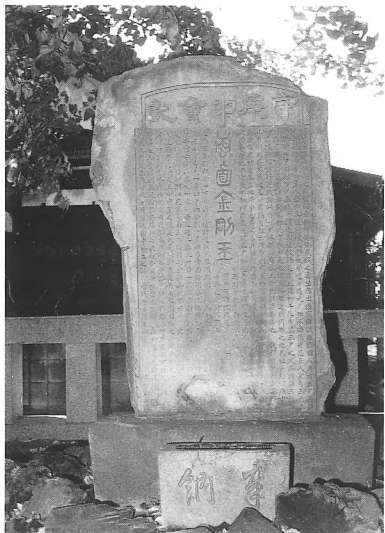


青面金剛像(元禄十四)
榛東村山子田 地藏堂



青面金剛像(明和四)
吉岡村南下

庚申塔十



守庚申会記(万延元)
新町五区 諏訪神社



青面金剛像(宝永元)
吉岡村大久保田端



青面金剛像(元禄十四)
万場町下宿



青面金剛像(文化九)
鬼石町鬼石 福持寺



青面金剛像(不明)
中里村伝田郷



青面金剛像(元禄五)
万場町下宿



庚申塔（寛政十二）
中里村神ヶ原



三戸怨（寛政十二）
下仁田町西牧



庚申（寛政十二）
上野村野栗沢



青面金剛像（万延元）
下仁田町馬山杣瀬百庚申



青面金剛像（享保四）
上野村乙父千日堂



青面尊像（元禄十三）
南牧村勸能前日向

庚申塔十二



庚申供養塔 (元文五)
南牧村羽根沢 蛇見堂



青面金剛 (寛政三)
松井田町下増田 赤坂



青面金剛像 (天保六)
甘楽町国峰 興厳寺



庚申 (万延元)
松井田町中宿 補陀寺



梵字庚申 (寛政十二)
甘楽町 善慶寺



石殿 (燈籠) 庚申 (寛文八)
中之条町赤坂

庚申塔十三



青面金剛
中之条町中之条 清見寺



青面金剛像(寛政十二)
吾妻町泉沢 渡戸観音



青面金剛尊(文化十三)
吾妻東村岡崎 榛名神社



百体庚申供養(天保十四)
吾妻町須賀尾 諏訪神社東



青面金剛
吾妻東村 御園観音



庚申塔(安永五・右 文化五・左)
長野原町林観音堂

庚申塔十四



庚申塔（不明）
長野原町 川原湯神社



庚申供養塔（文化十四）
六合村生須



庚申（文化五）
草津町草津 光泉寺



奉造立庚申供養（延宝八）
高山村中山五領



庚申供養塔（不明）
草津町 前口観音堂



青面金剛像（享保十一）
高山村中山判形

庚申塔十五



石殿庚申（延宝八）
白沢村尾合中村



青面金剛像（享保十四）
利根村 根利



層塔庚申（万治二）
白沢村平出 平出神社



層塔庚申（承応三）
川場村谷地 桂昌寺



青面金剛像（正徳元）
利根村 柿平観音堂



青面金剛像（元文五）
川場村生品 大日堂

庚申塔十六



三猿庚申（不明）
水上町大穴 大見堂



庚申塔（不明）
片品村東小川中井



青面金剛（寛保二）
月夜野町下津南区



層塔庚申（延宝四）
片品村土出 伊閑町



庚申塔（寛政十二）
月夜野町 下津竹改度



青面金剛（宝永）
水上町綱子

庚申塔十七



層塔庚申
新治村相俣 海円寺



庚申（文化十）
赤堀村今井 宝珠寺



庚申神（万延元）
新治村相俣浅地



青面金剛像（延宝八）
境町平塚 天人寺



青面金剛像（宝曆六）
赤堀町下触 万徳寺



奉造立庚申供養（正徳二）
境町島村

庚申塔十八



青面金剛像 (元禄四)
玉村町板井八幡宮



青面金剛像 (宝永二)
尾島町前小屋



石臼庚申 (不明)
玉村町南玉 金藏寺



青面金剛像 (元禄十五)
新田町下江田 最勝寺



三猿庚申 (寛文八)
尾島町大館



青面金剛像 (元禄)
新田町上江田

庚申塔十九



地藏庚申(延宝)
藪塚本町 藪塚湯ノ入



梵字庚申(寛文十)
笠懸村 阿佐美



奉造立庚申供養塔(寛文十二)
藪塚本町 藪塚西野



青面金剛像(元文五)
大間々町 高津戸川面



百庚申
笠懸村阿佐美 南光寺



二猿庚申(延宝八)
明和村 矢島公民館

庚申塔二十



三猿庚申（寛文十二）
明和村矢島公民館



梵字庚申（寛政十一）
千代田町舞木 薬師堂



青面金剛像（延宝五）
明和村 斗合田 薬王寺



青面金剛像（延宝八）
千代田町瀬戸井 宝生寺



青面金剛像(享保二)
邑楽町中野大根村



庚申供養塔(元文五)
大泉町上小泉 正眼寺



青面金剛像(宝永四)
邑楽町秋妻 光林寺



庚申塔(宝曆十二)
大泉町下小泉 正善院

日待・月待塔一



廿二夜供養(明和六)
前橋市西大室町観昌寺



廿一夜塔(天保十二)
沼田町坊新田町了源寺



大黒天
高崎市下日高諏訪神社



日待層塔(承応四)
沼田市戸神町虚空蔵様



二十三夜(嘉永四)
伊勢崎市戸谷塚町



十九夜供養塔(宝曆十一)
館林市成島小蓋公民館

日待・月待塔二



弁財天（宝曆十二）
館林市上林山



廿二夜佛（天保四）
富岡市下黒岩



甲子（元治元）
藤岡市上戸塚戸塚神社



三光寺供養塔（明和二）
安中市上ノ尻愛宕神社下



大黒天（元治元）
渋川市並木町 遍照寺



日待塔（承応三）
赤城村長井小川田年丸

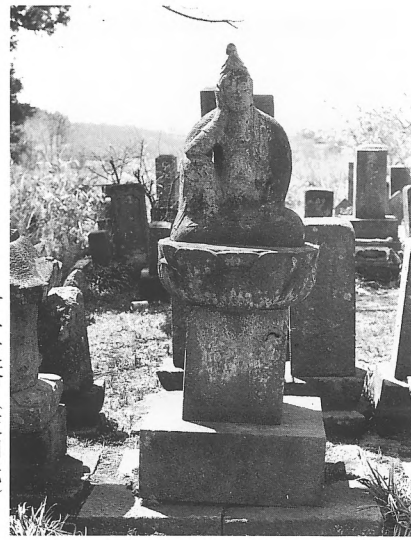
日待・月待塔三



二十一夜塔（元文五）
北橋村



弁財天（天明七）
粕川村



廿一夜塔（天明元）
富士見村米野



巳需塔
新里村



二十一夜
大胡町



三日月神（天保四）
黒保根村

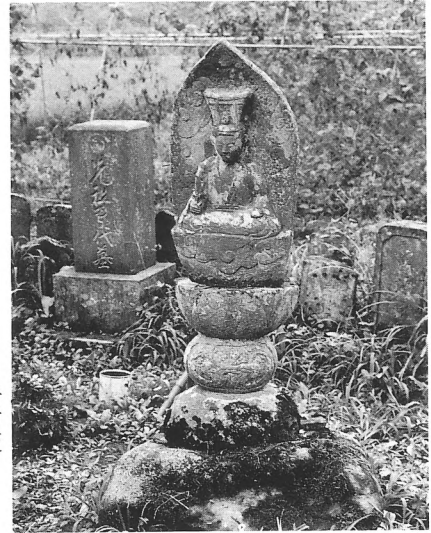
日待・月待塔四



二十二夜塔（天保五）
榛名町上里見間野



二十二夜
群馬町



弁財天
倉瀬村



十六夜念仏供養
小野上村



廿三夜待供養塔（天明五）
箕郷町 西明屋



二十一夜念仏供養（明和七）
榛東村山子田

日待・月待塔五



二十二夜(天保十三)
鬼石町浄法寺



廿二夜待供養
吉岡村



三夜塔
上野村



二十二夜待供養塔
新町



廿三夜待供養塔(明和五)
中里村



二十二夜(安政三)
万場町青梨子

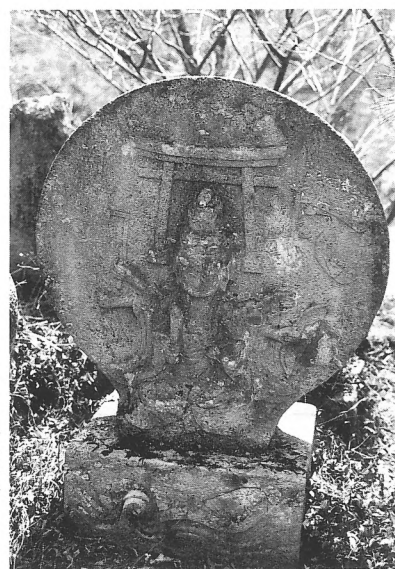
日待・月待塔六



弁財天
下仁田町青倉



巳子待塔
松井田町上増田



弁財天
南牧村



弁財天
中之条町中之条 林昌寺



奉待弁天供養塔
甘樂町



日待塔(明暦元)
吾妻東村新巻 正泉寺

日待・月待塔七



二十三夜
吾妻町



十九夜
六合村入山 品木



大黒天（文化元）
長野原町横壁 諏訪神社



二十一夜待（天保十二）
高山村



月光菩薩
六合村入山 梨木



一夜待供養（宝曆五）
白沢村平出 正眼寺

日待・月待塔八



二十一夜塔
利根村 穴原



十六夜待供養塔（文化七）
水上町高日向堂屋敷



念一夜供養塔
川場村



準提観音塔
月夜野町



二十六夜塔
片品村幡谷



二十一夜需供養
新治村

日待・月待塔九



二十二夜供養塔(明和五)
赤堀村 磯



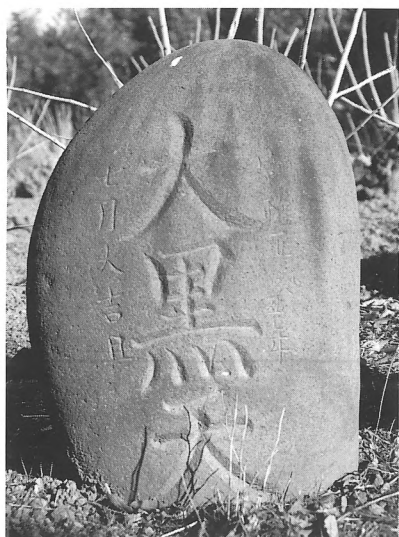
廿二夜
新田町村田 宝蔵寺



二十三夜塔
境町



子待塔
尾島町



大黒天(寛政五)
玉村町



巳待塔
藪塚本町

日待・月待塔十



愛染明王（文化八）
笠懸村



二十三夜塔
千代田町



十九夜念仏供養
板倉町板倉 実相寺



廿二夜待供養塔（明和四）
大泉町



十九夜
明和村



二十二夜念仏供養塔
邑楽町

補遺



青面金剛明王（宝永八）
勢多郡東村花輪 祥禪寺



青面金剛像（享保十六）
勢多郡東村沢入 大沢寺



釈迦如来庚申（万治四）
桐生市本町 浄雲寺

上州の近世石造文化財（概論）

近 藤 義 雄

- 一、はじめに
- 二、造立者
- 三、種類
- 四、地域差
- 五、石工

一、はじめに

近世石造文化財は、古代・中世に比べて非常にその種類が多い。石材はほとんど地元の安山岩を用い、中世のように凝灰岩や緑泥片岩を遠方から運んできて造立する例は稀である。近世は交通も発達し、物資の交流も盛んであるのに、近世石造文化財とその石材使用が地元中心であったのは何故であろうか。

中世石造物には、緑泥片岩の板碑が利根郡や吾妻郡などでもかなり大きなものも見受けられ、それらの石は遠く荒川上流や多野郡方面から運ばれたものである。また、凝灰岩の石仏や五輪塔など、その産地から離れた遠い地にもある。勢多郡赤城村宮田の石造不動明王像などはその好例である。

その原因は特殊な信仰に基づくもので、加工技術が軟かい石材でなければ細工ができなかったわけではない。当時の密教信仰などによるという。

密教では石仏に着色して、より一層神秘性を高める必要があり、板碑は武士階層や僧侶などにより造立されたもので、当時の一般農民の手になるものではない。そこには、近世石造物と古代・中世石造物の信仰上の相違が深く係わっていたからである。

近世石造物は、古代が貴族や大きな権力者の造立、中世の武士中心の特殊信仰に基づくのに対し、一般庶民層により造立されたのが大部分であるのが特色である。そこには、古代貴族の富と権力もなければ、中世のような切実な信仰に根ざすものでないのが大部分である。近世石造物も大部分が信仰遺物であるが、そこには中世のように戦乱のなかで苦悩し、信仰が生きていた時代ではなくなってきたことが窺える。

例えば、道祖神にしても泰平の世にユーモアを感じさせる抱擁型のものがあるが、近世中期から多くなるが、そこには中世のような深刻な姿は全く感じられない。六地藏にしても、中世末の時代の人々は、輪廻車を廻してひたすら来世への悲願をこめて祈ったのであろうが、輪廻車孔をもつ六地藏石幢（輪廻塔）は、近世にはその姿を消し、僅かに渋川市の真光寺と子持村双林寺の寛永期のものが二基あるだけである。月待供養塔も非常に多く造立さ



輪廻車孔をもつ石幢（元亀4）
大間々町浅原

れてくるが、その信仰集団の講中の集まりは、一部には切実な願いをこめて信仰する人もあつたろうが、大部分はレクリ

エーション的である。総じて、近世石造物には前代のような暗さがなくなっているといえよう。三猿の上に青面金剛が勇ましい姿で刻まれている

でも、封建社会への庶民の生き方は教え

られても深刻さはない。遠国の神々や仏を刻んだ石祠や碑にしても、講中の人々は旅の安全・感謝であろうが、そこには信仰とともに多分にレクリエーション的なものがあつた。伊勢参宮日記などには京・大阪から四国の琴平までの社寺詣にかこつけた見物旅行であつたことが窺える。

このような大きな変化は、近世社会が泰平であつたことと庶民の生活文化が豊かになってきて、真の庶民文化が開花してきたことを示すものであろう。近世石造文化財は、庶民がその造立者であり、前代のような切実な強い信仰の所産でないから、遠方から特殊な石材を運ぶことなく、身近か

な石材を用いて造立したのであろう。しかも、庶民にとっては記念物的意図もあるから硬質の石を選び、いつでも容易に礼拝し、より多くの人の目に触れることのできる路傍や社寺の境内・墓地・塚などに造立されたのである。したがって、造顕された石造物は種類も非常に多く、多種多様であり、近世庶民の精神生活をより具体的に示してくれる文化遺産といえるのではなからうか。

なお、近年県下市町村で次々に近世石造文化財報告書が刊行され、また、市町村誌などでも近世の金石文として多く記録されてきている。以下これらを参考に本県の近世石造文化財を概観してみたい。

二、造立者

近世の各種石造物の造立者は、個人・惣村中・講中に大別できる。但し、個人名を刻んだものでも、多くは講中の一人として造立したものがかなりある。百庚申や千庚申には個人名を刻んだものが多いが、それは百庚申の一基を個人個人が分担したものがかり、安中市下秋間の百馬頭なども馬頭講中の一員としてあげたものがかかり多いと思われる。

純然とした個人造立は、村の有力者が記念に奉納したとか、特別の信仰をもった家で造立するのであり、不慮の災害で子供を失った親が供養に地藏を造立する、或は行者が個人で不動尊を造立するなどである。一般に石神・石祠よりも仏像の場合に個人の造立が多いのも、それぞれの信仰に基づくからである。

惣村中の造立は、仏より神の場合が多い。鎮守の境内に造立者名のない



多数の寄進者名を刻むえんま堂の常夜燈
高崎市倉賀野町

石祠が多いが、それらの大部分は惣村中の造立であろう。道祖神、天王社（八坂祠）、水神などは路傍や池の中にあるがほとんど惣村中の造立である。

講中の造立例は、大きく二つに区分される。一つは村内の講で、その代表的な例は庚申講・月待講・馬頭講などであろう。庚申講は村落内に十数軒単位につくられることが多く、小さな村落では村中となることもあり、青面金剛像などはいくつかの講中がともに同一の像をまつる。月待講には女人講が多く、邑楽郡の渡良瀬川よりの地方には十九夜塔、太田市から西毛地方にかけては二十二夜塔が多く、利根郡地方には二十三夜が多い。時には十六夜塔・十七夜塔（太田市）などが見受けられる。これらのなかには、世話人は男性であるが講員は女性で、渋川市金井の二十二夜塔のように広範囲にわたる百人ほどの女性の信仰により造立されたものもある。念仏供養塔なども念仏講中の造立で、寒念仏塔や地藏像を造立している。建築関

係の職人は、聖徳太子の碑や像を造立してまつる。珍しいのは渋川市真光寺境内にある安政三年（二八五）の一十職の碑であろう。一十職碑は床屋職人の講中四十数名により造立されたものである。天神社や道祖神は、惣村中の造立であろうが、その祭礼は子供が主役であった。

このような地縁集団、職業集団、信仰集団、女性集団、年齢集団などの地域の集団により、近世の多くの石造文化財は造立されたのである。

代参講中により造立されたものには、遠方の神々や碑がある。琴平（金比羅）社、秋葉社、富士宮、諏訪社、八幡社をはじめ、山羽三山や阿夫利山の石尊権現、御嶽などの碑も各所にある。代参社は無事代参をすませた記念に鎮守に灯籠や狛犬・鳥居・玉垣などを献納した例も多い。伊勢参宮などは、代参者が村を立つときはお飯屋をつくり、留守中家族は道中の無事を祈ってお参りした。代参者が一巡したのでその記念に石祠を造立したのもあつたろう。

このように近世中期以後遠方の神仏への代参講が発展した背景には、有名社神の御師とよばれる神人団の活動、或は行者・修験者等が先達となり民衆への布教活動が大きく係わつてきていたからである。なかでも御師の活動は盛んであつたようである。

御師の活動 近世の中頃になると、庶民の社寺詣にかこつけた旅行も多くなる。この旅行はたいい講中をつくり、代表者を何名か送って代参するのが一般的であり、その指導勧誘にあつたのが御師たちである。御師は秋の収穫後受持の村々を廻り、御初穂料を集めて代参者の参詣などの打合わせをする。その代参講が近世末にはかなり多くなり、講中では鎮守の境内に石宮をつくり有名社寺を勧請して拠り所とした。その結果どの

村々にも遠方の神々の石祠があり、いまではどの神社の分社だか不明になつてしまつたのも多く見受けられる。

このような御師の活動は、神社や御師の財源にもなり、定例の外に社寺修覆や大祭などの資金勸化が次第に増加し、なかには偽御師の勸化まであり村人の負担となつてきた。その結果、村々では一定の御師以外は断る村議定までしている。一村だけでは断りきれないこともあり、連合村協定し排除することもでてきている。つぎに示す資料は、前橋藩向領三十三カ村議定書であるが、向領とは利根川右岸の旧群馬郡の前橋領で、文化十三年(二六)に三十三カ村の名主・組頭・長百姓が連署し、村々に入つてくる様々なねだりを排除しようとしたものである。全体が八カ条になつていて、その一条目に「近年浪人跡之者、旅僧、修験、瞽女、座頭並御師勸化僧、難船之者等多数徘徊致合力勸化、初穂等過分にねだり取候故」とあり、その六条目につきのような一文がある。

一御師之儀は

伊勢 津島 榛名 碓氷 鹿嶋 愛宕 戸隠 石尊

右之御師先規之通取斗可申候、譬先前参来之御師ニ而茂右之外百石ニ付三文差出可申候、何様申候共其余者差出申間敷候、且又新規之御師決而請不申候

〔総社町誌〕福島博家文書

右によると、この八社以外は百石に付三文以上は支出しない協定である。一般的にはこの八カ所は対象外として認められたのであり、これらの石祠が多く村々にあるのも古くからの御師の活動と結びついたからである。

右のうち、伊勢・榛名・鹿嶋・戸隠はよく知られているが、津島は尾張の津島牛頭天王社で、一般には八坂様として村々に勧請されており、伊勢参宮にはほとんどが津島参りもしている。伊勢参りだけでは「片参り」といわれ、両者をお参りしないとよくないとまでいわれてきている。碓氷は碓氷峠の熊野神社であり、石尊は相模の阿夫利神社である。石尊の場合は石祠よりも石碑や石灯籠などを造立した例が多い。

右の協定は榛名東麓の例であるが、県内各地で御師のくる神社が異なる。伊勢・津島は県内共通であるが、赤城・妙義・秩父三ツ峰などの多くの講社が結成されている地域もあり、各地の石祠の相違はそれを証明してくれる。代参講は御師の活動と関係深く、その講中により造立された石造物はかなり多いものである。

三、種 類

近世の石造文化財の大部分は信仰遺物であり、民衆の個人または集団により造立されたものであり、いわば近世庶民信仰の重要資料である。

道しるべ、石橋などは、一見信仰に係わりなさそうであるが、道しるべのなかには有名社寺への道しるべが相当ある。近世庶民の三十三番札所巡りがさかんになると、郡単位にまで三十三番札所ができ、人々は道しるべを必要としてきた。なかには渋川市八木原の道しるべのように伊勢や四国の金比羅まで示した天保四年(二三三)の道しるべがある。古いものには有名霊場を教えたものが多いのもそのためであろう。また、石橋架橋に伴った橋供養碑もある。中山道の豊岡と板鼻宿との境の享和二年(二〇三)の橋供養

碑は古くからよく知られている。

信仰遺物が中心であることから、近世石造物を大別すると、神道関係・仏教関係・記念物になろう。記念物も大部分は神・仏いずれかに大部分が入れられるので、二大区分により記すこととする。

神道関係

この種の石造物は石祠・石碑とその奉納品であり、なかには神仏習合時代のため神仏の両分野にまたがるものもある。庚申などは、青面金剛は仏教に属するが、庚申信仰は古く日本の山の神信仰の発展で、近世初頭には石宮の庚申が多く、修験などが深い係りをもっているので明確に区分し得ない。その結果、神道関係石造物は、近くの神、遠方の神、民俗信仰の神、奉納品に大別する。

近くの神

一応上野の国内に本社をもつ神々で、赤城神社・榛名神社・妙義神社・貫前神社・甲波宿弥神社などの石祠が多く、加茂神社や美和神社のような神々も上野十二社として古代から地方の本社のような役割を果たしてきているので土地の神とみてよいのではなからうか。鎮守の社殿裏に上野十二社の石祠が並んでいる例は各地にある。この種の石祠には、近くの山や川を祭神として祀る地方的な例も多く、利根郡地方の武尊神社、吾妻地方の白根神社など、近くの山を祖霊の山として信仰し、村里に石宮を造立してきたのである。

遠方の神

この種の神には、八幡・天神・八坂(牛頭天王)・鹿嶋・富士浅間などが多い。八幡神社は上野神明帳には登載されていないが、中世以来武神として源氏の守護神となり、やがて農業神としても広く信仰され

て伝播した。八幡神の多くは宇佐の本社からでなく鎌倉鶴ヶ岡八幡からの勧請のようである。屋敷神として八幡石祠をもつ家も相当多い。天神は元来怨霊信仰であり、菅原道真の霊を鎮めるため北野の神人団が祭つたのはじまるが、近世は道真を学問の神とし、子供組に天神待などが普及し、近世中期以後の寺子屋の普及とともに各地に祀られるようになった。八坂神社は夏越しの疫病除けの神として全県に普及し、一部宿場には市神として祀られている。これは尾張の津島神社からの勧請が大部分である。富士浅間神社は、富士講などの発展により全県的ではあるが邑楽郡地方には特に多い。館林の浅間神社の初山詣の信仰もあるが、高く塚を築いて祀るので水害に苦しむ地方の人々の生活が一層富士信仰を盛にしたのかも知れない。鹿島や香取の石祠はそう多くはないが、代参講が普及していたからであろう。この他熊野・春日・諏訪・出羽三山・相模の石尊様・秩父三峰・遠州秋葉などの神々が各地に見受けられる。

民俗的な神

この種の神々は、特定の本社をもたないが全国的に分布している神が多いものである。十二様・水神・地神・疱瘡神・道祖神・稲荷などがこの種の神としては多い。稲荷の場合は、伏見稲荷や笠間稲荷を本社としてそこから勧請したものもあるが、屋敷稲荷が代表するように地の神であり穀物神である。水神は本地は弁財天であるが、多くは石祠であり、宇賀神像や弁財天像は少ない。地神は東毛では大泉町小泉の社日様が広く知られ、渋川地方では堅牢地神として祀られている。道祖神は、中毛から西毛に多く、二神並列像か文字塔であるが、一神型も各地にある。特に榛名山周辺と赤城山南面に多く、板倉町などには二神并列型は一基しかなく、太田市でも文字塔三基、二神并列型一基の計四基しかない。

献納品 神社境内には鳥居・水盤・狛犬・唐獅子・灯籠・玉垣などの

各種献納の石造物がある。これらについては赤城の百足鳥居以外は大きな特色あるものはないが、高遠石工の作になる鳥居などが赤城村に多い。また、水盤では、渋川市の甲波宿弥神社の大蛇の形のものなどは特色がある。狛犬では碓氷熊野神社や粕川村月田の近戸神社などには中世にまで遡り得る古いものがあるが、他はすべて近世でそう古い銘のあるものも見受けられない。灯籠には赤城村宮田神社や妙義町の妙義神社に中世のものもあるが、他はほとんど近世であり、高遠石工の作が目立つ。また、世良田東照宮などには大名寄進のものもある。玉垣は有名神社は講中寄進が多いが、榛名神社の塩原太助奉納のものは広く知られている。

仏教関係

神道関係は祈願を主とするものが大部分であったが、仏教関係は供養のために造立された石造物がかなり多くなる。地藏信仰はその代表的なものであるが、宝篋印塔・回国塔などいづれも追善供養が大部分である。しかし、石像の多くは仏像であることから、仏教的立場で分類すると如来・菩薩・明王・天部・羅漢及び祖師像・供養に関する碑などに大別して概観することにする。

如来 釈迦如来・薬師如来・大日如来などが主で、なかでも薬師が古くから現世利益の仏として、厄除け治病の信仰から造立されてきた。願果しに奉納された小さな薬師像がまわりに沢山あるのもよく見受けける。釈迦如来は禅宗寺院では本尊に安置しているがそう多くはない。大日如来は修験や真言宗に多く尊崇された仏で、地方によってはかなり多い。渋川市内

だけでも四〇体近い大日如来の石像があり、赤城村では一八体ある。それに比べ新田町では四体、板倉町では四〇体、伊勢崎市では二体と文字塔四基である。この大きな地域差は、渋川市や赤城村では修験の影響が大きく、特に角田無幻などの影響が考えられる。また、板倉町の場合はほとんどの寺が真言宗であることにもよるのであろうか。一方伊勢崎に少ないのは、天台宗や禅宗が多く、真言宗の教線が弱いことが考えられる。

菩薩

観音・勢至・地藏が菩薩の代表的仏である。観音には多くの種

類があり、なかでも一番多いのは馬頭観音である。馬頭観音は元来三面六臂の忿怒像で、除魔の仏とされていたが、近世の信仰は馬を加護する仏として信仰され、愛馬の死後供養のために造立されたものも多い。伊勢崎市の場合、馬頭は一五六基で文字塔が大部分である。同市の三光町の嘉永五年（一八五三）の馬頭観音碑には「大館村付方中」など二〇カ村余の村名が刻まれており、問屋を中心とした交通業者や馬喰などの寄進であろう。馬が交通業者や農民にとつていかに重要な役割を果たしていたかを偲ばせる珍しい碑といえよう。しかし、地域的にはかなりの相違がある。赤城村の二八六基に対し、板倉町五基と少ない。平野部より山寄りが一層馬と人間の係わりの大きかったことを物語る。安中市下秋間の百馬頭も珍しい例であろう。地藏菩薩像は、全国的に平均して多い。中世以来地藏信仰が盛んになり、近世になると墓地の入口に六地藏を並べた例も多い。不慮の死者の霊を供養するための地藏を造立した例も各地にある。子持村双林寺と渋川真光寺境内にある寛永年代の六地藏石幢は、輪廻車孔をもつものとして、戦国時代以後ほとんどなくなつたなかに珍しい例であろう。元禄・享保の頃の六地藏石幢は各地で見受けられるが、輪廻車孔をもつものは見当らない。一



下秋間館の百馬頭 安中市

石三体・一石六体を並べたものもある。

なお、榛名山周辺には、榛名神社の本地仏である勝軍地藏が何体か見受けられる。その勝軍地藏が板倉町に一体あるのは珍しい。榛名神社とは特に係わりはなさそうである。また、この他菩薩界の像には虚空蔵・文殊・馬鳴などの菩薩も数は少ないが各地に見受けられる。虚空蔵は赤城信仰、馬鳴菩薩は養蚕と関係がある仏像である。

明王 不動明王・愛染明王・閻魔王・十王などが明王部の代表的な仏像であり、不動は修験と深い係りがあり、大日の変身として災難除去・治病の仏として古くから信仰され、修験の行場となる滝のあるところや山村に多く見受けられるが、元禄以前の作は少ない。珍しいのは尾島町安養寺の千体不動であろう。江戸浅草の石工による延享四年の作である。

十王・閻魔王は、地藏・奪衣姿とともにセットで造立されている例が多く、地藏十王経に基づくものである。中毛から北毛地方に多く、利根郡地

方では曹洞宗寺院の境内や墓地に見受けられることが多い。群馬町引間の十王堂(公開堂)には、近世初期の石像が一セット揃っている。

愛染明王は、紺屋の職人が愛染講をつくり祭る。高崎市下小鳥町の蓮華院が宝永五年(七〇六)であるから県下では早い例のようである。

天部 毘沙門天などの四天王・大黒天・摩利支天などがある。なかでも広く見受けられるのは大黒天であり、大黒講中により造立されるのが多い。甲子講も大黒



千体不動供養塔
尾島町安養寺明王院

天の神使が鼠であることから大黒講と同様である。五穀豊穡と福徳をもたらすとして信仰され、丸彫像が多い。県内では近世中期以後で、そう古いものはない。摩利支天像は修験者や剣を学ぶ人などに祭られる。吉井町馬庭念流道場の樋口家の庭に祭られているのはよく知られているが、

ほとんどが近世中期以後のものである。また、毘沙門天は忿怒相の武神像で、上杉謙信の深く信仰していた関係から長尾氏とも関係がある。伊勢崎市豊城町の蓮神社には室町時代の石像がある。同市には他に三か所も室町時代の石造毘沙門天像がある（『伊勢崎の近世石造物』）のは珍しい。長尾氏との係わりがあつたのであろうか。しかし、近世の石像は非常に少ない。

羅漢及び祖師像等

五百羅漢は川越市の喜多院が有名である。県内にも何か所かあり、藤岡市の七興山古墳の中段の五百羅漢は心ない者の仕業により頭部が欠けているのが惜しまれる。

祖師像では弘法大師像が多い。榛名町の室田地方から西には小字毎にあつたようである。二十一大師ともいわれ、二十一カ所に造立され、それを札所巡りのように巡拝したのであろう。特に真言宗との係わりはなさそうである。

供養塔・日待・月待塔

供養塔には經典供養・回国供養の塔が多い。

墓地には三界万霊供養塔や宝篋印供養塔が多く見受けられる。いずれも近世中期以後で、寛永期まで上るものはほとんど見受けられない。念仏塔も供養塔があるが、百万遍念仏・寒念仏などがあり、一字一石供養塔も数は少ないが各地に分布している。日待・月待塔では、十六夜塔から十七夜・十九夜・二十一夜・二十三夜塔などが県内にある。いずれもそう古いものはない。近世中期以後であり、その分布は既に記したように特色あり、十六夜・十七夜は希であり、十九夜は邑楽郡でも渡良瀬川よりに、二十二夜は中毛に、二十一夜は北毛に多い。それでも十九夜塔が松井田町や六合村・長野原町・下仁田町・南牧村などにも一〜二基見受けられるのは、古くは十九夜が西毛地方にまで広く信仰されていたのであろうと都九十九一氏は

いう。月待さ女人講が主で、月の上るのを念仏を唱えながら拝んだのである。庚申塔も供養塔の一種である。日・月を刻んだ日待講で、六〇日目、或は六〇年目にめぐってくる庚申の日や庚申の年を祭る講である。県下では桐生市川内町の千手寺庚申七面塔が古く、七地藏を龕部に刻み、上段の竿石に「奉大乘之部 石燈供養 六道能化地藏 薩埵尊容 現世安穩 後生善処也 天文十七年 戊申八月日 庚申七面塔 西小倉村旦那椅会座」（桐生市の文化財）とあり、地藏信仰と庚申信仰が合わさっている。庚申単独のものは寛永期からのものが何基かあり、群馬町引間諏訪神社境内の「寛永十年癸酉十月初日 奉造立石塔一基 庚申供養」とあるのは早い例であろう。一般に早い時期の庚申石造物は石祠型や塔型舟型光背石塔で、五重塔型は北毛地方に多く見受けられる。青面金剛像は寛文から享保期までのものが多く、東毛にすぐれたものが目立つ。千庚申は少例であるが百庚申は各地にあり、群馬町足門には嘉永三年（一八〇二）に一石百通りの書体で庚申と刻んだ塔もある。

庚申塔の造立は個人名のものも多いが、講中の一員として造立する場合が多く、庚申の年には特に多く造立されている。太田市の場合庚申塔二二五基中、寛政十二年（一七九〇）六六基、万延元年（一八六〇）八八基で、この二回の庚申の年に一五四基も造立された。

四、地方差・時代差

地域差

近世石造物は、その種類も多く地方的に相違の目立つものである。概していえば、数量的には神流川の谷は特に少なく、榛名山周辺が

最も多く、赤城西面から南面および桐生辺にかけて山寄りがこれにつぐ。

また、石造物の種類をみると、道祖神は東毛に少なく、中毛・西毛・北毛に多い。特に榛名山周辺は多い。また、十王石仏なども東毛に少なく、利根郡から赤城西面および北群馬郡・群馬郡などに多い。しかし、十九夜塔は館林市から板倉町にかけて多く、中毛・西毛・北毛にはほとんどない。一方二十二夜が中毛に、二十一夜が北毛に多い。

このような地方的に種類を異にするのに対し、全県的に多いのは庚申塔と馬頭観音と地蔵・回国供養塔などで、若干の濃淡はあるが全県下いたるところに見受けられる。また、数的には多くないが、どの地方にも何基かあるものには八坂・天神などの石祠がある。限られた特定の地域にあるものでは勝軍地蔵がある。堅牢地神の碑は渋川市を中心とする地方には少例ではあるが目につき、他地域には極めて稀である。勝軍地蔵は榛名神社の本地であるから榛名山周辺、特に吾妻郡地方にあるのは理解できるが、堅牢地神の場合ほどのように解したらよいのであろうか。関東天台の名僧尊海が弘安八年（一三六五）二月に記した起請文には

立申圓頓房尊海起請文事

右件元意者、被接の断位の法門相伝しまいらせしを、尊海の一期に補處弟子一人よりほかに、二人までにおしへず候。弘めをもし候ものならば、上は梵天帝釈をはじめたてまつりて、四禪八定五衆、下にはけんらう地神等、悉一切の諸神、惣者日本六〇余州大小神祇、とをくは十方三世一切の三尊の御はちを、尊海か身のうへにあたりて、現世にみやうがなくて、後世には三悪道におち申べく候、仍起請文帖如件。

弘安八年二月十八日 敬白

尊海判

（河田谷十九通）

とある。鎌倉時代の起請文にまで記された堅牢地神は、恐らく当時は地の神として広く一般に信仰されたものであろう。それが次第に忘れざられ、僅かではあるが渋川地方以外にも何基かその石碑があるのは、かつては広く一般的だったことによる。渋川市・子持村・赤城村など多く見られるのは、この地方の修験か特定の仏教徒などの指導があつたかと思われるが、古い時代は各地で祭られていたのが次第に忘れ去られ、一部近世末に復活したように考えられる。このような観点からみると、十九夜塔が板倉町に多く、遠く隔てた六合村や嬭恋村にあるのも、古くは全県的に十九夜の信仰があり、それが二十二夜・二十三夜の信仰に次第にうすめられていったのが中毛・西毛地方の月待信仰の変化ではなからうか。

つぎに、同一信仰のものでも、地方によりその石造形式の相違が見られるものもある。その好例は既に記した五重塔型の庚申塔が利根郡から北群馬郡地方に多いのがよく知られている。なお、庚申や道祖神は別項で詳述しているので参照していただきたい。

時代差

近世の石造物の造立年代をみると、その種類によつて時期に相違がある。近世初期から見えるものは、石殿・石祠・燈籠・道祖神・庚申塔などに早い例が見られる。石殿・石祠は群馬では南北朝時代からあり、近世初期のものも西毛地方ではかなりある。一般に草屋根風の寄棟造りに中世末のものがあり、流れ造りでは中世のものはほとんどない。しかし、入母屋造りや流れ造りの場合、棟の両端に鬼面を刻んだものが近世初期に見られる。主に寛永期を中心とした前後のころのものに多く、元禄期以後

は鬼面をつけた石殿・石祠はほとんどなくなる。木造の寺院建築を模したものであろう。

石灯籠も中世銘のものが県内にはある。近世初期に大名が東照宮などに奉納したのにならい有力庶民が社寺に奉納しはじめる。太田市別所の円福寺には大猷院殿前に高村撰津守忠房の寄進した慶安四年(二六五)の石灯籠があり、同市大光院には延宝二年(二七〇)の阿部播磨守正能寄進・元禄十一年(二六六)酒井下野守忠寛寄進などがある。庶民奉納では、新田町小金井の東雲寺に山崎兵左衛門寄進の寛文八年(二六八)があり、同町上田中の長慶寺にも寛文十一年の灯籠がある。これらは庶民奉納では早い例であらう。

元禄期になると各地に庶民奉納例を見かけるようになる。
道祖神・庚申については別項で詳述されるので省略するが、寛永期の道祖神は僧形であり、元禄期には坐り雛の形のものがある。烏川上流地方に古い道祖神が多く、抱擁型は十八世紀後半から見られるようになる。また、青面金剛像は十八世紀前半のものが多い。

つぎに総合的にみて、庶民の石造物を造立するのが一般的にいつ頃から多くなってくるのだろうか。十七世紀末から(元禄期)多くなるのが一般的であるが、本来道祖神や青面金剛像にど信仰対象の石神・石仏は、一度造立すれば滅失しない限り新たに造立しなくても足りるはずであるが時代とともに増加してくる。旧群馬郡四カ村の『府中資料集成二輯』では二十年おきに集計した表があるのでまずそれを示すと1表のとおりであり、資料の関係から約半世紀毎に『太田市石美術調査報告書』と『赤城村の石造物』をまとめると2表のとおりとなる。十七世紀後半から増加し、更に十八世紀後半には急増している。それは庶民の力が次第に大きくなるのを数的も

に表現されたものとみてよいのではなからうか。この近世石造物の増加と反比例になるのが農村人口の減少であり、それは農民の消極的反抗を示す

表1 旧群馬郡四町村の近世石神・石仏年代別集計表

年代	種別											
	庚申塔	道祖神	二 夜 二 塔	馬頭尊	廻 供	国 養	八 神	坂 社	念 養 納	供 納 経	その他	計
寛永以前	1	0	0	0	0	0	1	1	12	15		
寛永以後一貞享4	7	0	0	0	0	0	0	2	11	20		
元禄元一宝永4	3	0	0	0	0	0	0	4	2	9		
享保13一延享4	9	3	0	1	5	0	19	6	43			
寛延元一明和4	3	8	2	2	6	0	15	6	42			
明和5一天明7	3	5	2	6	7	0	17	13	53			
天明8一文化4	16	3	5	2	3	3	5	9	46			
文化5一文政10	8	1	4	4	3	0	3	10	33			
文政11一弘化4	10	2	8	3	1	1	1	9	35			
嘉永元一慶応3	20	2	4	8	3	2	1	18	58			
明治元一明治20	2	0	1	5	0	0	1	17	26			
明治21一明治40	12	0	0	0	0	1	1	11	25			
明治41一大正15	9	0	1	7	1	2	2	4	26			
昭和元年以降 年号不明	21	1	0	0	0	2	2	5	31			
500	17	3	14	3				98	652			
合計	631	44	31	53	42	17	100	236	1,154			

* 旧群馬郡4町村は清里村、金古村、国府村、総社町で、区分は明治元年を基準とし、20年隔年で集計した。

表2 村別、年代別近世石造物比較表

年代	赤城村	太田市
元和元—明暦3 (1615 — 1657)	11	2
万治元—元禄14 (1658 — 1703)	48	74
宝永元—寛延3 (1704 — 1750)	151	271
宝暦元—寛政12 (1751 — 1800)	362	409
享和元—嘉永6 (1801 — 1876)	308	255
安政元—慶応3 (1854 — 1867)	133	164

※ 本表は『赤城村の石造物』・『太田市石造美術調査報告書』の年号別集計表から約50年間隔にまとめた。年号別集計では長期のものとの差が大きく、傾向をつかむのには適当でないため集約した。

のであり、幕藩体制の封建社会が次第に崩れかけたことである。石造物造立の増加は庶民勢力の伸張を示すものといえよう。まして道祖神などのよ

うにユーモア的表現が増加してくるのは一層それを感じさせられよう。

五、石工

石工と刻んだ石造物は中世にはほとんど見受けられず、石大工・大工と刻まれている。当時は梵鐘や懸仏を鑄造した職人も大工であり、大工とはそれぞれの職人の頭の称である。榛名山墓地の暦応四年（三〇三）の石造宝塔には「大工吉宗」とあり、赤城村宮田神社境内の嘉吉三年（四〇三）の石燈籠には「大工道心」とある。

中世の上州の石大工は、当然近世へその技を伝えたであろうが、伊派の技術が伝えられたことが考えられる。伊派は、鎌倉時代初期に東大寺大仏殿再興に従事し、その子伊行吉とともに活躍して伊派は各地に伝播した。その伊派の石大工たちは「行」「吉」などの一字を名に加えることが多く、榛名山墓地の宝塔などはこの伊派かとも考えられる。すぐれた中世石造物にはこの伊派の系統かと思われる関西風のものも見受けられる。

近世になると、庶民の造立による石造物が急増する。しかし、中世以来の石大工の系統をうけた上州の石工たちも相当いたのであろうが、上州で生まれた石工集団といえるものは見当らない。江戸や信州の石工集団の影響が強かったようである。

江戸石工 江戸の石工集団は、江戸城の築城と大いに関係がある。徳川氏は太田道灌以来の江戸城を文禄元年（一五九二）、慶長九年（一六〇四）から寛永十三年（一六三六）にかけて大規模の拡張工事を行っている。このとき、全国各地から石工を江戸に集め、石材などは諸大名に命じて江戸に輸送させている。

伊豆方面からも大量に海上輸送されたようであるが、上州からも利根川の水運により石材輸送がなされた。前橋市下大屋町の産泰神社境内には江戸城の石を截出したと伝える場所があり、社殿東北の境内地に人工の崖がつくられている。

このように江戸城修築に集められた石工たちは、城の完成後も日光造営をはじめ各地の徳川氏をはじめ大名の社寺修覆があり、そこに献納する石燈籠や鳥居の製作にあたった。その為江戸には石工集団が形成され、関西から来た石工は和泉屋、伊勢屋などという石工集団をつくり、江戸に本拠を構えた。その江戸石工の集団は、当然上州へも大きく影響し、近世石造物に江戸石工の名が比較的早い時代に見える。

県内の江戸石工の作例をみると、東毛から中毛にかけて見られる。館林市の茂林寺境内元禄三年(一六九〇)の銅製聖観音像の台石には

従江戸運石其外指図

川俣村 金右衛門重春

江戸松屋町 泉屋助右衛門

〔六郷・三野谷の石仏〕

とあり、この聖観音寄は有名な高瀬善兵衛の関係者によるものである。

また、甘楽郡妙義町の妙義神社本社前の石垣中央の銘文には

延享甲子六月

石階造修工匠武州江府靈岸島近藤利兵衛

とあり、同社の宝暦六年十二月一日の棟札は

信州高遠石切 二六人

江戸石切 一人

とある。県内で最も見事な石垣といわれる妙義神社の石垣は、古くは江戸石工により、後に高遠と江戸とあるから、江戸石工の得意とする城郭風の立派な石垣が完成したのであろう。『太田市石造美術報告書』には、小舞木の円養寺の正徳元年(七二二)の地藏菩薩像が「江戸浅草石 石工五郎兵衛」とあり、『伊勢崎の近世石造物』には、宝暦十二年(七六三)の昭和町天増寺地藏丸彫像台石に

宝暦十二壬午歳六月廿四日 天増寺現住万機代

尊像世話人 武州堤村 戸矢三良左衛門

石工 江戸北八町堀 和泉屋 治良右衛門

とある。この外尾島町安養寺の千体不動(延享四年)、前橋市下大屋町産泰神社の水盤などが知られている。

以上からみて、江戸石工は近世中期以前の作が多く、有名社寺などに奉納する石造物や工事などが主のようであり、城郭の石垣技術を生かしたものが多かったのではなからうか。安養寺の千体不動などは、ピラミッド状に組み上げられたものであり、妙義神社の石垣はよくそれを物語る。また、江戸石工の作品分布は、主に中毛から東毛のようであり、江戸中期以後は信州高遠石工や上州在地の石工たちが発展し、特殊な社寺に限られたよう

である。なお、小花波平六氏研究による近世末の江戸石工十三組の表を参考までにつぎにあげておこう。

江戸石工十三組	
1 本所組 二四人	本所新坂町山口屋平四郎ほか
2 浅草組 二八人	浅草観蔵院門前真間田屋忠左衛門ほか
3 柳原組 三一人	浅草万蔵寺門前和泉屋九兵衛ほか
4 筋違組 二六人	神田旅籠町和泉屋与四郎ほか
5 谷中組 一四人	自性院門前和泉屋安兵衛ほか
6 駒込組 一三人	小石川和泉屋五郎兵衛ほか
7 市ヶ谷組 一七人	牛込原町平田屋四郎右衛門ほか
8 四ツ谷組 二三人	四ツ谷伝馬町遠州屋清兵衛ほか
9 麻布組 二二人	麻布六本木高井屋五郎兵衛ほか
10 伊皿子組 九人	伊皿子町伊勢屋与兵衛ほか
11 芝組 八人	三田四丁目遠州屋八左衛門ほか
12 八丁堀組 四二人	京橋東石田屋左右衛門ほか
13 深田組 一一人	深川平野町岩槻屋源兵衛ほか
合計 二六八人	

〔伊勢崎の近世石造物〕 八三八頁

高遠石工 江戸石工が近世領主と結ばれて比較的早くに上州へ進出したのに、高遠石工が上州で活躍するのは一時代遅れてからのようである。それは、近世庶民勢力が台頭する江戸中期からで、上州にその作品が残っているものでは富岡市七日市の金剛寺北入口の「高遠町 石屋 上原甚兵衛」と刻まれている元禄四年(二六二)の名号塔が最も古いといわれ、享保期

になるとその作例が多くなる。

群馬県で高遠石工に早く注目していたのは住谷修氏である。昭和二十五年に住谷修・榎田宏・阿久津宗二・近藤義雄が国府村・金古町・清里村・総社町の旧四町村の石神・石仏を調査し、府中資料集成第一集「郷土信仰資料篇」(近藤義雄編)として刊行した際、高遠石工の上州進出について話しておられた。その解説にも注目すべしと記されている。その後同氏は各地の高遠石工の作例を調査され、現在は相当多くの高遠石工の作例を記録されている。なお、府中資料集成のなかにも、金古町四ツ家常仏寺入口の文化十二年の二十二夜塔に「石工 信州高遠 御堂垣宿 中屋太蔵」などが記録されている。その後県内の町村誌や県教委の民俗調査報告書・「勢多郡誌」編纂過程でも多くの人々が高遠石工の上州進出について注目するようになった。近年今井善一郎氏が『群馬歴史散歩』一〇号(昭和五十年)に信州高遠石工のリスト作製を提案し、以後同誌に各地の報告が散見し、『伊勢崎の近世石造物』には板橋春夫氏の小論が掲げられているのが注目される。

以上が群馬県下における高遠石工研究の歩みであるが、一方高遠の地元の研究者たちも『貞治の石仏』刊行以来『高遠町誌上巻』に大塚省悟氏が群馬県下の高遠石工の分布図や多くの作例を紹介している。今回の県内近世石造文化財の悉皆調査では、更に作例が多く記録されているので活用していただきたい。

群馬県下における高遠石工の進出状況を見ると、西毛から中毛地方に多くその作品をみることが出来る。既刊の市町村別石造文化財調査報告からみると、板倉町には高遠石工の作例は一基もない。館林市『六郷・三野谷

の石仏』には、文化六年(一八〇五)と天保十四年(一八四三)に灯籠が二例あるだけで、『太田市石造美術調査報告書』には、別所円福寺境内の千手観音像に「石工信州高遠領北原村北原九兵衛信行作」とあるのが一例だけである。但し、円福寺の安政二年(一八五〇)の水盤に「境町石工北原玄番好視・朽木常吉」とあるのは、境町に住みついた高遠石工であろう。高遠石工の上州進出は太田辺が一応の境界のようである。

一方西上州にはその作例が多い。『赤城村の石造文化財』には、享保三年(一七二〇)の青面金剛像を初発に、銘文の明らかなものだけでもつぎの一七基がある。

- 1 青面金剛像 享保三年 溝呂木クラブ入口
〔信州高遠 保科安之丞作〕
- 2 青面金剛像 享保七年 上三原田蟹谷戸地藏塚
〔信州高遠領 石屋彦四郎〕
- 3 青面金剛像 元文元年 津久田高科十王堂
〔石屋 信州高遠 安三郎〕
- 4 鳥居 宝暦三年 津久田赤城神社
〔石工 安兵衛〕
- 5 鳥居 明和四年 津久田西谷稻荷神社
〔石工 新助〕
- 6 鳥居 安永九年 長井小川田清水
〔石工 高遠 伊藤新助〕
- 7 鳥居 天明七年 津久田八幡神社
〔石工 伊藤新助 同新五郎〕

- 8 鳥居 寛政三年 長井小川田八幡神社
〔石工 伊藤新助〕
- 9 鳥居 寛政八年 勝保沢諏訪神社
〔石工 伊藤新助〕
- 10 灯籠 寛政六年 溝呂木諏訪神社
〔信州高遠住 石工 伊藤新助重信〕
- 11 灯籠 文化八年 津久田八坂神社
〔信州高遠野田笹村 保科要蔵〕
- 12 灯籠 文化八年 長井小川田八幡神社
〔石工信州高遠 伊藤平左門〕
- 13 灯籠 文化十二年 敷島高瀬六〇―三
〔石工信州高遠 保科要蔵〕
- 14 宝篋印塔 安永五年 津久田小池原観音堂
〔石工 信州高遠彌勒村 新助 直七〕
- 15 宝篋印塔 寛政元年 溝呂木天神上り墓地
〔石工 高遠彌勒村 伊藤新助 同友八〕
- 16 宝篋印塔 文化元年 溝呂木大蓮寺墓地
〔石工 信州高遠 源蔵 次兵衛 政孝〕
- 17 宝篋印塔 文化七年 津久田北原青木家墓地
〔石工 信州高遠住 飯塚源蔵 同政吉 同庄蔵〕

以上のように赤城村では享保期からはじまり、初期には庚申の青面金剛像などを彫り、ついで鳥居や灯籠・宝篋印塔となっているが、寛政以後が多く、保科・伊藤・飯塚などの石工が多く入ってきていたようである。この他石工銘のないものの中にも、信州高遠の石工の作は多くあったと考え

られる。この地方は江戸石工の作例は全く見えていない。

つぎに『甘楽町の石仏』からその例をみると、ここでは地蔵菩薩像が早くに彫られ、近世後期に宝篋印塔が彫られている。

- 1 地蔵菩薩 享保九年 中佐久間善龍寺跡
「信濃国中伊奈郡高遠 藤沢栗木村 願主 北原源太郎 同武兵衛 同勝左エ門」
- 2 地蔵菩薩 明和四年 町屋葉師堂
「願主 高遠栗木村 北原七郎治」
- 3 子育地蔵 天保十三年 天引向陽寺
「信州伊奈羽廣村 宮下与兵衛」
- 4 宝篋印塔 寛政二年 国峰興嚴寺
「信州高遠栗田 石工 北原七郎治宗清」
- 5 宝篋印塔 寛政二年 国峰興嚴寺
「信州高遠中伊奈郡栗田村 北原平次宗清」

などがある。ここでも近世後期には宝篋印塔が彫られている。

『伊勢崎の近世石造物』をみると、近世石工銘のあるもの二九基中、高遠石工と刻まれたもの一五基、石工名からみて高遠石工と考えられるもの三基で、合計一八基も高遠石工の作である。種別は地蔵二、宝篋印塔三、庚申二、馬頭観音二、石祠二、他に鳥居・石灯籠・聖観音・二十二夜塔・観音塔・手洗石・天道念仏塔などである。ここでも地蔵は寛保元年（七四）と早く、宝篋印塔は寛政十一年（二九）が最も早い例である。石工は北原・保科・西村・伊藤・宮下・高見・中山・高嶋・湯沢・中村・山崎・大谷などの姓が見受けられるが、北原村の石工が早くから県内各地に入っていた

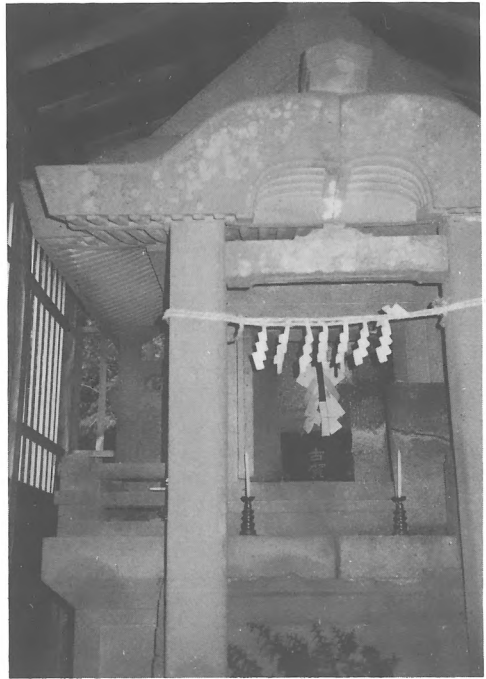
ようである。

このように高遠石工は親子何代にもわたり上州に入ってきていて、多くの優れた作品を残しているが、その作風は極めて特色があり、一見木彫風の繊細な彫りである。特に植物の葉や花の彫りに特色がある。木彫風といえば、石殿・石祠などには木造建築のように細部まで彫刻したものがあり、なかでも吾妻郡吾妻町の古賀良山神社などは、大きな石殿で袖障子の彫りものでした見事なものであり、さながら木造社殿を思わせる。また、渋川市行幸田の駒形社も大きさといい細部の彫りといい見事で、何れも高遠石工の作である。西毛地方の近世後期の宝篋印塔には高遠石工の優れた作品が多く目立っている。また、江戸城の石垣の石を切出したと伝えられる前橋市下大屋町の産泰神社境内には、江戸石工に対抗するかのよう大きな灯籠を高遠石工が彫んでいる。なかでも参道脇の高灯籠はその大きさをらみても県下最大級であり、灯籠を支える鬼の彫刻も見事である。総じて高遠石工の作品は木造建築や木彫を思わせる。そう見ていくと、高遠石工の銘の刻まれてないものにも、高遠石工の作と考えられるものがかかり多いのではなからうか。

ところで、これら多く上州入りした高遠石工たちは、やがて上州に定住した者も多かったと考えられる。先に記した太田市円福寺の水盤銘には、「境町石工北原玄番」とある。近世後期には多くの北原を名乗る高遠石工が上州へ入ってきているので、佐波郡境町に定住したのであろう。『伊勢崎の近世石造物』には、太田町小暮家墓地の安政四年（二五）の地蔵菩薩石台に「石工 信州 高遠領的場村産 本州伊勢崎住 大石市太郎」とあり、嘉永二年（二四）の曲輪町同聚院の宝篋印塔には「本国信州伊奈郡高遠領北

原邨住出店当国佐位郡境町 石工 北原復祐好祖」とある。これらの人々は境町に出店しても高遠の石工として作品を刻み、大石市太郎のように「伊勢崎住」と上州の住人となったことを表現したものもある。

このように多くの上州入りした高遠石工たちは、上州に定住しても同郷の石工職人として講中をつくり、互いに高遠石工としての誇りを堅持し続けたようである。それを物語る作品が安中市原市八本木地藏堂境内の丸彫の聖徳太子孝養像である。この像も見事であるが台石には関東入りした高遠石工の名が数十名名を連ねて刻まれている。その所在と氏名を示すとつぎのようであり、西毛・中毛・北毛から北武蔵にまでおよんでいる。高遠石工の発展を示す好資料といえよう。



古賀良山神社本殿
吾妻町大戸

□	水	勝	新	高	荒	藤	荒	野	板	中	八	木	弥	黒
□	上	間	田	崎	塚	塚	塚	口	山	坪	幡	下	勒	沢
伊	唐	小	相	秋	鍛	金	矢	伊	伊	伊	藤	小	赤	
□	澤	松	澤	山	冶	井	澤	藤	山	山	森	林	羽	
□	倉	政	小	馬	屋	久	松	豊	庄	清	吉	榮	嘉	
□	之	藏	右	太	與	之	太	三	左	兵	弥	次	傳	
□	助		工	郎	六	亟	郎	郎	工	衛		郎	治	



聖徳太子孝養像
(安中市八本木 地藏堂境内)

非持山 保科 田代
長岡 向山 筆五郎
彌勒 廣瀬 為藏
勝間 湯澤 八百太郎
牧西 武田 八百藏
市四 崎山 佐七郎
非持 中山 安五郎
青嶋 北原 豊藏
櫻井 若林 重藏
尾嶋 伊藤 晋七
北越 後井 伴藏
藤澤 北原 勇吉
境村 中村 治石門
北原 助石門

□町
中村 北原 安□
水上 赤羽 菊藏
野口 矢澤 十郎左門
講元
本前 野宮 下 政吉
野口 北原 市五郎
傳安 馬町 中 伊藤 彌右工門
大園 唐澤 龜吉
垣御 外堂 田中 傳左工門
傳馬 伊藤 嘉吉
野笹 保科 勝藏
中坪 古太郎

天保六年歲
次乙未冬十一
月
信州伊奈
石工講中
満福寺現任
俊澄代

柏越	野口	荆口	中坪	小出	上棚	中後	高梨	長岡	磯部	福島	行田	垣外
崎後	向山	北原	向山	平澤	鳥山	関	子	金子	堀口	井口	清水	藤澤
田端	山民	岩藏	政吉	瀧三郎	常藏	佐五郎	國太郎	仁兵衛	直次郎	卯之松	水大十郎	徳兵衛
常藏		吉										

武州羽生町細工人
関口余次郎置虎

上州の庚申塔と日待・月待塔

今 井 英 雄

- 一、はじめに
- 二、庚申塔
- 三、日待塔
- 四、月待塔

一、はじめに

石造文化財総合調査で、県下七〇市町村から集約された庚申塔及び日待・月待塔の数は別表のとおり膨大な数である。

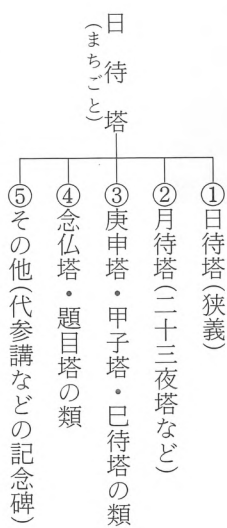
本書で扱う庚申塔・日待塔・月待塔は広い意味の日待塔と考えられる。

「日待」とは、同一村落共同体などの同信者が仲間を組み、特定の日に集まり、夜を徹して籠り明かすことである。同一村落内の同信者は、一般に「講」を作り、特定の場所を宿とし（講員の家を輪番で宿とするのが一般的）仏ほとけ又は神を祀り、供物を供えて礼拝した後、一同で食事をし深夜まで談笑したり、時として徹宵して散会するのを例としている。

これらの「まちごと」は、その初期においては極めて宗教的色彩の濃いものであったが、次第に娯楽的要素が強まったとみられる。

日待は二つに大別できる。その一つは甲子・庚申・己巳などの日に大黒天（大國主命）・青面金剛（猿田彦命）・弁才天（弁財天）などを祀ったり、十日・二十二日・二十三日といった特定の日に、特定の場所に集まって月の出るのを待つといったものである。その二は、前夜から特定の場所に仲間が集まり、徹宵して日の出を待ち、太陽を拝する行事である。元旦の初日の出を拝する習慣もこの行事の一形であろう。

いずれにしても、これらの多種多様な日待の行事の記念物として、あるいは信仰の対象物（供養塔）として造立されたものが「日待塔」である。庚申話会編『日本石仏事典』によれば、日待塔を「まちごと」として次のように分類している。



本書では、便宜的に③のうち庚申塔を独立して取扱ひ、①及び③のうち庚申塔を除くものを日待塔、②を月待塔とした。

なお、④及び⑤まで日待塔に含めることについては検討の余地もあろう。



① 三戸塔 三戸絶彭処 (元文5)
藤岡市立石寺
「守庚申会記」

本書では、これらを除外し、別の機会にゆずることとした。
紙数の都合で報告された全ての塔を登載できなかったが、統計処理は報告された全てを対象にし、別表として掲げたので県内の庚申塔・日待塔・月待塔の全容は把握できると思う。

二、庚申塔

庚申塔は、六〇日ごとに巡ってくる庚申かのえさるの日の夜に、講中の人々が一堂に会し夜を徹して食事をし(大食を良とする)、話し合い、人体中にある「三尸虫」が天帝(帝釈天とされる)にその人の罪過を告げにくのを防げる日待行事である。この所謂「三尸説」は、古く奈良時代以前に中国から伝来した道教の教えによるとする説が一般的である。奈良・平安朝の貴族の間で「守庚申会」が催されたことが諸文献に見える。

三尸とは、「彭候(偃)尸」、「彭常(質)尸」、「彭矯尸」のことであり、これが人の身中にあるその人を短命にする。特に庚申の日には、その人の睡眠中に昇天して天帝に人の罪過を告げて記録し、生命を縮めようとする。従って長命を願う者は、庚申の夜は身を慎み、眠らずに過ごすことにより三尸の昇天を防げることが肝要である、とするのが道教の経典の説くところである。これを守庚申または守夜庚申といい、「三守庚申三尸振伏、七守庚申三尸長絶」と説かれていたのである。「三尸怨」、「絶三彭罪」等の塔が県下各所に造立されているのは、この思想に基づくものであろう。また、多野郡新町の諏訪神社境内、勢多郡粕川村西福寺境内等にある「守庚申会記」は、古い形のいわゆる「守庚申会」を伝えるものであろう。

しかし、われわれが平常目にする庚申塔は「守庚申」とは別の信仰に基づくものである。「講」を結成し、青面金剛の軸を飾り、徹宵の供養をするという形の「庚申待」が始まるのは室町時代中期以後とされる。これは、仏教系の青面金剛を庚申の主尊とし、「供養」という形の宗教行事として一般庶民の間に浸透していったものであり、供養塔としての庚申塔の造立が開始されたのである。そして、その陰には、修験者や富士浅間社の「御師」の活動があったことがわかっているのである。

現存するわが国最古の庚申塔は、埼玉県川口市実相寺にある文明三年(翌二)の庚申板碑であり、本県においては桐生市小倉の天文十七年(一五四八)の七面庚申石幢が初例である。『日本石仏事典』によれば、わが国の中世庚申塔は、表(1)の如くであり、この表で見る限り、庚申塔の発生は関東南部と思われ、その時期は十五世紀後半と考えるとよいようである。

ところで、富岡市中高瀬に次のような文字庚申塔がある。

表(1) 慶長以前の庚申石造物(『日本石仏事典』より)

	九州	中国	近畿	中部	関東	地方
合計	鹿島 宮崎 熊本 大分 佐賀	岡山 広島	和歌山 三重 奈良 大阪	長野 岐阜	神奈川 栃木 群馬 千葉 東京都 埼玉	都府県
一七〇	一五五 一四五 一四五 一四五 一四五	一一	二二三 二九 一四	一	二一三 一八 一六 五七	合計数
文明三(四七)	大永二(五三) 天文二(五三) 明応八(四九) 天正六(五七) 天正十一(五八)	天文五(五三) 天正七(五七)	慶長三(五九) 慶長二(五七) 弘治元(五五)	天文十四(五五)	天文三(五四) 不明 延徳四(四九) 長享二(四八) 文明三(四七)	初出年(西暦)
四〇					一〇 二 二八	山王二 十一仏

青面金剛明王 大宝元年辛丑人日庚申 五十 高瀬保
 天王寺大僧正重善傳流 余人 講中 〇〇

人 日 一月七日
 天王寺 四天王寺
 高瀬保 高瀬村 ほどの意



② 千手寺の七面庚申石幢(天文17)
 桐生市川内町 小倉

即ち「大宝元年」は、摂津国(大阪市)四天王寺の庚申縁起に基づく「青面金剛出現」の年なのである。無論、四天王寺庚申縁起が説く「大宝元年、青面金剛出現」は俗説であろうが、寛政十二年(一八〇〇)前後に、富岡市高瀬地区の有識者の間では、四天王寺庚申縁起が一種の教養となっていたものと思われる。その意味で「大宝元年」は実年代を越えた「銘文」と見

大宝元年(七〇一)の造立銘をもつということで以前大いに話題になったが、「偽銘」であるということで一応の結着をみたようである。大宝元年銘が偽銘であることに異論はないが、実はこの塔から南西方向へ一棧ほどのところ(同市上高瀬)に次のような文字庚申塔がある。

(表) 庚申供養塔 當村 講中

(裏) 寛政拾二庚申年夏卯華月日造敬
 大寶元庚申年正月七日庚申日御出現
 但當歲迄二千一百年也

られ、「大青面金剛明王」と同様の意味を持つと考えてよからう。

かくして本県における庚申塔の初現は、桐生市小倉の七面庚申石幢といふことになった。また、大間々町浅原の元亀四年(一五四三)の七仏輪廻庚申石幢一对がこれに次いでいる。次に、両塔の銘文を全文掲げておく。

○桐生市川内町小倉千手寺 七面庚申石幢

「奉大乘六部 石燈供養彫 六道能化地藏薩埵尊容 現世安穩後 生善

処処 天文拾七年 戊申八月日 庚申七面塔 西小倉村旦 那椅会座」

○大間々町浅原馬場 七仏輪廻庚申石幢

「奉造立六地藏庚申供養 朝原村本願弥左衛門人数四十一人也 于時元

亀四年癸酉八月吉日」

庚申塔の種類 庚申塔ほど種類の多い石造物も珍しいのではないか。

分類すれば表(2)のようになるだろう。

表(2) 庚申塔の種類

文字塔		庚申文字塔
青面金剛文字塔	青面金剛・青面尊・青面金剛明王・青面金剛尊・青面王・青面金剛童子・大青面王・大青面金剛明王・大青面尊・奉供養青面金剛塔・青面金剛王・大青面金剛宝塔など	庚申・庚申塔・庚申碑・庚申神・庚申供養・庚申供養塔・かうしん奉造立庚申二世安楽・庚申尊・百庚申・五百庚申・千庚申・上章涪灘・上章涪灘塔・ <small>不_レ_レ_レ_レ</small> など
猿田彦文字塔	猿田彦命・猿田彦大神・猿田毘古大神・猿田毘子大神・奉勸請猿田彦大神・左留田比古・大田神・都波岐大神・岐神八衢神・大元尊猿田彦大神・事勝神・千勝神など	

梵字塔 狛犬など

三尸塔他 帝釈天・帝釈尊天・大帝釈天・三尸怨・三尸絶など

青面金剛像 一面二臂・一面四看・一面六臂・一面八臂

猿田彦像

如来像 釈迦・大日・阿弥陀・葉師など

菩薩像 如意輪観音・聖観音・馬頭観音・地藏など

天部・明王像 帝釈天・不動・閻魔

その他の像 道祖神・猿像(一猿・二猿・三猿)など

層塔 二層・三層・(四層)・五層
 石殿・石祠 ○層塔・燈籠・石幢などの中に対をなすものあり。
 宝塔・多宝塔・宝篋印塔 ○集合体として百庚申・五百庚申・千庚申
 燈籠・石幢・石臼(板碑) などがある。

文字塔は総計九、二六九基(百庚申中に含まれるものは除く)報告されている。うち「庚申」「庚申供養塔」などの庚申文字塔は八、二一七基で八八%を占めている。「庚申」の表現方法も、楷・行・草・隸・篆の五体の漢字によるもののほか、かな書きのものや梵字で音を写したもので、多種多様である。(図参照)「青面金剛」「青面金剛明王」などの青面金剛文字塔は六四〇基(七%)。「猿田彦命」、「猿田毘古尊」などの猿田彦文字塔は二二四基(三%)となっている。(別表参照)

像塔は総計一、二五二基であり、うち青面金剛像一、一九〇基(九五%)と圧倒的な数である。



榛東村広馬場上サ琴平宮



小野上村村上古城台



前橋市川原町市杵島神社

義軌による青面金剛像は、一面三眼四臂となつてゐるが、一面六臂像が圧倒的に多く、四臂像がこれに次ぎ二臂像・八臂像は希少である。また、青面金剛像の分布については、巻末の分布図に見る通り東毛地方に濃密であり、美術的にみてもすぐれた作品が多いように見受けられる。

青面金剛以外の像塔で目立つのは地藏菩薩像である。独尊の場合と六地藏のように集合体で表現される場合が見られる。

太田市から報告された庚申像塔の中に一風変わった庚申像がある。板碑様の碑面上部に二鶏、下部に二猿を配し、中央に僧形合掌立像を刻み出したものである。（口絵参照）僧形の像が何であるか不明確だがひとまず地藏尊像としておく。『群馬歴史散歩』第四〇号（庚申特集号）の中で小花波平六氏がこの像についてふれている。「上部に二鶏下部に二猿で中央に長袖の

衣をまとう合掌像を刻む寛文期の塔が太田市付近で見られる。（中略）この珍しい像を刻むのも群馬の特色であり、青面金剛が出現してくる前の状況を示す貴重なものといえよう。」

調査票で見ると、計一四基の「地藏像」が示されており、うち一〇基に紀年銘がある。初出は寛文六年七月銘の同市茂木正願寺のもの、そして延宝二年十一月銘の同市寺井聖王寺の塔を最後に忽然と姿を消している。この間八年余である。太田市における青面金剛像の初出は寛文十三年（同市三ツ堀常盛庵跡）であるから、小花波氏の説も首肯されよう。

猿田彦像は本県においてはきわめて数が少ない。猿田彦塔（文字塔・像塔）の総造立数二二三基中わずか六基で二・六％にすぎない。代表的なものを二、三例示しておく。

(1) 勢多郡東下田沢字津久瀬所在の「元文二天巳十月吉日」銘のあるもので、尖頭角柱に猿田彦像を刻み出す。高さ九八セ、幅三〇セ。

(2) 太田市上田島鳥ヶ谷所在の「万延元年庚申九月日、施主加藤、猿田彦大神」の銘をもつもので、板状石に猿田彦像を刻む。高さ九八セ、幅二九セ。

(3) 利根郡水上町藤原栗沢所在の「紀元二千五百三十六年一月吉日、猿田彦大神・道祖神・開運神」の銘を有する。板状自然石の表面を平滑に磨き、中央に大きく線刻の猿田彦像を描く。高さ五四セ、幅三〇セ。

石殿型庚申塔は一六二基が報告されており、県内各地に分布しているが、強いていえば東毛地方に稀薄である。形状からみると「流れ造」型が多いように思われ、次いで「宝形造」のいわゆる石堂形が目につく。他に入母屋造などもみられる。おおむね一猿又は二猿を配し、一鶏又は二鶏を付



③ 石殿型庚申（寛永2）
安中市八本木 地藏堂墓地

す。三猿付は年代的に新しいとみられる。

層塔型庚申塔は北毛地方を中心に計七二基報告されている。二層・三層・四層・五層塔が見られるが、二層・四層はもと三層・五層塔であった可能性がある。各層に日月、二猿、二鶏を配するものが多く三猿付もあるが時代的には新しいものである。

石幢（燈籠）型庚申塔は計五二基報告されているが、後述のように近世前期に造立が集中している。また県下最古の庚申塔は石幢形であった。石幢は六地藏を付した重制のものがほとんどで、輪廻車を有するものもまれにある。（大間々町浅原の七面庚申石幢）

独立の燈籠型はきわめて稀少である。百庚申や庚申塚などの「莊嚴」の施設として造立される場合が多いようである。

百庚申・百観音・千体地藏・千体不動など、数の多きを「吉」とする風

は古くからある。庚申塔の場合、講中が発願して、然るべき場所を卜して百基の庚申塔を造立する例が各地にみられる。百庚申の形態は種々あるが、基本的には、①「親庚申」を中心に計百基（百一基）造立する場合、②古い庚申塔の建つ場所（庚申山・庚申塚などと呼称されていたと思われる）に、ある時期百庚申を造立し、その後も近くの講中により造立が行なわれ、百基を越える数の庚申塔が林立している場合、③一石に庚申（青面金剛・猿田彦命）の文字を書体を変えて百通り刻む「一石百庚申」「一碑百庚申」と称する場合などに大別できよう。本県内の百庚申（③を除く）の造立数は一七五カ所である。そこに造立された庚申塔は一万一千基以上である。（調査票の記載方法にばらつきがあることと、倒伏したり埋没したり山積みになったりして正確な数が確認できず、「計数十基」「多数」「八〇基以上」のような記載とならざるをえなかったことなどに起因する）。

百庚申の造立年代は江戸時代後期に片寄っている。前橋市を例にとって「造立年代を考察してみよう。」

前橋市内の百庚申は十二箇所報告されており、その内容は表(3)の通りである。

初出は寛政九年で、寛政十二年の庚申の当り年に二カ所、万延元年の庚申年に三カ所、その間（六〇年間）に四カ所造立されている、不明の三カ所もほぼ同時期と推定されるので、全て寛政期以後の造立ということになりそうである。

県内一七五カ所に造立された百庚申の造立年代もほぼ前橋市の傾向と大同小異と見てよいようだ。「市町村別一覧表」中には、享保八年、宝暦九年等の例が散見されるが、これらは前述の②の百庚申に属する庚申塔の年代

表(3) 前橋市の百庚申

No.	造立場所	親庚申の 紀年	現存塔数	備考
1	大友町神明宮	寛政十二 (二〇〇)	一〇一 〔親庚申を中心に 文字塔一〇〇基〕	親庚申は青 面尊像
2	総社町五霊神社	万延元 (一八六〇)	数不明	
3	鳥羽町公民館	不明	数不明	
4	清野町八幡宮	天保十五 (一八四四)	六四 (文字塔のみ)	
5	総社町植野諏訪神社	天保十五 (一八四四)	六二 (文字塔のみ)	
6	江田町鏡宮神社	嘉永七 (一八二六)	一一三 (文字塔のみ)	
7	荻窪町荻窪神社	万延元 (一八六〇)	約五〇 (文字塔のみ)	
8	西大室町最善寺	寛政十二 (一八〇〇)	四一 (文字塔のみ)	
9	下長磯町お上人塚	万延元 (一八六〇)	約七〇 (文字塔のみ)	石臼型あり
10	川原町市杵島神社	天保十四 (一八四三)	一一五 (文字塔のみ)	
11	天川大島町愛宕神社	不明	六〇 (文字塔のみ)	他から移動 したもの
12	新堀町新堀神社	寛政九 (一七九七)	九三 (文字塔のみ)	

と考えてよいのではないか。今後の精査により結論は得られようが、ここでは予測にとどめたい。

なお、珍しい百庚申として二、三紹介しておこう。

(1) 十二山の千庚申、富士見村横室所在

総高二六五^セの「猿田彦太神」文字塔を親庚申として、百基ごとに総高三三三^セの「猿田比古太神」文字塔を計一〇基配し、小庚申塔を九九

○基ほど合せて千庚申を構成する。この千庚申は、百庚申一〇組の集合体ともみられ誠に状大な造塔というほかない。万延元年の造立である。

(2) 北原村西の百庚申 群馬町北原村西に所在

三枚の板状自然石の表面を研磨して三碑とし、中央に「百庚申」と大書し、小字で庚申の文字を四〇通り刻んだ総高一七〇^セの大碑を中心とし、向って右に「猿田彦太神」と大書し、同じく庚申の文字を三三通り刻む、裏面に「元治二年歳次乙丑夏四月望後二日」の紀年を有する(総高一一七^セ)。向って左に「青面金剛王」と草書で大書し、その左右に「庚申」の文字(中字)を配し、下部に「庚申」二九、「青面王」一、計三二通りの小文字を配す(総高一二八^セ)。いわば「三石百庚申」である。「庚申」の文字の行間に書家の名前が十五人分ほど見える。近隣の文人墨客に依頼したもので、堀口藍園、木暮足翁らの名もみえる。逸品といつてよい。(口絵参照)

(3) 川浦浅間神社の一石百体庚申 倉渕村川浦浅間神社境内所在

高さ一三三^セ、幅四七^セの尖頭角柱の四面に各二五体の青面金剛像を浮彫りしている珍しいもので、「寛政六甲寅天六月如意日」の紀年銘がある。

庚申塔の造立年代 本県の庚申塔の初出は前述の通り天文十七年

(二五〇)の七面庚申石幢であり、続いて元亀四年(二五三)の七仏輪廻庚申石幢一対がある。これら三基は中世石造物に属しいずれも石幢型である点に特色がある。(高崎市の佐野美術館にある庚申板碑は年代的には本県最古(天文四年)を示すが、もと東京都足立区内にあったもので、本県の庚申塔としては扱わない)その後約半世紀を経て本県の庚申塔造立は本格化するの

である。

表(4)～表(9)は県内の庚申塔のうち紀年銘があるものを種類毎に年代別・地域別に表にしたものである。

庚申文字塔の造塔は、寛永年間に始まり、元禄期に本格し、寛政期にピークに達する。

青面金剛像塔の造立は寛文年間に始まる。これは文字塔の初出から四〇年程遅れており、造願のピークは元禄期と、文字塔のそれより一世紀ほど早いのである。

以上をまとめてみると、十五世紀後半に庚申板碑という形で関東中南部に始まった庚申造塔は、十六世紀中頃に上州東部桐生近辺に導入され、三世の中世石幢型庚申塔を生んだ。約半世紀後に上州各地で文字庚申塔の造立が始まり、地域的に特色を持つ形態も生まれた。石殿型庚申塔が群馬・北群馬両郡(旧群馬郡域)を中心に一六二基の造立を見、ひき続いて層塔型庚申塔が北毛地域を中心に七二基ほど造立された。いずれも十七世紀後半に集中して見られる。寛文年間には青面金剛像の造立が始まり元禄期には館林・邑楽地方を中心に造立のピークを迎えた。一方文字塔は寛政十二年と万延元年の庚申年に、年間一、〇〇〇基をはるかに越える爆発的な造立数を見、猿田彦塔も幕末にその数を増した。これに並行して各地に百庚申の造立が相つぎ、寛政期以後の庚申塔の造立実数はおそらく一万一千基を下らないと見られるのである。

なお、これらの夥しい数の庚申塔を製作した石工及び文字塔の文字を揮毫した書家達については、概論を参照願いたい。

三、日 待 塔

前述のとおり、庚申塔・月待塔も広義の日待塔と考えられるが、ここでは日待塔(狭義)、甲子塔(子待塔)、己巳塔(巳待塔)、大黒天塔、大國主命塔、弁才天塔、弁財天塔、大黒天像、弁才天像等を日待塔として、調査表の集約を試みた。

(1) 日 待 塔

「お日待ち」は、春秋の社日などの特定の日に、講員が宿に集まり食事を共にして一夜を過ごし、日の出を拝して作物の豊穰などを祈願して散会する行事である。お日待ちの記念物として或いは講員の信仰の依代として造立されたのが日待塔である。

形態的には、自然石・角柱形・石殿形・層塔・像塔などがあるが、いずれも「日待」の文字が不可欠である。

本県には四〇基の日待塔が遺存するが、東毛地方を除く県内各地に散見される。市町村別にみても、赤城村・松井田町の各四基、甘楽町・長野原町・水上町の各三基が多い方である。造立年代をみると、承応・寛文年代に造立が集中しており、比較的古い時代のもが多いが、中世にまでさかのぼるのは今のところ発見されていない。次に代表的なものを二、三紹介しておこう。

- ① 吉井町穴岡薬師所在、虚空蔵菩薩像の日待塔で「奉造立日待供養 正徳二壬辰年十一月吉祥日 施主惣村中」の銘がある。高さ一五〇センチ。

上州の日待塔市町村別一覧

市郡別	整理番号	項目 市町村別	日待塔	巳待塔 (文字)	弁財(才) 天 像	弁財(才) 天石祠	子待塔 (文字)	大天 黒像	子 (大黒天) 石	待 祠	項目											
											市町村別	日待塔	巳待塔 (文字)	弁財(才) 天 像	弁財(才) 天石祠	子待塔 (文字)	大天 黒像	子 (大黒天) 石	待 祠			
市	1	前橋市	1	6		1	30	2			碓氷郡	40	松井田町	4	6				5	1		
	2	高崎市	2	11			1	2						計 (1)	(4)	(6)			(5)	(1)		
	3	桐生市		10			3					41	中之条町		4	4	4		7	2		
	4	伊勢崎市	1	4			32	4				42	東 村	2			1					
	5	太田市		4	2		14	1				吾妻郡	43	吾妻町	2	7	6	2	14	3		
	6	沼田市	1							44			長野原町	3	6				2			
	7	館林市		4	1	3	2	1	1	45			嬬恋村									
	8	渋川市	1	1	5	15	1	5				46	草津町			1						
	9	藤岡市	2	45	1		20					47	六合村		2				2			
	10	富岡市		11			1					48	高山村				1	2				
	11	安中市	1	18		4	3	1					計 (8)	(7)	(19)	(11)	(8)	(27)	(5)			
	市 計(1)	(9)	(114)	(9)	(23)	(107)	(16)	(1)		利根郡	49	白沢村				3						
12	北橋村	1	1		1	3	3				50	利根村				3						
13	赤城村	4		3	3	6	1				51	片品村		1								
14	富士見村		10		1	3					52	川場村	1									
15	大胡町		2		3	10					53	月夜野町	1				1	2				
16	宮城村										54	水上町	3	1		1						
17	粕川村		1		3	4	1				55	新治村				1	5	5				
18	新里村										56	昭和村				4						
19	黒保根村		1									計 (8)	(5)	(2)		(12)	(6)	(7)				
20	東 村					1					57	赤堀村		12		1	7		1			
	計 (9)	(5)	(15)	(3)	(11)	(27)	(5)			佐波郡	58	東 村					7					
21	榛名町		6		5	1					59	境 町		1		2	25	2	1			
22	倉淵村	1			2		1	1	1		60	玉村町		3			7	1				
23	箕郷町			1		1					計 (4)	(16)		(3)	(46)	(3)	(2)					
24	群馬町			1	1	1				新田郡	61	尾島町					22	2				
	計 (4)	(1)	(6)	(2)	(8)	(3)	(1)	(1)			62	新田町					3					
25	子持村	2			1						63	藪塚本町		1			1					
26	小野上村	1	1		6	1	2			64	笠懸村		9		1	4	1					
27	伊香保町						1				計 (4)	(14)		(1)	(30)	(3)						
28	榛東村	1	2	1	6	1				山田郡	65	大間々町	1				1	5				
29	吉岡村				1	1	1					計 (1)	(1)			(1)	(5)					
	計 (5)	(4)	(3)	(1)	(14)	(3)	(4)			邑楽郡	66	板倉町	1			2	1	1	1			
30	新 町				1						67	明和村			2	2						
31	鬼石町		6			1					68	千代田町						1				
32	吉井町	1	18			10					69	大泉町						1				
33	万場町		7			1					70	邑楽町		2	1	1		1				
34	中里村		1								計 (5)	(3)	(1)	(5)	(3)	(4)	(1)					
35	上野村		1							郡 計 (59)	(31)	(155)	(23)	(63)	(164)	(38)	(4)					
	計 (6)	(1)	(33)		(1)	(12)				合 計	40	269	32	86	271	54	5					
甘楽郡	36	妙義町		1																		
	37	下仁田町	1	12	3																	
	38	南牧村		14	2		1															
	39	甘楽町	3	10																		
	計 (4)	(4)	(37)	(5)		(1)																

(注)1. この表は各市町村から報告された「石造文化財調査票」をもとにして作成した。
 2. 巳待塔(文字)は巳待、己巳待のほか、弁財天、弁才天の文字を刻む塔を含んでいる。
 3. 子待塔(文字)は、子待、甲子待のほか、大黒天、大国主命、大己貴命などの文字を刻む塔を含んでいる。
 4. この表にあるもののほか、宇賀神(像)2、少彦名命(文)1、日月待(文)1、燈籠型の弁財天、巳待各1がある。



④ 年丸の日待塔 (承応3)
赤城村長井小川田

② 赤城村長井小川田字年丸所在、石殿の身部右側面に「為御日待 奉建
修石造 于時承應三年甲午十月吉日」左側面に「年丸」の地名と計一四
人の人名がある。高さ一四六センチ。

③ 渋川市金井金蔵寺墓地所在、六地藏石幢の竿部に「日待供養 寛文十
年庚戌拾月 岸忠右エ門 (他九名)」の銘がある。高さ一六二センチ。

④ 伊勢崎市連取町飯玉神社所在。板碑型の文字碑で「子 (バーンク) 奉
待日天尊供養所 于時寛文元年辛丑今月今日 才兵衛 (外十二名)」の銘
がある。高さ一〇五センチ。

(2) 甲子待塔

甲子待は、甲子待講、子待講の人々が、甲子の日(子の日)の夜に特定の
家を宿として集まり、大黒天(大国主命)を祀り、夜遅くまで飲食雑談し、



⑤ 子待大黒天像 (延享元)
高崎市上大類町 安楽寺

来福・商売繁昌等を祈る行事である。甲子は干支の最初であり、陰陽道に
おいて「大吉」とされる。また「子」は「ね」であり鼠に通ずる。一方、
大黒天の「大黒」と大国主命の「大国」の音が通ずるところから両者の習
合が行われた。大国主命の神話から、鼠は大国主命の神使とされ、大黒天
の「使い」ともなった。甲子と大黒天(大国主命)の結びつきは以上のような
理由により説明されている。

大黒天は室町時代より七福神の一つに数えられており、恵比須と並んで
わが国の代表的な福神である。従って、甲子待講(子待講)は町人によって
結成されることが多かった。かれら町人の結成した講中の造立した石塔が
甲子塔であった。

甲子塔には文字塔と刻像塔がある。

文字塔に刻まれる文字は、「甲子」「甲子待」「甲子塔」「甲子待塔」「甲子

大黒天」「子待」「子待塔」「大黒天」「大黒尊天」「大黒天神」「大黒待供養」「大黒主命」「大己貴命」「大黒主大神」などであり、供養塔としての造立のようである。

刻像塔は、丸彫・浮彫・線刻などで、像容は一般に頭巾をかぶり、肩に大きな袋を担ぎ、打出の木槌を持ち、俵二俵の上に立つ姿をとるもののものである。

本県における甲子塔の造立状況は、文字塔二六九基、大黒天像五三基、石殿(石祠)五基、総計三二七基である。造立年代は、享保期から造立が始まるが、文化元年及び元治元年の甲子年に造立が集中している。

(3) 己巳待塔

己巳待は、己巳の日(巳の日)に、巳待講の人々が宿に集い深夜まで精進供養をし、家内安全、五穀豊穰などを祈る行事である。二カ月(六〇日)毎に巡りくる己巳の日に行なわれることが多く、時に前日の戌辰の日に行なわれることもある。巳の日は弁才天の縁日であり、巳待の本尊として弁才天を祀るのが一般的である。

弁才天はインドの河を神格化したもので、初めは土地豊饒の農業の神として尊崇されたが、後に智の神(バーチ)と結合し、言語・音楽の神に転じたとされる。我が国では鎌倉時代以降、楽天として以外に、「弁財天」と記して、福德神として広く尊崇されたという。室町時代には七福神の一つに加わった。江戸時代になると、財宝を恵む福神として流行神となり町人の尊崇を集めた。

「巳」は蛇に通じ、蛇は弁才天の神使とされ、巳待講の人々に大切に扱

われた。

巳待講の人々が造立した供養塔が巳待塔であるが、甲子待塔と同じく、文字塔と刻像塔がある。

文字塔に刻まれた文字としては、「巳待」「巳待塔」「巳待供養」「己巳待」「己巳待供養」「ろ(ウ)弁才天」「弁財天」「弁才天女」「弁才尊天」「大弁才天女」などがある。刻像塔としては、丸彫、浮彫、線刻などの形がある。

像容は、経軌では「八臂」とあり、各手に弓、箭、刀、稍、斧、長杵、鉄輪、繩索を持つとされるが、石造の弁才天像はほとんどこれによらない。八臂像の場合は右手に鍵を持つことが多く、頭部に鳥居又は蛇を戴く形をとる。二臂像もあるが、頭部に鳥居を戴く形は八臂像と共通である。

なお、稀少例ではあるが、人頭蛇身の宇賀神像もあり、巳待の刻像とされる。

『群馬県民俗分布地図』(群馬県教育委員会編)によれば、甲子講は水上



⑥ 宇賀神 吾妻町

町・中之条町・長野原町・安中市・高崎市の五地点に見えるが、巳待講は一カ所も見えない。にもかかわらず、巳待塔は西毛地方を中心に、文字塔二六九基、刻像塔三二基、石殿(石祠)八六基、計三八七基が遺存するのである。

年代的には、元禄期から造塔が始まり、寛延二年・文化六年・明治二年の己巳年の造塔が目立つが、概して江戸後期の造立が多いと思われる。甲子講と同様、貨幣経済の発達による町人勢力の増大と軌を一にしていると考えられる。

四、月待塔

月待塔は、特定の月齢の夜に定まった宿に集まり、月の出を拝する行事を行なった月待講の人々によって、供養のしるしに造立されたものである。

「月待」も、前述のとおり広義の日待(まちごと)である。

わが国には古来、月の盈ち欠けに神秘性を感じ、月を崇め拝する習慣があり、貴族社会では十五夜の月を基準に、その後の月を文学的に表現している。十六夜をいざよい・十七夜を立待・十八夜を居待・十九夜を伏待、それ以後を寝待と称している。このように月待の歴史は古いのだが、月待塔の造立は室町時代を待たなければならぬ。『日本石仏事典』によれば、月待塔の最古のものは、埼玉県富士見市の個人蔵になる板碑で「(弥陀三尊種子)奉待月供養」の銘があり嘉吉元年(一四二二)の造立だという。

本県にも多くの青石塔婆(板碑)があるが、今のところ、月待を示すものは発見されていない。

月待塔の分類 月待塔は、その「当り日」によって十九夜塔・二十一夜塔・二十二夜塔・二十三夜塔などに分けることができる。

全国的にみると、「三日月待」「十三夜」「十四夜」「十五夜」「十六夜」「十七夜」「十八夜」「十九夜」「二十日夜」「二十一夜」「二十二夜」「二十三夜」「二十四夜」「二十五夜」「二十六夜」「二十七夜」「二十八夜」「二十九夜」「月待」「七夜待」などがあるとされる。これらの多くは地域的に偏在しているようであり、本県では十五夜・十八夜・二十四夜・二十五夜・二十七夜・二十八夜・二十九夜の月待塔は発見されていない。

月待塔は、文字塔と刻像塔に分類することもできる。文字塔の場合は、「文字どおり」区分すればよいわけだが、刻像塔の場合は、例えば如意輪観音像に「十九夜待」とか「二十二夜講中」などの銘があれば簡単だが、単に「講中」とか「惣邑中」などの銘文しかない場合は困ることがある。

表(10) 七夜待の本尊(『日本石仏事典』より)

当り日	出典	文殊日礼	七七夜待之大事	七夜待本尊之事
十七日		千手観音	正観音	千手観音
十八日		正観音	千手観音	正観音
十九日		馬頭観音	馬頭観音	馬頭観音
二十日		十一面観音	十一面	十一面
二十一日		如意輪観音	准胝	准胝
二十二日		准提観音	如意輪	如意輪
二十三日		勢至菩薩	勢至	勢至

七夜待塔 ななよまち、しちやまちと称されるが、「七日の夜の月を待つ」のではない。十七夜の月から二十三夜の月まで「七夜」連続して月待

供養した記念の塔である。七夜の各夜に主尊が定められており(表10)、それぞれの主尊を経軌に則て供養するという仏教の儀式なのである。従って、これを修することが可能なのは僧侶及び一部上流階級の人々だったであろう。時代が下って、月待が一般化してくると、「七夜待」を正式に行なうことは少なくとも、ある地方では如意輪観音を重視して二十二夜待を修し、またある地域では勢至菩薩を尊崇して二十三夜の月を拝する行事を行なったとも考えられる。いずれにしても、月待の当初の姿は「七夜待」だったと考えられ、七夜のうちのいくつかがその土地に根づいたものと思う。

本県における「十九夜塔」の分布は館林・邑楽地方に偏在している。(巻末分布図参照)しかし、沼田市・桐生市・伊勢崎市や上信国境に接する南牧村・下仁田町・松井田町・六合村・長野原町などにも数こそ少ないが「十九夜塔」が遺っているところをみても、前述のことが肯かれよう。

月待塔の分布 本県に多い月待塔は二十二夜塔と二十三夜塔である。それぞれ八九四基・六一五基を記録している。これに次いで、二十一夜塔二六五基、十九夜塔一三二基であり、その外数種類の月待塔が確認されているが、数は少ない。

さて、本県における月待塔の分布については巻末の分布図にみるように特徴がある。即ち、十九夜塔・二十二夜塔・二十二夜塔(いずれも如意輪観音を本尊とすることが多い月待塔)の分布状況についてみると、十九夜塔は東毛地方の特に館林市・邑楽郡地域にほぼ限られて分布し、二十一夜塔は利根郡・北群馬郡地域に分布し、二十二夜塔は十九夜塔分布地域より西部、二十一夜塔分布地域より南部(中・西毛地方)に分布している。上記の三地域は、互いに接する地帯に混在をみるが、ほとんど確然とした分布域を

保っているようにみえる。この原因については、確かなことは不明だが、これら三種類の月待塔の背景にある「講」集団は、三者共に「女人講」である点にヒントがありそうである。

月待講 月待講は念仏講の要素を強くもっている。事実、十九夜塔や二十二夜塔の銘文には「十九夜念佛講中」「二十二夜念佛 當邑女人講中」などと記される例は枚挙にいとまがない。彼女達は、輪番制の宿に集い、手作りのごちそうを食べながら歓談し、月の上るのを待つのであるが、その時二十二夜念佛などを唱和するのである。江戸時代の農村女性にとってこの集いはほとんど唯一の娯楽の場であつたろう。従って、この講中の結束はかたく、しかも本尊の如意輪観音(十九夜様、二十一夜様、二十二夜様)に対する崇拜はなみなみならぬものであつた。

二十二夜様の念仏

婦妙頂来 ありがたや

二十二夜まち まつ人は

しみづあらため 身をきよめ

心の悪心 持たずして

しんじんけんごの 身を持ちて

菩薩を押し 給うべし

女人 菩薩の ごがんには

あまた女人の 身代りに

血の池地獄へ 落ちるおり

すでに入らんと したまえは

あらありがたや ふしぎやな

池より蓮華が 現れて

左右の御手で みどり子を

いだきあげさせ 給うべし

右の御手で 招きつつ

われを念ずる 人なれば

血しやく けっかい 血のやまい

長血 白血の やまいでも

薬効能 ましまさば

たちまち快気 いたすべし

子のない女人に 子を授け

産前産後の 大難も

安産にして えさすべし

(妙義町上高田字下十二「妙義町の民俗」より)

なお、分布図裏の表中にある「如意輪像のみ」の欄の数値は、「十九夜」だが、例えば「十九夜塔」地域にある如意輪観音像で「月待塔」とされているものは「十九夜塔」としてほぼ間違いないと思われるが、混在地域もあるのを考慮して、あえて独立の欄を設けた。

二十三夜塔 二十三夜塔は「三夜様」「三夜待」とも称される。三夜は産夜に通ずるとして、お産の神様とされ一般的には女性のみ講が多いとされる。この夜の本尊は勢至菩薩とされている。

単に「月待」とある場合は「二十三夜待」と考えられるほどに、月待の中核をなしている。

他の月待塔が地域的に偏在するのに比べ、二十三夜塔は全国各地に遺存

しているが、特に関東地方や長野県などに多く遺っているという。

二十三夜塔にも文字塔と刻像塔がある。

本県の場合、文字塔では「二十三夜」「二十三夜塔」の類が最も多く、「二十三夜月天子」「大勢至菩薩」「得大勢至」「徳大勢至」なども相当数あるようである。他に「月天子」「帰命月天子」「月読命」「月光菩薩」なども数は少ないが報告されている。

刻像塔では当然のことながら勢至菩薩像が多いが、全県で五二基と意外に少ない数しか報告されていない。他に如意輪観音像、月天、地藏菩薩、大日如来などの像がある。

全国的には「女人講」により供養されているが、本県の場合は「二十二夜待」は女性、「二十三夜待」は男性となっている地方がかなりある。本県内の二十三夜塔造立数(遺存数)は六一五基で、県内各地にまんべんなく分




⑦ 月天子二十三夜
前橋市後閑町 円満寺

布している。

その他の月待塔 「十六夜念仏供養」とか「十六日念佛」の銘のある十六夜塔が三〇基報告されている。地藏尊像に上記の銘を有する刻像塔も見うけられる。中之条町と新治村に各六基遺存する。

「十七夜塔」「永代十七夜塔」と刻む塔が桐生市・太田市・新里村に各一基ある。

「二十六夜塔」と刻んだ文字塔が桐生市に三基、前橋市・片品村・水上町に各一基ある。二十六夜待講は染色業者の講だという。この夜の本尊は愛染明王とされ、愛は藍、染は染めるということで藍染(紺屋)を業とする染色業者の信仰を集めたと思われる。愛染明王の刻像塔は三基報告されている。

「十四夜念佛供養」(明和九年)、如意輪観音像に「奉供養十四夜念佛為□□」(宝暦三年)の銘をもつ二基の十四夜塔が板倉町にある。十五夜(望月・満月)の前夜の月だから供養の対象として多くまつられていそうだが、県内にはこの二基のみであり、全国的にみても大変珍しいものである。

「十三夜塔」は片品村と昭和村に各一基、「三日月尊」「三日月塔」「三日月二十三夜」などの三日月待塔が桐生市・榛名町・板倉町に各一基ある。

「二十夜塔」は吾妻郡東村から報告されているが、これも珍らしいものである。二十夜塔は東北地方(宮城県・岩手県)に集中して造立されている地域があるという。

上州の庚申塔

上州の庚申塔（前橋市）

前橋市

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番
文	青面	殿	層	青面	文	文	文	青面	殿	形
西箱田常門寺	公田町	園 下佐鳥町 公民館前靈	房丸町 宝聚堂墓地	房丸町 公民館	〃	〃	〃	〃	細井神社	所在地
元禄3	元禄6	寛文7	不明	宝永7	安政7	宝永3	元禄4	元禄10	寛文9	年代
高さ 70cm 幅 36.5cm 総高 cm	高さ 93.5cm 幅 42cm 総高 147cm	高さ 75cm 幅 58cm 総高 98cm	高さ cm 幅 44cm 総高 189cm	高さ 50cm 幅 34cm 総高 cm	高さ 61cm 幅 32cm 総高 cm	高さ 61cm 幅 25.5cm 総高 69cm	高さ 57cm 幅 32cm 総高 cm	高さ 88cm 幅 43.5cm 総高 cm	高さ 98cm 幅 70cm 総高 122cm	方量
于時元禄三年 奉造立庚申之供養二世安樂之所 十二月四日 (2鶏) (2猿)	元禄六年 (青面金剛像) 霜月吉祥日 (2鶏) (2猿)	于時寛文七季丁未十月吉日 奉建立庚申宮 道俗惣供養 (2鶏) (2猿)	(日月) (2鶏)	奉造立庚申供養 (青面金剛六臂像) 皆宝永七丁丑天十一月吉日	安政七庚申年 猿田彦大神 二月吉祥日	宝永三丙戌九月十七日 奉供養青面金剛 寺家村 阿内村 且越	元禄四年 奉庚申供養現當二世安樂之所 四月十一日 (二鶏二猿) (六名略)	元禄十年丁丑二月廿日 (青面金剛六臂像) 大口田園 (2鶏) (3猿)	于時寛文九天己酉十月日 庚申石 上州 田村 瑞氣	銘
板碑形 日月			3層	舟形日月 下部地中	自然石	角柱日月 二鶏三猿	上部欠 下部地中	駒形 瑞雲日月	二猿	備考

17	16	15	14	13	12	11	番
青面	青面	青面	百庚申	青面	青面	文	形
〃	観昌寺 西大室町	西大室 大室社北三 差路	〃	最大寺 西大室町	前箱田 稻荷神社	〃	所在地
元禄10	宝暦13	宝暦13	寛政12	不明	不明	享保12	年代
高さ 91cm 幅 48cm 総高 105cm	高さ 94cm 幅 35cm 総高 173cm	高さ 106cm 幅 41cm 総高 171cm	高さ 90cm 幅 70cm 総高 cm	高さ 114cm 幅 38.5cm 総高 cm	高さ 74cm 幅 34cm 総高 94cm	高さ 70cm 幅 26cm 総高 81cm	方量
庚申供養 (青面金剛四臂像) 元禄十天辰十一月吉日 (3猿) (六名略)	宝暦十三癸未歲 (青面金剛六臂像) 十一月吉祥日 山田与右工門 入沢安之丞 (笠)同 武右工門 森田右工門 小峯五郎左工門 同 〇兵工	北講中 (青面金剛六臂像) 宝暦十三癸未天十二月吉祥日	庚申塔 寛政十二庚申 十一月吉日	奉造立庚申〇〇 (青面金剛六臂像) 皆〇〇〇歳寅十一月六祥日 (2鶏) (2猿) 石工 福嶋文左工門(他五名略) 龍昌寺 関野七兵工(他四名略)	(青面金剛六臂像) 奉造立 〇〇〇〇 (2鶏) (2猿)	享保十二歲丁未 奉造立庚申為菩提也祈所 霜月吉祥日 箱田邑 (台)右板鼻 左高崎道 (8猿)	銘
日月	瑞雲日月 竿は六角柱	笠付 瑞雲日月	親庚申 瑞雲日月 他に四十一	笠付台地中 日月	板碑形	尖頭角柱兼 道標 日月	備考

25	24	23	22	21	20	19	18	番
青 面	百庚申	青 面	青 面	殿	青 面	百庚申	青 面	形
玉泉寺 上泉町	(お上人) 観音橋南 下長磯町	神明宮 総社町	宮 野馬塚神明 総社町	鳥羽町 大福寺西	元景寺入口 総社町	鏡宮神社 江田町	徳蔵寺 元総社町	所在地
元禄16	万延元	正徳5	宝永6	寛文8	不明	嘉永7	享保19	年代
高さ108cm 幅42cm 総高141cm	高さ105cm 幅77cm 総高 cm	高さ85cm 幅40cm 総高135cm	高さ105cm 幅48cm 総高120cm	高さ75.5cm 幅58.5cm 総高98.5cm	高さ96cm 幅45cm 総高130cm	高さ93cm 幅60cm 総高103cm	高さ120cm 幅54cm 総高203cm	方量
奉造立庚申供養二世安樂所 (青面金剛六臂像) 元禄十六癸未十二月吉日 施主 敬白 (2鶏) (2猿)	庚申葦 萬延元庚申八月吉日建之 世話人(八名略)	(青面金剛像) 栗嶋町 正徳五年乙酉霜月 (2鶏) (3猿)	(青面金剛四臂像) 宝永六 (2鶏) (2猿)	(2猿) 寛文八戊申年 九月下旬 石宮 (人名多数略)	(青面金剛六臂像) (2鶏) (3猿)	庚申塔 嘉永七甲寅歲五月吉日 當村中	(青面金剛六臂像) 馬場新田 (2鶏) (2猿) 享保十九甲寅歲十月吉日	銘 文
舟形、 日月	約七〇基	舟形、 日月	舟形、 日月	石殿形	舟形、 日月	計一〇三基 文字塔	舟形 瑞雲・ 日月	備考

33	32	31	30	29	28	27	26	番
百庚申	文	殿	文	文	文	文	文	形
〃	〃	石倉町 林倉寺	総社町 長見寺	城東町 教徳寺 (宗念坊)	下大屋町 産泰神社 門前	端氣町 善勝寺門前	上泉町 玉泉寺	所在地
寛政12	安永6	元禄9	万延元	寛政3	延宝8	元禄7	嘉永6	年代
高さ81cm 幅38cm 総高121cm	高さ101cm 幅60cm 総高146cm	高さ75cm 幅54.5cm 総高128cm	高さ89cm 幅49cm 総高119cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ78cm 幅40cm 総高108cm	高さ94cm 幅31cm 総高108cm	高さ117cm 幅45cm 総高155cm	方量
(青面金剛六臂像) 世話人(五名略)	庚申塔 即明書 安永六丁酉四月吉日	奉造立庚申石堂一字現當二世處 于時元禄九〇子天霜月吉辰 信心願主石倉村中 (3猿)	青面王 無幻道人書 惣村中世話人(九名略) 萬延元年庚申十二月	庚申塔 津久井氏 綿貫氏 藤井氏 左大胡日光 寛政三辛亥歲十二月大吉日	延宝八庚申天 奉供養庚申二世為安樂 十一月五日 施主敬白 (1鶏) (1猿) (六名略)	于時元禄七甲戌天霜月吉日 庚申供養寶婆 〇〇〇(二十五名略)	嘉永六癸丑三月吉祥日 庚申 世八人(十名略) (台)右 前はしーり 左 駒かた二り	銘 文
主尊を中心 に文字塔一 〇〇基	自然石	石殿形	自然石	兼道標	板碑形 日月	日月	兼道標	備考

上州の庚申塔（前橋市）

42	41	40	39	38	37	36	35	34	番形
文 大蓮寺 千代田町三丁目	青面 〃	青面 善昌寺門外 力丸町	像 南町二丁目 水神社	殿 紅雲町 敷島神社	文 〃	文 〃	文 関根町 金剛寺	青面 下新田町 福德寺西	所在地
享保元	貞享5	文政3	天和3	慶安3	明和2	享保4	貞享4	享保11	年代
高さ107cm 幅40cm 総高129cm	高さ97cm 幅45cm 総高131cm	高さ74cm 幅30.4cm 総高114cm	高さ82cm 幅35cm 総高96cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ163cm 幅124cm 総高201cm	高さ76cm 幅47cm 総高94cm	高さ68cm 幅31cm 総高73cm	高さ93cm 幅43cm 総高181cm	方量
品 奉納庚申供養 十月吉日 (2鶏) (3猿)	角栄山宝性院法楽寺泰全 貞享五戊辰年五月吉日起立之 (青面尊四臂像)	文政三庚辰年 十一月大吉日 (青面尊六臂像)	天和三年 四月吉日 (地藏尊合掌立像) (2鶏) (2猿)	慶安三曆寅○拾月吉日 敬白 (四名略) 奉造立石○庚申行○成就供○ 云者也 現世安穩○前	惟時明和二年乙酉春季吉辰 青面金剛明王 関根邑講中	享保四丙亥天 奉供養庚申之大金剛面 十一月廿二日 信心施主 細井○	(2鶏) 貞享二二歳 庚申塔奉建安稔 四月十三日 福榮 (3猿)	享保十一丙午天五月吉祥日 (青面尊六臂像) 施主村中 (2鶏) (3猿) (2馬)	銘 文
	舟形		日月		自然石	自然石 日月	板碑形 日月	舟形 瑞雲日月	備考

50	49	48	47	46	45	44	43	番形
青面 前 川原町 大興寺山門	殿 〃	青面 川原町 大興寺南	青面 朝日町四丁 相続庵	青面 下大島町 来迎寺	青面 駒形町 駒形神社	殿 〃	文 六供町 寿延寺	所在地
元禄9	寛永12	文化2	宝永元	正徳4	元禄11	寛文元	宝暦6	年代
高さ100cm 幅46cm 総高130cm	高さ70cm 幅51cm 総高91cm	高さ68cm 幅37cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ78cm 幅31cm 総高93cm	高さ71cm 幅39cm 総高83cm	高さ81cm 幅42cm 総高91cm	高さ90cm 幅52cm 総高 cm	方量
(青面尊四臂像) 元禄九丙子天 六月吉日 (2猿)	寛永○亥 〇月吉○	文化二天 (青面尊六臂像) 〇〇〇	宝永元年甲申九月十三日 (青面金剛像) (三名略) これより左り 二ノ宮道	(裏) 正徳四甲午 奉待庚申供養 今月今日 正徳寺 (2鶏)(3猿)	(青面尊六臂像) 奉願所庚申供養 元禄拾一〇 駒形村連中施主 十月吉○ (二名略)	于時寛文元年辛〇〇月吉祥	庚申塔 宝暦六丙子歳十一月吉日 心連主村中	銘 文
瑞雲日月	鬼面付 日月		二鶏二猿 シヨケラ	瑞雲・日月 位牌形	舟形、日月 一猿一鶏	二猿二鶏	日月	備考

59	58	57	56	55	54	53	52	51	番
文	殿	文	文	文	文	文	青面	百庚申	形
朝日町 一号公園	〃	後閑町 円満寺	祝昌寺門前 矢田町	朝日町四丁 日相統庵千 日堂	本町三丁目 薬師堂	〃	日輪寺町 日輪寺	川原町 市杵島神社	所在地
安政7	寛文10	宝暦2	延宝8	享保3	万延元	宝永3	正徳5	天保14	年代
高さ157cm 幅80cm 総高184cm	高さ68cm 幅46cm 総高84cm	高さ114cm 幅45cm 総高139cm	高さ106cm 幅35cm 総高106cm	高さ62cm 幅24cm 総高78cm	高さ150cm 幅95cm 総高183cm	高さ105cm 幅33cm 総高127cm	高さ90cm 幅48cm 総高134cm	高さ145cm 幅63cm 総高695cm	方量
猿田彦大神 石田静林謹書	奉供養石堂為庚申加護後閑村 嶋童男童女佛果菩提也 皆寛文十年十一月大吉 (2猿)	于時寶暦二壬申歲 庚申塔 八月吉祥日 村中 (2鶏) (3猿)	上州那波郡矢田村三十五人尊 奉供養庚申待諸願成就所 延宝八〇九月吉日 諸願主敬 (2猿) (2鶏)	享保三戊戌天 奉納庚申供養塔 十一月吉日 (3猿) (2鶏) (六名略)	萬延元庚申歲夏五月庚申日申刻録 行妙書 片貝町中	于時宝永三〇年 奉造立庚申供養成就攸 十一月吉祥日 (五名略) 敬白 (3猿)	正徳五〇〇歳 (青面尊六臂像) 霜月廿六日造立之	天保十四癸卯春三月吉日建 庚申 高崎山睡〇子三敬書 願主 川原総村中	銘
安政七庚申年春三月吉日 百尊造立 施主町内中									文
		自然石	板碑形			白石に二鶏 三猿あり 日月	日月	文字塔 計一一五基 あり(文字 青面五、文 字猿田彦一 を含む)	備考

68	67	66	65	64	63	62	61	60	番
文	青面	青面	文	文	文	百庚申	文	百庚申	形
〃	青梨妻町前 阿弥陀寺跡	青梨子町 正法寺	青梨子町 諏訪神社	池端町 神明宮	公田町 熊野神社前	新堀町 新堀神社	下公田 諏訪神社	天川大島町 愛宕神社	所在地
嘉永5	元文5	元文5	寛政11	万延元	延宝元	寛政9	宝永3	不明	年代
高さ52cm 幅52cm 総高208cm	高さ66cm 幅66cm 総高114cm	高さ55cm 幅55cm 総高128cm	高さ94cm 幅94cm 総高115cm	高さ157cm 幅34cm 総高227cm	高さ94cm 幅41cm 総高94cm	高さ97cm 幅75cm 総高122cm	高さ84cm 幅36.5cm 総高103cm	高さ53cm 幅75cm 総高90cm	方量
嘉永五年歲次壬子三月吉日 猿田彦大神 講中宵議謹立之 下組中 (十八名略)	元文五庚申年十二月吉祥日 (青面尊像) 施主 當村中(八名略) (2鶏) (3猿)	首元文五庚申天十月吉日 (青面尊六臂像) 施主 當村中(八名略) (2鶏) (3猿)	日天子 月天子 庚申塔 四月吉日 寛政十一龍次己未 講中(廿六人略) 世話人小池銀七	猿田彦大神 願主神保十左衛門郁次 萬延紀元歲在庚申冬十有一月吉建之 齊藤慈水書	令千里内 七難不起 皆延寶元年癸丑敬白 (1猿) (1鶏)	庚申塔 寛政九丁巳歲 正月吉日	宝永三年戊〇 庚申青面金剛尊 十一月大吉日 (2鶏) (3猿) (真)	計六〇基	銘
人名の最後 に阿弥陀 寺」とあり	日月	舟形 瑞雲・日月			板碑形	計九三基 (うち猿田 彦命五基)	日月		備考

上州の庚申塔（前橋市）

75	74	73	72	71	70	69	番
青面	文	青面	百庚申	文	百庚申	青面	形
西原 荒口町	観音寺 総社高井	観音寺 高井	公民館 鳥羽町	〃	五霊社 総社町	前原上宿 青梨子町	所在地
寛政6	延宝8	正徳4	不明	万延元	万延元	享保15	年代
高さ50cm 幅28cm 総高70cm	高さ128cm 幅35cm 総高143cm	高さ77cm 幅49cm 総高97cm	高さ53cm 幅34cm 総高cm	高さ170cm 幅111cm 総高cm	高さcm 幅90cm 総高112cm	高さcm 幅47cm 総高117cm	方量
(青面尊像) 寛政六甲寅十月吉日 施主嶋村佐七 (3猿)	覆六趣之昏街積善光影照四主真池而也 西上蒞群馬郡高井郷(十二名略) 奉造立石塔壹箇庚申待供養也 施主 暁命月天子殿除衆闇事無超日光備 敬白 庚申九月吉日	青面金剛 (青面金剛立像) 正徳四天五月吉日□□右兵衛 (3猿)	庚申 数不明	庚申庚申…… 萬延元年庚申春講中(七名略) 猿田彦大神 庚申庚申…… 米山高柳有字拜書□□	庚申 遺玄法橋智門書 殿小路町中 當院智常代 赤石元長(以下二十八名略)	(青面尊像) 享保十五壬 當村施主 戌十一月吉日(二十五名略) (猿)(鶏)	銘文
	日月	日月	数不明	猿・鶏 一石百庚申	数不明		備考

84	83	82	81	80	79	78	77	76	番
百庚申	百庚申	文	百庚申	文	灯	青面	文	青面	形
諏訪神社 総社町植野	清野町 八幡宮	〃	荻窪町 荻窪神社	〃	亀泉町 地藏堂	荒子町 薬師堂	荒子町 荒子神社	西大室町 大室神社近	所在地
天保15	天保15	享保7	万延元	延宝5	元禄9	享保11	明和元	享保3	年代
高さ75cm 幅56cm 総高115cm	高さ135cm 幅76cm 総高111cm	高さ100cm 幅35cm 総高cm	高さ205cm 幅90cm 総高241cm	高さ72cm 幅31cm 総高cm	高さ140cm 幅42cm 総高cm	高さ138cm 幅66cm 総高180cm	高さ87cm 幅35cm 総高145cm	高さ116cm 幅32cm 総高162cm	方量
庚申 天保十有五甲辰年二月 植野村中	庚申塔 天保十五辰歲三月吉日 光流書 當村中	奉造立庚申 享保七壬寅歲 九月吉日 (2鶏) (3猿)	青面金剛 万延紀元庚申歲十一月	于時延宝□天 庚申為供養 丁巳十月十六日 (九名略) (鶏猿)	(鶏猿) 元禄九丙子天六月十五日 奉造立庚申供養石塔 敬白 (六名略)	青面金剛供養塔 (青面尊六臂像) 享保十一丙午年九月吉日 (2鶏猿) (3講中荒子)	明和元甲申歲十二月吉辰 奉祭鎮猿田彦尊 當邑講中 志もおふや道 いせさき道 南 西まやは志道	享保三〇〇十一月十六日 青面尊六臂像 庚申供養 欽吉 (十七名略) (3猿)	銘文
自然石 篆書体 計六二基	自然石 (計六四基 五欠六)	円頂角柱 下部地中 日月	自然石計五 〇基ほど	板碑形	灯籠 宝珠欠	舟形日月	尖頭角柱 兼道標	笠付 瑞雲・日月	備考

上州の庚申塔

80 - 81 頁は

個人情報が含まれるため非公開

35	34	33	32	31	30	29	28	番
文	青面	文	文	青面	文	文	文	形
東中里町 火雷若御子 神社	東中里町 火雷若御子 神社	下中居村 発性寺	上中居町 極楽寺	倉賀野町下 昭明和電鋼通	倉賀野町 養報寺	〃	倉賀野町下 正六 正六 観音堂	所在地
宝永2	宝永9	元文5	元禄7	宝暦7	万延元	元禄9	元禄9	年代
高さ105cm 幅45cm 総高 cm	高さ124cm 幅43cm 総高 cm	高さ75cm 幅笠52.5cm 総高155cm	高さ91cm 幅34cm 総高 cm	高さ94cm 幅49cm 総高134cm	高さ78cm 幅42cm 総高125cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	方量
宝永二年西ノ十月吉日 庚申 (下部三猿)	宝永元年申十一月廿四日 (青面尊四臂像) 施主 八人	元文五年庚申 青面金剛塔 八月吉日 下中居村 施主 三猿不聞 不言	元禄七年甲戌天 奉造立庚申供養塔一字為現当安楽 九月十五日 施主 上中居村 田中作左エ門 同 助右エ門	宝暦七丁丑年 十二月庚申日 供養塔 (青面尊六臂像) (下部に二鶏三猿) 足下に邪鬼	庚申之尊塔 鳥川即明書 萬延元年星在庚申 十一月吉日 當山三十二世良全代 願主 松本重右衛門 同 九郎兵衛 源 原常吉	元禄九丙子年 奉造立石塔一〇庚申待供養 敬白 十月吉祥日 (台石に向きあう二猿)	元禄九丙子年 奉造立石塔一〇庚申待供養 敬白 十月吉祥日 (台石に向きあう二猿)	銘 文
	起舟形	笠付	板碑形	起舟形	自然石 篆書	笠付	笠付	備考

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	番
青面	青面	青面	文	文	文	文	青面	文	文	形
石原町 観音山	鼻高町	南大類町 柳原観音堂	下斉田町 諏訪神社	〃	八幡原町 円福寺	柴崎町 大沢雅休墓 所うらの堂	矢中町 八幡宮	栗崎町 地藏寺	栗崎町 「諏訪神社」	所在地
元禄10	享保2	享保7	寛保3	享保7	延宝7	元禄10	元禄12	元禄15	万延元	年代
高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ100cm 幅53cm 総高142cm	高さ70cm 幅55cm 総高 cm	高さ97cm 幅43.5cm 総高 cm	高さ66cm 幅29cm 総高120cm	高さ95cm 幅40cm 総高130cm	高さ125cm 幅38cm 総高 cm	高さ141cm 幅50cm 総高161cm	方量
(青面尊六臂像) 元禄十〇十一月吉日	(青面尊六臂像) 享保二天 五月吉日	(青面尊六臂像) 享保七年壬寅十月吉日 南大類村 講中	寛保三癸亥年 猿田彦大神 二月吉日 村中	享保七壬寅祀 講中 奉造立石塔庚申供養 九月吉日 敬白	延宝七己未年 奉造立石塔(鶏) 十月吉日 (二鶏) (十一連名)	元禄十六年 庚申奉供養石塔一字 下部三猿不聞 霜月十八日 不言	(青面尊六臂像) 于時元禄十二年 卯ノ九月日	元禄十五〇年 七月吉祥日 (向い合う二猿) (二鶏)	万延元庚申年七月庚申日建之 百庚申 五十嵐耕五郎	銘 文
板碑形 シヨケラ	起舟形 日・月 (二猿)	日月 (三猿) 尖頭角柱	自然石 (下部三猿)	自然石 日月	向い合う 二猿	笠付日月	起舟形	板碑形	一石百庚申 板状	備考

53	52	51	50	49	48	47	46	番形
百庚申	百庚申	百庚申	青 面	文	文	文	文	所在地
慈眼寺 上滝町	庚申 鼻高町 小林山の百	館の百庚申 寺尾町	心洞寺 木部町	宝性寺 根古屋町	墳丘 利濟寺入口 石原町	氏宅入口 吉田佐四郎 石原町	駒形神社 石原町	年代
享保8	文化3	寛政9	不 明	正徳6	宝永4	正徳3	万延元	方量
高さ 96cm 幅 36cm 総高133cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ 74cm 幅 25cm 総高 92cm	高さ103cm 幅 32cm 総高118cm	高さ 71cm 幅 31.5cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ165cm 幅 127cm 総高201cm	銘
享保八癸卯天 奉造立庚申供養石塔 拾月吉祥日 當村中	山鼓舞 庚申塔 文化三年丙寅四月 富士塚 熊井宗五郎 相川武兵衛 吉田仙右衛門	寛政九丁巳季秋 庚申塔 佐藤實書	(青面尊二臂像)	正徳六丙申年 六月穀旦	宝永四丁亥年 奉刻彫庚申文塔一基 十一月吉日	正徳三 奉造立供養丸 八月吉日	万延元年歳在庚申 庚申塔 十一月地福日建之 役密圓尊謹書 當所講中	文
上滝慈眼寺の 百庚申の中運 弁に日月計七 十七基三猿	計一〇九基	計五十四 三戸忍	尖頭角柱 日月二猿	尖頭角柱 (3猿)	笠欠損角柱 瑞雲日月 三猿	板碑形 瑞雲日月 三猿	自然石	備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
文	百庚申	百庚申	青 面	文	文	文	文	青 面	青 面	桐生市 所在地
忠 靈塔	川内五丁目 二九五一一	川内五丁目 九九九	川内五丁目 九九九	川内五丁目 二六五一	川内五丁目 二六五一	雲祥寺 七二九	川内三丁目 西宿 五八七一	川内五丁目 一四七八 馬ノ場	川内一丁目 三六九 東禅寺	年代
元文5	享保元	宝永7	慶応4	元禄17	天明元	元文5	宝永7	宝永6	宝永7	方量
高さ cm 幅 38cm 総高141cm	高さ cm 幅 37cm 総高150cm	高さ 60cm 幅 50cm 総高129cm	高さ 33cm 幅 25cm 総高 58cm	高さ cm 幅 25cm 総高 52cm	高さ cm 幅 48cm 総高 75cm	高さ cm 幅 36cm 総高122cm	高さ cm 幅 22cm 総高 90cm	高さ cm 幅 50cm 総高183cm	高さ cm 幅 50cm 総高171cm	銘
元文五庚申歳八月吉日講中	享保元丙申年十月吉祥日 上野國小田郡 願主下仁田山村 庚申	宝永庚寅天十一月吉日 (青面尊六臂像)	慶応四辰仲秋 (青面尊六臂像) 願主今泉清兵	元禄十七甲申年三月十一日 庚申	天明元辛丑年七月吉日 千庚申塔	元文五庚申歳十月吉辰 青面金剛明王 須永西講中八人	寶永七庚申年九月吉辰 青面金剛明王敬白 願主八人 上野国山田郡須永村	于時宝永六年己丑霜月吉祥日 (青面尊六臂像) 上野山田郡中仁田山村講中敬白	宝永七庚寅年十一月吉日 (青面尊六臂像)	文
日雲月雲 方錐角柱	日雲月雲 方錐角柱 計一六一基	百庚申現在 庚申一九青 面二猿舟型	舟型光背像	板碑型日月		日雲月雲 方錐角柱	日月 二鶏三猿	笠付角柱一 面六臂 二鶏二猿 日像	二猿二鶏 舟形光背	備考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番	
青面	文	文	文	文	文	文	文	文	青面	番形	
法楽寺 目 広沢町六丁	目 広沢町六丁	目 広沢町五丁	社比呂佐和神 目 広沢町三丁	〃	墓地 目 広沢二丁目	前 目 小川氏宅 目 広沢町一丁目	内 諏訪神社境 〃	島 広沢町間の	堀の内 二七七八	川内一丁目 二七七八	所在地
宝永3	元文2	寛政6	寛政元	正徳4	宝永2	文政10	元文5	天明7	元禄9	年代	
高さ 95cm 幅 49cm 総高158cm	高さ cm 幅 50cm 総高143cm	高さ cm 幅 37cm 総高 76cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 59cm 総高172cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 69cm 総高170cm	高さ cm 幅 55cm 総高188cm	高さ 30cm 幅 80cm 総高275cm	方量	
不 (青面尊六臂像) (寄進者連名)	奉建立青面金剛塔 元文二丁巳年拾月初五日	千庚申 寛政六甲寅年十一月吉辰	庚申塔 寛政元星賽己酉無射上流 願主	奉建立庚申供養塔 正徳〇年甲〇拾月吉祥日	奉建立庚申供養塔 于時宝永二年乙酉〇月 十一〇〇〇 本〇〇〇〇清	青面金剛 文政十丁亥年六月吉祥日	青面金剛 元文五庚申供養 九月吉日 村中	庚申塔 溪嶽〇敬書 当村講中 天明七丁未仲冬吉祥	(青面尊六臂像) 于時元禄九年 園田右〇門他八名	銘文	
一瑞雲 二邪鬼 三猿	板碑型 瑞雲日月 一邪鬼 二猿	清水商店下 三〇〇m		笠付 日月 二鶏 三猿	日月	自然石	自然石	自然石 吞竜様墓地	二鶏二猿 笠付角塔	備考	

29	28	27	26	25	24	23	22	21	番
千庚申	青面	百庚申	文	文	文	文	文	文	番形
光明寺 目 宮本町二丁	口 旧天神三丁目 重足寺入	塚 目 境野町六丁 五宝院庚申	成就院 目 境野町二丁	賀茂神社 目 境野町七丁	稻荷社裏 仲町三丁目	スタール入口 東七丁目	重恩寺 東三丁目	観音院 東二丁目	所在地
弘化4	正徳2	寛政元	天明7	寛文8	元禄9	文政13	享保15	天明7	年代
高さ cm 幅 64cm 総高 93cm	高さ 80cm 幅 38cm 総高115cm	高さ cm 幅 65cm 総高168cm	高さ cm 幅 77cm 総高227cm	高さ cm 幅 55cm 総高131cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅 48cm 総高132cm	高さ cm 幅 95cm 総高204cm	方量
青面金剛 弘化四年在丁未冬十月吉辰日	(青面尊像) 正徳二年壬辰三月	庚申塔 寛政元酉霜月吉辰 (寄進者二十一名連名)	庚申塔 天明七年丁未九月建 東江源隣書印	卍 為庚申供養也 敬白 寛文八年十月十八日	奉供養庚申像 元禄九年丙子二月十六日	奉納千庚申文政十三庚寅年八月吉日	庚申塔 享保十五戌天十月吉日	庚申塔 天明七丁未年七月日 東都片山勝永字敬書	銘文
青面像一基	庚申三六基 青面塔六基 青面像一基	他に万延元年銘を含む一九〇体の 庚申あり 造立年ほとんどなし		日月 二猿 蓮弁	日月 三角型	日月 三猿	笠 日月 一鶏一猿		備考

上州の庚申塔（桐生市）

39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	番 形
文	文	青 面	文	文	青 面	文	青 面	青 面	青 面	所 在 地
薬師堂 目橋場 梅田町五丁	馬立原 目 梅田町五丁	津久原 目 梅田町五丁	石鴨天満宮 目 梅田町五丁	//	上藤生 目 梅田町五丁	文昌寺 菱町黒川	墓地 菱町黒川	大蔵院 丁目 東久方町一	長福寺 目 宮本町三丁	
天明7	不 明	安永2	寛政12	寛政6	寛政4	延宝8	享保元	万延元	元禄13	年 代
高さ 93cm 幅 33cm 総高 cm	高さ 74cm 幅 34cm 総高 cm	高さ 62cm 幅 31cm 総高 cm	高さ 62cm 幅 32cm 総高 cm	高さ 78cm 幅 31cm 総高 cm	高さ 57cm 幅 30cm 総高 cm	高さ cm 幅 47cm 総高158cm	高さ 51cm 幅 51cm 総高158cm	高さ cm 幅 62cm 総高109cm	高さ 47cm 幅 63cm 総高200cm	方 量
百庚申 天明七丁未年	寛文 青面金剛塔 願主 敬白	安永二癸巳年七月吉日 (青面尊六臂像)	寛政十二庚申天 十月吉日	寛政六寅天 百庚申供養 十一月吉日	寛政四壬子年 (青面尊六臂像) 九月吉祥日 願主向田氏	延宝八天三月吉日 奉建立庚申供養	于時享保元年丙申九月吉日 (青面尊像) 施主 中里	萬延元庚申年九月穀旦敬造立 (青面尊像) 茂木小兵衛他十三名	元禄十三年庚辰十月吉日 (青面尊像) 奉造立庚申供養	銘 文
楷書 自然石	楷書 自然石	ラ 長谷寺参道 舟形シヨケ	楷書 自然石 一石百庚申	姿見墓石形 旧道入口 上藤生への	起舟形 岐点 三境林道分	二鶏 二猿			二鶏 三猿	備 考

49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	番 形
文	青 面	青 面	青 面	青 面	文	青 面	青 面	青 面	文	所 在 地
金沢 目 梅田町一丁	の瀬目 場橋北西 梅田町二丁	//	口護目 国薬師社 入前丁	持目 丸 梅田町三丁	荷場 目 梅田町四丁	温泉目 湯本 梅田町四丁	温泉目 湯本 梅田町四丁	皆目 沢 梅田町四丁	路目 皆沢西三差 梅田町四丁	
元文5	正徳3	元禄8	元禄4	享保15	天明5	享保11	享保19	享保15	天明7	年 代
高さ108cm 幅 89cm 総高 cm	高さ 50cm 幅 30cm 総高 70cm	高さ 86cm 幅 63cm 総高 cm	高さ 66cm 幅 54cm 総高 cm	高さ 76cm 幅 45cm 総高 cm	高さ 53cm 幅 22cm 総高 cm	高さ106cm 幅 43cm 総高 cm	高さ 68cm 幅 36cm 総高107cm	高さ102cm 幅 41cm 総高 cm	高さ124cm 幅 55cm 総高 cm	方 量
庚申供養塔 万民安楽 元文五庚申天十月吉日 金沢講中	天下泰平 庚申供養塔 三猿 (青面尊六臂像)	元禄八亥歳 (青面尊四臂像) 十一月吉祥日	元禄四年 (青面尊四臂像)	奉造堂庚申 (青面尊六臂像) 享保十五庚戌吉日 (二鶏)	法華塔 庚申塔 天明五乙巳年十二月吉日 (一猿)	享保十一丙午天 (青面尊六臂像) 八月朔日 (日月) (三猿) (二鶏) (邪鬼に乗る)	享保十九年 (青面尊六臂像) 冬十月吉日 (二鶏一猿)	享保十五戌歳 (青面尊四臂像) 九月吉日 當村	(裏面) 天明七丁未年八月二十六日 百庚申供養 願主 當村中	銘 文
行書 自然石	舟形半彫	舟形	舟形	日月 舟形	楷書 姿見墓石形	子育観音堂 板碑形 シヨケラ	温泉神社 舟形半彫一 面六手	二鶏 日月 二猿	楷書 自然石	備 考

53	52	51	50	番 形
青面	青面	青面	文	所在地
堀の内 川内一丁目 二七七八	渭雲寺 目居館 梅田町一丁目	薬王殿脇 目山根 梅田町一丁目	兼宮神社裏 梅田町一丁目	梅田町一丁目
元禄16	正徳元	正徳元	享保11	年代
高さ 50cm 幅 40cm 総高119cm	高さ 61cm 幅 35cm 総高 cm	高さ 90cm 幅 31cm 総高173cm	高さ 99cm 幅 46cm 総高 cm	方量
(青面尊六臂像) 元禄十六年癸未八月日 庚申供養	(青面尊六臂像) 正徳元卯天 十月吉日□□氏	(青面金剛像) 正徳元年十月吉祥日	庚申供養塔 奉供養庚申青面金剛尊像 十月吉祥日 願主 敬白	銘 文
三 月 三 猿	舟形 二鷄三猿	二鷄三猿	笠付角柱形 楷書三猿	備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形
青面	文	文	幢	文	文	文	文	文	文	伊勢崎市
中町 會議所	連取町 上吉原墓地	太田町 五郎神社	昭和町 天増寺	波志江町一 丁目 宮貝戸	田中町 諏訪神社	連取町 上吉原墓地	鹿島町 中下町會議所	太田町八八 四 細野家墓地	波志江町二 丁目	所在地
元禄5	貞享3	延宝5	延宝3	延宝1	寛文10	寛文9	寛文5	寛文2	万治3	年代
高さ 85cm 幅 39cm 総高101cm	高さ 62cm 幅 26cm 総高 cm	高さ107cm 幅 42.5cm 総高 cm	高さ191cm 幅 51cm 総高 cm	高さ136cm 幅 34.5cm 総高 cm	高さ 83cm 幅 38.5cm 総高 cm	高さ 98cm 幅 37cm 総高 cm	高さ105cm 幅 47cm 総高 cm	高さ 115cm 幅 31.5cm 総高159cm	高さ138cm 幅 48cm 総高 cm	方量
(青面尊六臂像) 元禄五壬申年亮弁 霜月十五日 敬白 (十九名略)	貞享三丙寅歳 奉庚申供養家内長久処 閏五月一日飯嶋大性院 敬白 願主	于時延宝五丁巳天 如月吉日 施主(十二名略) 敬白	奉造立庚申供養 延宝三乙卯天九月共五日 (六名略) 敬白	延宝元癸丑年結衆等宮貝戸二世 奉造立石塔庚申供養爲也(蓮) 十月廿日 施主敬白 安樂	于時寛文十年戌二月吉日(願文略) 奉造立庚申供養石塔 之塔婆者遍	寛文九己酉天 奉造立庚申之塔婆也 于時 霜月朔日 施主(十六人略)	寛文五年 奉供養青面金剛 已如月吉日	寛文二壬寅□ 十月□日 施主(人名不明)	万治三庚子年二月十八日 心指□□□□ (人名八人略)	銘 文
瑞雲日月 二鷄三猿 胸形	板碑形	二鷄二猿 板碑形	一鷄一猿 石幢	日一鷄一 猿 板碑形	二鷄二猿 板碑形	一鷄二猿 板碑形	一鷄一猿 板碑形	笠付 一猿一鷄 日	一猿 板碑形	備考

19	18	17	16	15	14	13	12	11	番
青 面	青 面	灯	青 面	青 面	青 面	青 面	青 面	青 面	番 形
丁目 波志江町三	赤坂橋下 太田町五六	〃	堀口町 昌雲寺	三和町 曙不動尊	長沼本郷町 観音寺	連取町 宝幢院北	馬見塚 清水町	国領町 蕪川南	所在地
宝永 7	宝永 4	宝永元	宝永元	元禄 16	元禄 15	元禄 12	元禄 7	元禄 7	年 代
高さ 85cm 幅 43.5cm 総高 cm	高さ 87.5cm 幅 37.5cm 総高 cm	高さ 122cm 幅 58.5cm 総高 cm	高さ 105cm 幅 55cm 総高 206cm	高さ 81.5cm 幅 36cm 総高 99cm	高さ 78.5cm 幅 34cm 総高 cm	高さ 92cm 幅 52cm 総高 cm	高さ 62cm 幅 22.5cm 総高 111cm	高さ 80cm 幅 37.5cm 総高 cm	方 量
〇永七稔庚寅 (青面尊六臂像) 閏八月吉日 右廿四人施主敬白	宝永四年亥 施主 (青面尊六臂像)(一二名略) 十二月吉日 敬白	皆宝永元年 施主(六名略) 奉建立庚申 宝前石燈籠 甲申十一月廿四日謹敬白	諸願成就二世安樂所 奉造立石仏 庚申供養 (青面尊六臂像) (六名略) 宝永元年甲申十一月廿四日 諸願成就二世安樂所	于時元禄十六癸未年 上植木村 (青面尊六臂像) (台正法院)(他) 庚申十一月十八日	奉供養石塔施主 (青面尊四臂像) 元禄十五壬午天十月吉日	(青面尊六臂像) 元禄十一卯年十一月吉日 (台)(六名略)	奉庚申供養 (青面尊四臂像) 元禄七年戌十月日 (六名略)	庚申供養證菩提 (青面尊六臂像) 元禄七甲戌年十月共六日 施主敬白 那波郡 国領村	銘 文
舟形 日月 一鶏一猿	起舟形 瑞雲日月 二鶏三猿	灯籠一对	笠付 日月 二鶏三猿 二童子 四葉叉	舟形 瑞雲日月 二鶏三猿	駒形 瑞雲日月 二鶏三猿	起舟形 瑞雲日月 一鶏一猿	笠付 日月 一鶏一猿	駒形 日月 瑞雲 二鶏三猿	備 考

28	27	26	25	24	23	22	21	20	番
青 面	青 面	像	青 面	青 面	文	青 面	青 面	青 面	番 形
富塚町二四	中町和田三	曲輪町 同聚院	安堀町西太 田 観音堂	日乃出町 雲晴院	華藏寺町 御嶽山	太田町八八 四 細野家墓地	波志江町二 丁目五四一	安堀町三八 四 吉沢家墓地	所在地
享保 6	享保 5	享保 2	享保元	享保元	正徳 4	正徳 3	正徳 2	正徳元	年 代
高さ 137cm 幅 36.5cm 総高 192cm	高さ 85cm 幅 45cm 総高 101cm	高さ 114cm 幅 38cm 総高 197cm	高さ 93cm 幅 34cm 総高 137cm	高さ 66cm 幅 45cm 総高 cm	高さ 67cm 幅 30.5cm 総高 109cm	高さ 77.5cm 幅 40cm 総高 90.5cm	高さ 84cm 幅 41cm 総高 cm	高さ 76cm 幅 35cm 総高 103cm	方 量
享保六年辛丑十一月吉日 (青面尊六臂像) (六名略)	奉造立庚申塔二世安樂依 (青面尊六臂像) 享保五天子十一月吉日 施主	(丸彫地藏立像) (台庚申供養)(願文略) 当町願主 善男善女	享保元年申(二十四名略) 霜月四日起立之 (青面尊六臂像) (十八名略) 奉供養宝塔	享保元申天 (青面尊六臂像) 九月吉日	奉待供養庚申天 正徳四歲甲午十一月二十七日講人 信心講主 〇〇〇〇〇〇	正徳三年 (青面尊六臂像) 巳四月吉日 (七名略)	奉造立青面金剛 (青面尊六臂像) 正徳二王〇〇〇〇〇〇 (六名略)	正徳元辛卯年 (青面尊六臂像) 十月吉日 (十名略)	銘 文
笠付 日月 二鶏一猿	舟形 瑞雲日月 二鶏三猿		笠付 日月 二鶏三猿	舟形 日月 一鶏一猿	笠付 日月	舟形 日月 一鶏一猿	舟形 日月 一鶏一猿	舟形 二鶏一猿	備 考

35	34	33	32	31	30	29	番
青面	青面	青面	文	青面	文	文	形
真光寺 今井町	慈眼寺 上之宮町	馬見塚 一四八八	波志江町二 丁目 中屋敷	日乃出町 雲晴院	下蓮町 公民館	波志江町一 丁目 (宿波志江)	所在地
寛保2	元文3	元文元	享保8	享保8	享保7	享保7	年代
高さ76cm 幅44cm 総高111cm	高さ67cm 幅27.5cm 総高 cm	高さ61cm 幅27.5cm 総高 cm	高さ155.5cm 幅43cm 総高 cm	高さ107cm 幅48.5cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ cm 幅41cm 総高157cm	方量
寛保二戌之天 円普一心上座 兩施主 敬白	元文三戊午年八月八日 (青面尊六臂像) 三月吉日 阿弥大寺村小暮元右衛門 為兩親菩提	元文元年 (青面尊六臂像) 辰十月吉日 羽尾口右衛門	享保八癸卯歲南呂吉祥日 庚申供養塔 上州佐位郡波志江村 (二十名略) 信州高遠中口郡 北原関右衛門	享保八癸卯天 (青面尊六臂像) 四月吉日 神谷村 (六名略)	享保七壬寅天 奉庚申供養 十一月吉日 上那波波領下蓮沼村	享保七壬寅年十月吉日 (台)施主当村中	銘
二鶏三猿	起舟形 日月 三猿	舟形 日月 二鶏	角柱 日月 三猿二鶴	駒形 瑞雲日月 三猿二鶏	笠付 瑞雲日月 三猿二鶏	尖頭角柱 三猿二鶏 日月	備考

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	番
文	青面	青面	文	青面	文	文	文	青面	文	形
法長寺 目 今泉町二丁	波志江町 二丁目	山王町五二 八 阿弥陀堂	波志江町二 丁目五四一 中之面	曲輪町 善心寺	美茂呂町 退魔寺	三和町 間之原	波志江町 二丁目	戸谷塚町 諏訪神社	本関町一 八九 斎藤家南	所在地
安永6	明和8	明和3	明和2	宝曆14	宝曆10	宝曆5	寛延4	寛延3	延享5	年代
高さ78cm 幅65cm 総高 cm	高さ98cm 幅31cm 総高155cm	高さ91cm 幅36.5cm 総高214cm	高さ115cm 幅50cm 総高135cm	高さ64cm 幅31cm 総高132cm	高さ77cm 幅31cm 総高102cm	高さ107cm 幅35cm 総高155cm	高さ63.5cm 幅26.5cm 総高101cm	高さ67.5cm 幅28.5cm 総高 cm	高さ95cm 幅59cm 総高 cm	方量
庚申塔 西十月吉祥日	丁安永六稔 (青面尊六臂像) 四月吉日 講中	明和八辛卯天 (青面尊六臂像) 那波郡山王堂邑 施主(六名略)	明和二乙酉天十一月吉日 (六名略)	(青面尊六臂像) (台)願主(六名略) (台)宝曆十四年甲申二月吉日	宝曆十庚辰季十一月朔日 庚申塔	宝曆五乙亥歲 庚申塔 十一月吉祥日 (台)組中	寛延四辛未之天 庚申供養塔 三月良辰 (六名略)	寛延三庚午天 (青面尊六臂像) 三月吉日 施主小沢彦七	延享五年 庚申塔 辰正月吉日講中 (左)いせさき道 (右)大まゝ道	銘
自然石	尖頭角柱 日月 三猿	笠付 日月 三猿	自然石 日月	笠付 日月 鬼	笠付 瑞雲日月	尖頭角柱 二鶏三猿 日月	笠付	二鶏三猿 日月 尖頭角柱	自然石 複道標	備考

上州の庚申塔（伊勢崎市）

54	53	52	51	50	49	48	47	46	番号
文	文	文	青面	文	青面	文	文	青面	形状
阿弥陀堂 岡屋敷 波志江町	宮貝戸 一丁目 波志江町	延命寺 馬見塚中町	観月院 田中島町	清水町 馬見塚	墓地 堀田家西の	阿弥陀堂 岡屋敷 丁目 波志江町二	常清寺 東本町	三ツ谷 七 太田町一九	所在地
寛政12	寛政12	寛政10	寛政3	寛政元	寛政元	天明8	天明3	安永9	年代
高さ134cm 幅52cm 総高 cm	高さ110cm 幅61cm 総高 cm	高さ104cm 幅41cm 総高 cm	高さ71cm 幅36.5cm 総高102cm	高さ114cm 幅40cm 総高 cm	高さ72cm 幅30cm 総高 cm	高さ117cm 幅68cm 総高 cm	高さ64cm 幅26cm 総高 cm	高さ65cm 幅37cm 総高 cm	方量
寛政十二庚申星 青面金剛尊 仲冬大吉祥日 当組中	寛政十二龍集庚申 八月大吉祥日	庚申碑 寛政十戊午年霜月吉祥旦 向松剣二謹書 講中九人	寛政三辛亥天正月吉日 （青面尊六臂像） （台）供養塔 講中	庚申塔 寛政改元己酉龍集仲冬吉日 劍二謹書	寛政元己酉十月吉日 （青面尊六臂像） 施主津久井彦兵衛	天明八龍集庚申十二月吉祥日 庚申塔 岡屋敷講中	天明三癸卯三月庚申日 庚申塔 施主下植木村伊勢崎町今泉村 願主 善心	（青面尊六臂像） 施主（四名略）	銘
自然石	自然石 日月	駒形	瑞雲日月 三猿	駒形 行書	角柱 瑞雲日月 三猿	自然石	尖頭角柱	舟形 瑞雲日月	備考

61	60	59	58	57	56	55	番号	
文	文	文	文	文	青面	文	形状	
延命寺 曲輪町	赤城神社跡 三和町書上	観音堂 西太田	安堀町 金井家西	馬見塚三 橋町	波志江町三 丁目 金蔵寺	山王町 道伝	下道寺町六 三三 橋本家西	所在地
万延元	万延元	安政7	嘉永6	文化14	享和元	寛政12	年代	
高さ78cm 幅28cm 総高 cm	高さ160cm 幅151cm 総高 cm	高さ93cm 幅57.5cm 総高123cm	高さ23.5cm 幅14cm 総高 cm	高さ75cm 幅29cm 総高123cm	高さ84cm 幅31cm 総高195cm	高さ113cm 幅60cm 総高 cm	方量	
万延元庚申九月吉祥日 紺屋町 高橋多吉	庚申 一菴美孝書 万延元年庚申春庚申日建之組中 石橋供養	庚申塔 安政七龍次庚申年二月吉日建之	百村百庚申 嘉永六癸丑八月吉日建之	文化十四丑年九月大由日 庚申 講中 （六名略） 悉能満足洪羅密 当樂豊饒生勝族 由莫山拜書 石工 西村安與澄	（裏） （青面尊六臂像） 奉納百庚申供養 （裏） （台）庚申一五二 （一庚申塔）四七 計九九あり	享和元年辛酉 霜月吉辰 （裏） 我輩尊守庚申四十載于此今茲 寛政十二歳以庚申「且有奇祥十二 月吉立石以勤」積陀云 当所寺 多賀谷氏 七人講中	庚申 文	
自然石	行書 自然石	自然石 日月	自然石	角柱	角柱 四段の基礎 日月 一石百庚申	自然石	備考	

67	66	65	64	63	62	番形
青面 清音橋西	青面 茂呂町一丁	文 二七四一	文 華藏寺町	文 茂木家西	文 下道寺町	所在地
不明	不明	慶応3	万延2	万延元	万延元	年代
高さ55cm 幅33cm 総高cm	高さ110cm 幅44cm 総高cm	高さ75cm 幅55.5cm 総高cm	高さ112cm 幅42.5cm 総高cm	高さ64cm 幅69cm 総高cm	高さ123cm 幅31cm 総高cm	方量
(青面尊六臂像)	(青面尊六臂像) 釈迦文仏 青面金剛	村百 庚申塔 慶応三卯花月庚申日立之 当所斎藤百行	庚申塔 当所塩野求左エ門合掌 万延辛酉年二月庚申日	庚申塔 万延元庚申歲 十一月吉日 洲上中	(裏) 猿田彦大神左やったわたし 右五れう道 万延紀元庚申歲拜庚申尊一万基 同秋九月庚申日建之下道寺村中	銘 文
三猿 シヨケラ	舟形 日月 三猿二鶏	自然石	自然石	石白	円柱形	備考

9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
青面 只上 三ツ堀 常盛庵跡	像 市場 東応寺	像 長手 浅間神社	像 浜町 地藏院	像 台之郷 江徳寺	像 大島	像 上田島 常楽寺	像 茂木 正願寺	文 東長岡 長運寺	所在地
寛文13	寛文10	寛文9	寛文9	寛文8	寛文8	寛文6	寛文6	寛文2	年代
高さ125cm 幅45cm 総高cm	高さ120cm 幅75cm 総高cm	高さ157cm 幅65cm 総高cm	高さ104cm 幅66cm 総高cm	高さ95cm 幅60cm 総高cm	高さ112cm 幅48cm 総高cm	高さ122cm 幅60cm 総高cm	高さ99cm 幅53cm 総高cm	高さ122cm 幅48cm 総高cm	方量
(青面尊六臂像) 寛文十三癸丑七月廿日 三堀村	(地藏像) 寛文十〇戌年十月吉祥日 奉造立庚申 施主	(地藏像) 寛文九己酉九月吉日 奉造立庚申待供養 長手村 施主	(地藏像) 寛文九年〇〇七月吉日 奉造立〇〇供養 施主	(地藏像) 寛文八〇〇〇 奉造立庚申〇〇供養 (四一名略)	(地藏像) 寛文八年〇〇十月吉日 奉造立〇〇〇〇	(地藏像) 寛文六〇〇〇天十月六日 奉造立〇〇〇〇	(地藏像) 寛文六〇〇〇七月吉日 庚申待供〇〇	寛文二壬寅年折秋吉祥日 彭候尸 彭常尸 命児尸 南〇菩提大日本国東山道上野州山田郡 蘭田荘 新田領東長岡郷伊豆山村庚申供養人数 廿七人 奉建立石塔一字者也〇主敬白	銘 文
日月 二猿二鶏	日月 二猿二鶏	板碑形 日月 二猿二鶏	日月 二猿二鶏	日月 二猿	日月 三猿二鶏	日月 二猿二鶏	日月 二猿二鶏	板碑形 日月 二猿二鶏	備考

太田市

上州の庚申塔（伊勢崎市・太田市）

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	番形
文 唐吉 沢沢	青面 実相寺 沖之郷	青面 成塚 向山南斜面	青面 八州屋前 諏訪由良	青面 円福寺 別所	青面 丸山薬師	青面 新田墓地 牛沢	青面 常楽寺 上田島	文 藤本家前 東金井	像 聖王寺 寺井	所在地
元禄10	元禄5	天和3	延宝8	延宝8	延宝4	延宝3	延宝3	延宝3	延宝2	年代
高さ78cm 幅36cm 総高 cm	高さ112cm 幅45cm 総高 cm	高さ141cm 幅43cm 総高 cm	高さ157cm 幅56cm 総高 cm	高さ104cm 幅44cm 総高 cm	高さ118cm 幅70cm 総高 cm	高さ105cm 幅37cm 総高 cm	高さ116cm 幅37cm 総高 cm	高さ96cm 幅43cm 総高 cm	高さ92cm 幅47cm 総高 cm	方量
元禄拾天□□十月十六日 奉造立為二世安楽 石像一字庚申并石橋□□供養 施主惣村	元禄五壬申十一月吉日 （青面尊六臂像） 奉□□庚申供養二世安楽所 沖之郷村中	（青面尊四臂像） 天和三年寅十月廿一日 奉造立庚申供養	（青面尊六臂像） 延宝八庚申天十一月五日 奉庚申供養石像一体信心 当村道俗	（青面尊六臂像） 延宝八庚申年八月吉日 奉造立庚申石影一跡為二世安楽 本願	（青面尊二臂像） 延宝四□□辰天十月十一日 奉造立庚申石影一跡為二世安楽 結衆	（青面尊六臂像） 延宝三乙卯十一月吉日 奉造立庚申供養 牛沢村	（青面尊四臂像） 延宝三年十月吉日 奉造立庚申供養 杉内村 施主卅人	延宝三年□□十月三日 奉造立為庚申供養二世安楽 南金井村	（地藏像）施主 延宝二年寅十一月吉日	銘 文
	鬼 日月 二鶏三猿	舟形 瑞雲日月 二鶏二猿	舟形 日月 二鶏三猿	日月 二鶏三猿	舟形 日月 二鶏二猿	三猿二鶏	舟形	日月	日月 二猿二鶏	備考

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	番形
文 教王寺 細谷	文 北金井 大鷲神明宮	青面 東矢島 葉王寺	文 八重笠 正竜寺	青面 竜舞 正運寺	青面 聖王寺 寺井	文 江徳寺 台之郷	青面 丸出八五八	文 一四四 矢田堀	青面 本郷 東別所	所在地
元文5	享保19	享保13	享保元	正徳3	正徳2	正徳元	宝永7	宝永6	元禄11	年代
高さ68cm 幅45cm 総高 cm	高さ168cm 幅110cm 総高 cm	高さ100cm 幅40cm 総高 cm	高さ170cm 幅36cm 総高 cm	高さ175cm 幅52cm 総高 cm	高さ120cm 幅52cm 総高 cm	高さ71cm 幅40cm 総高 cm	高さ95cm 幅47cm 総高 cm	高さ157cm 幅45cm 総高 cm	高さ90cm 幅44cm 総高 cm	方量
青面金剛塔 元文第五慈海庚申八月十二日 細谷村原口講中	庚申供養 享保十九天甲寅四月吉日	（青面尊六臂像） 享保十三申天二月吉日 東矢島村施主田屋中	庚申供養塔 享保元丙申十一月吉日 八重笠村らくかき 庚申講中	（青面尊六臂像） 正徳三癸巳天三月吉祥日 為現当二世 らくかききんせい 龍舞村上宿 三十三軒	（青面尊六臂像） 正徳二壬辰年十月日 奉造立庚申供養 寺尾村 一結	奉供養庚申二世安楽也 正徳元卯天十一月吉日	（青面尊六臂像） 奉供養庚申二世安楽所 同行廿二人 宝永七庚寅天十月吉祥日	奉供養青面金剛塔 吉沢村施主廿五人 宝永六天己丑十一月大吉日	（青面尊六臂像） 元禄十一戌寅十月吉日 奉建立八面石像一跡二世安楽 施主村中	銘 文
日月	二瑞雲日月 二鶏三猿	自然石 三猿二鶏 シヨケラ鬼	日月	鬼 二鶏三猿	日月 二鶏三猿	三猿二鶏	日月	日月	日月 二鶏三猿	備考

39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	番 形
青面	文	文	文	文	文	青面	青面	文	文	所 在 地
八重笠 四三〇	牛沢新田 墓地	長手入口 道端	東金井 庚申様	竜舞 御霊神社	東金井 玉殿寺	丸山七二〇	丸山薬師	吉沢 学音寺	沖野 延命寺	
文化2	寛政12	寛政12	天明8	宝暦12	寛延1	延享3	元文5	元文5	元文5	年 代
高さ65cm 幅29cm 総高 cm	高さ72cm 幅30cm 総高 cm	高さ160cm 幅70cm 総高 cm	高さ151cm 幅111cm 総高 cm	高さ117cm 幅57cm 総高 cm	高さ150cm 幅90cm 総高 cm	高さ77cm 幅32cm 総高 cm	高さ125cm 幅41cm 総高 cm	高さ130cm 幅92cm 総高 cm	高さ85cm 幅46cm 総高 cm	方 量
(青面尊六臂像) 文化三寅十一月吉日 村中	寛政十二庚申十一月吉日 庚申塔 うしぎわ村 かすミ中	寛政十二庚申十月吉日 庚申塔	天明八戊申稔仲秋 庚申塔 東金井邑中	宝暦壬午天十月吉日 庚申塔 龍舞村原中	寛延元年十二月 庚申 内金井村	延享三丙寅十月吉日 (青面尊六臂像) (丸山村講中八人)	元文五庚申天十月吉日 (青面尊六臂像) 丸山村中	元文五天十月大吉日 奉供養青面金剛□塔 七日市 村中	元文五庚申歲九月吉祥日	銘 文
日月鬼 シヨケラ 三猿						日月鬼 二鶏三猿	日月鬼 シヨケラ 二鶏三猿		自然石	備 考

49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	番 形
文	文	文	百庚申	文	像	青面	文	青面	文	所 在 地
藤阿久	瑞光寺 強戸	牛沢新田 墓地	高林 長勝寺 庚申塚	牛沢新田 墓地	上田島 鳥ヶ谷戸	古氷四八	下小林 一行寺	古氷五八	西長岡 長岡寺	
万延元	万延元	万延元	万延元	万延元	万延元	安政4	嘉永元	文化9	文化8	年 代
高さ70cm 幅45cm 総高 cm	高さ165cm 幅105cm 総高 cm	高さ90cm 幅63cm 総高 cm	高さ65cm 幅60cm 総高 cm	高さ104cm 幅58cm 総高 cm	高さ78cm 幅29cm 総高 cm	高さ67cm 幅28cm 総高 cm	高さ70cm 幅37cm 総高 cm	高さ67cm 幅30cm 総高 cm	高さ65cm 幅29cm 総高 cm	方 量
萬延元庚申十一月吉日 藤阿久村中	萬延元庚申年十一月吉日 庚申 講中	萬延元年庚申十一月十六日 庚申 牛沢村 石工妻沼 須藤又右衛門	萬延元申年十月吉日 庚申	萬延元庚申年冬十月日 庚申 牛沢村宿曲輪中	元延元年庚申九月日 (猿田彦像) 猿田彦大神 施主 加藤	安政四年十月吉日 (青面尊六臂像)	嘉永元年申十月十六日 千庚申供養 願主長谷川富右衛門	文化九壬申十月吉日 (青面尊六臂像)	文化八未閏二月吉日 千庚申 西三人	銘 文
			計六〇基	日月	板状塔 瑞雲日月	日月鬼 シヨケラ		日月二鬼 シヨケラ		備 考

51	50	番 形
文	文	所 在 地
瑞強 光戸 寺	唐吉 沢沢	年 代
寛政3	万延元	方 量
高さ70cm 幅50cm 総高 cm	高さ96cm 幅42cm 総高 cm	銘
庚申 寛政三辛亥年十月吉日 子供講中	庚申 万延元年庚申霜月□□	文
自然石		備 考

6	5	4	3	2	1	沼 田 市
文	青 面	青 面	文	文	文	番 形
愛坊 宕新 社新 田町	安坊 楽新 寺跡田 町	材木 桂町 寺	柳 町 三年 坂	材木 桂町 寺	沼田 市柳 町	所 在 地
万延元	元禄9	正徳5	文政元	文化10	元禄7	年 代
高さ208cm 幅118cm 総高246cm	高さ79cm 幅38cm 総高93cm	高さ81.5cm 幅42cm 総高103.5cm	高さ68cm 幅30cm 総高68cm	高さ180cm 幅98cm 総高210cm	高さ74cm 幅450cm 総高128cm	方 量
庚申 施主坊新田町中 萬延元庚申歲閏三月庚申日	(青面金剛四臂像) 元禄九天丙子十一月七日	(正面)(青面尊六臂像) 正徳五乙未天 十一月十三日 真下三良右工門 石坂力三丞 小林右□丞 木村□□ 塚平助 小林九条八 大沢市右工門	(庚申文字六列七段刻む) 百庚申 (同右) (裏)(庚申文字二列一段二列二段刻む) 文政元年戊寅十一月吉日	庚申 (裏)文化十癸酉八月吉辰 壇中建之 廣久忠誌	元禄七 藤右工門 奉造立供養 綾忠丘衛 九兵衛 保之亟 李兵衛 清右工門 五兵衛	銘
自然石 篆書	舟形 光背型 二猿二鶏	舟形 光背型	尖頭角柱 百の庚申文 字を刻む 一石百庚申	自然石 篆書	笠付 角柱型 日月 一猿二鶏	文 備 考

13	12	11	10	9	8	7	番
層	青面	殿	層	文	文	青面	形
口 新町 高橋保家入	戸鹿野町 東源寺	榛名町 榛名神社	〃	正覚寺 鍛冶町	柳町 観楽院	材木町 舒林寺	所在地
不明	享保14	不明	不明	文政7	元禄8	延宝2	年代
高さ 18cm 幅 60cm 総高186cm	高さ113cm 幅 40cm 総高 56cm	高さ 34cm 幅 53cm 総高102cm	高さ295cm 幅 68cm 総高295cm	高さ206cm 幅 76cm 総高306cm	高さ 87cm 幅 55cm 総高135cm	高さ103cm 幅 49.5cm 総高122cm	方量
(一層目二猿と蓮華 二層目蓮華 三層目二鶏)	(正面)青面金剛像 (台石正面) (台石右) (台石左) 青面 施當 享保十四 主 己酉歳 奉建立十一月吉日 金剛	(二鶏) (二猿)	(正面) 一層目に蓮華 三層目に二鶏 四層目に月 五層目に日	(裏) 文政七年甲申二月良辰 石工 小林伊左衛門周宣 鍛冶町中 庚申 藤賢和敬□印	元禄八年 奉供養庚申 亥十月十九日	奉建立申供養 木檜七左エ門 (青面尊六臂像) 延宝二年甲寅 三月吉日 (重)	銘
層塔型 (三層)	光背型 三猿	石殿型	層塔型	自然石	笠付型 日月 二鶏	舟形 光背型 三猿二鶏 シヨケラ	備考

21	20	19	18	17	16	15	14	番
文	青面	青面	青面	青面	殿	殿	青面	形
〃	〃	上沼須町 金剛院跡	沼須町 砥石神社	沼須町 愛宕山	沼須町 金井基行家	〃	新町 千日堂	所在地
宝永元	享保14	天明5	享保6	享和2	不明	不明	延宝8	年代
高さ 74cm 幅 31.5cm 総高 74cm	高さ 95cm 幅 35cm 総高 95cm	高さ 93cm 幅 29cm 総高147cm	高さ 69cm 幅 40cm 総高 83cm	高さ 61cm 幅 31.5cm 総高 61cm	高さ 87cm 幅 52cm 総高 87cm	高さ 30cm 幅 46cm 総高 71cm	高さ 68cm 幅 52cm 総高 91cm	方量
寶永元年 庚申供養 甲申七月九日 (三猿)	政左衛門 左玄平 左平治 (青面金剛像) 享保十四己酉天八月吉日 施主 天右衛門 又右衛門 仲左衛門	(青面金剛像) (台石左)天明五乙巳五月吉日 (台石右)惣村願主	(青面金剛像) (台石正面) 享保六 庚申供養 十二月吉日 金井	享和二年壬辰 三月吉日 星野氏 (青面金剛像)	(日月)二鶏 (二猿)	(鶏) (二猿)	延宝八年四月五日 (青面尊六臂像)	銘
起舟板碑型 三猿二鶏	光背型	光背型	舟形 光背型 猿がヘイソクを持つ 一猿二鶏	光背型	石殿型	石殿型	笠付型 三猿二鶏	備考

上州の庚申塔（沼田市）

30	28	27	26	25	24	23	22	番
他	青面	青面	文	青面	文	文	殿	形
楚利 上苑知町	〃	〃	横塚町 延命寺	孝養寺 上久屋町	八幡宮 下久屋町	中平 下久屋町	柴町 十二神社内	所在地
元禄3	正徳2	元禄7	元文5	宝永7	寛政12	天明9	不明	年代
高さ82cm 幅33.5cm 総高82cm	高さ109cm 幅53cm 総高148cm	高さ119cm 幅49cm 総高142cm	高さ150cm 幅39cm 総高210cm	高さ196cm 幅62cm 総高196cm	高さ106cm 幅35cm 総高106cm	高さ74cm 幅29cm 総高126cm	高さ90cm 幅50cm 総高90cm	方量
元禄三年十月吉日 (二鶏) (二猿)	于時正徳二壬辰七月日横塚村利根郡十六人 (青面金剛像) 奉造立青面金剛菩薩垂供養塔二世安樂所施主敬白	于時元禄七甲戌歳十二月吉日 (青面金剛像) 奉造立庚申供養同行七人敬白	于時元文五庚申天 庚申供養 閏七月吉祥日	于時宝永七庚寅天 九月念一日 (青面金剛像) 腰越村施主 十三人	于時寛政十二庚申仲冬建之 (裏) 永井講中	于時天明九辰年願主十四人 庚申塔 十月吉日	(二猿) (台猿)奉供養 (三青面金剛)	銘 文
板碑型	光背型	光背型	角柱型	笠付型	自然石	角柱型	石殿型 の 白石は別も	備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番
文	文	文	文	殿	殿	文	青面	青面	青面	形
龍淵寺入口	苑知新田町	塚原	中苑知町	大陣山	〃	〃	香林寺入口	細通	門前墓地	所在地
享保21	天保10	元文6	元禄7	不明	不明	明和7	元禄7	正徳2	元文2	年代
高さ170cm 幅58cm 総高170cm	高さ73cm 幅62cm 総高73cm	高さ128cm 幅53cm 総高128cm	高さ78cm 幅50cm 総高151cm	高さ74cm 幅38cm 総高74cm	高さ73cm 幅43cm 総高73cm	高さ80cm 幅52cm 総高188cm	高さ125cm 幅48cm 総高147cm	高さ80cm 幅46cm 総高104cm	高さ34cm 幅36cm 総高68cm	方量
庚申供養塔 三月吉日 村中	享保廿一丙辰天 天保十年 亥六月加藤氏	猿田彦命 于時元文六辛酉天 宮崎村 同行十人	于時元禄七年三月吉日 庚申待供養 上州利根郡 三十四人敬白	(石祠内に一鶏二猿の御身体あり)	承應□□ 八月□ (二鶏) (二猿)	明和七庚寅年 十一月吉祥日	奉造立庚申供養之塔善男十八人 (青面尊六臂像) 茲時元禄七甲戌年吉祥日願主敬白	正徳二壬辰歳 (青面金剛像) 十月二十八日	(青面尊六臂像) 元文二天巳七月日	銘 文
自然石	自然石	自然石	笠付型	石殿型	石殿型	笠付型	特殊な形態 日月三猿	光背型	磨崖仏 三猿二鶏	備考

48	47	46	45	44	43	42	41	番号
文	青面	青面	文	青面	文	殿	他	形状
奈良町 正圓寺	下佐山町 竹谷戸 水落氏裏	上佐山町 沢浦	上佐山町 岩屋堂	上佐山町 觀音堂	上佐山町 大神宮參道	〃	元新田町 苑知新田町 龍淵寺	所在地
享保2	享保4	元禄7	明和2	宝永5	延享4	不明	元禄6	年代
高さ98cm 幅22cm 総高163cm	高さ86cm 幅54cm 総高173cm	高さ60cm 幅67cm 総高124cm	高さ86cm 幅29cm 総高122cm	高さ78cm 幅45cm 総高136cm	高さ80cm 幅30cm 総高100cm	高さ38cm 幅54cm 総高112cm	高さ96cm 幅65cm 総高172cm	方量
享保二稔 一誉代 奉供粮庚申塔 丁酉九月	(青面金剛像) 享保四亥年卯月吉日 同行六人	奉造立庚申供養為菩提也 (青面尊六臂像) 元禄七歲甲戌二月十一日施主十六人	明和二乙酉天仲秋吉辰講中 庚申供養塔 右札所く主人をん ひだり大ぬま道 申 鶏 (白石正面)	造立庚申供養菩提也 (青面金剛像) 宝永五戊子六月吉小 願主六人	延享四丁卯天 庚申供粮塔 三月吉祥日 主願	(二鶏) (二猿) (右) 口衛門 新兵衛 次兵衛	元禄六年癸 同行 四十二人 西十一月十三日 (三猿)	銘 文
角柱型	笠付型	特殊な型	尖頭 角柱型 (徳道標)	笠付型	角柱型	石殿型	笠付型	備考

55	54	53	52	51	50	49	番号
層	層	文	層	青面	殿	殿	形状
原町 愛宕神社	戸神町 虚空蔵様	岡谷町 辻	秋塚町 峰平 宮田子之吉 家	奈良町 正圓寺入口	奈良町	奈良町 薬師堂下	所在地
不明	承応4	不明	不明	元禄9	不明	不明	年代
高さ249cm 幅59cm 総高249cm	高さ225cm 幅53cm 総高225cm	高さ158cm 幅80cm 総高158cm	高さ163cm 幅45cm 総高163cm	高さ128cm 幅58cm 総高150cm	高さ42cm 幅37cm 総高77cm	高さ40cm 幅58cm 総高104cm	方量
(一層目に二猿 二層目に二鶏 四層目に月天 五層目に日天)	(二層目に二鶏二猿) (右)奉造立 承応四年 拾三人 八月	庚申塔 無幻道人書 (裏) 庚申年吉辰	(一層目に鶏猿 二層目飾り)	元禄九丙子天 奉供養(青面金剛像) 霜月吉日	同行七人 供養□□待 十一月□□ (二猿)	(二鶏) (二猿) (石祠内に仏像が安置されて)	銘 文
五層 層塔型	三層 層塔型	自然石 角田無幻の 書	この塔の近 くに百庚申 の一部が残 されている 二層	光背型	石殿型	石殿型	備考

63	62	61	60	59	58	57	56	番
猿	灯	灯	殿	層	文	青 面	文	形
下川田町 笹尾十王堂	〃	実相院 屋形原町	前原 下川町町	羽黒神社 石墨町	羽黒神社 石黒町	〃	正行院 字楚井町	所在地
不 明	元禄 7	元禄 7	元禄 7	不 明	宝永 7	不 明	文化 7	年代
高さ 31cm 幅 23cm 総高 31cm	高さ 194cm 幅 62cm 総高 194cm	高さ 184cm 幅 60cm 総高 184cm	高さ 37cm 幅 50cm 総高 110cm	高さ 243cm 幅 70cm 総高 243cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ 49cm 幅 43cm 総高 107cm	高さ 82cm 幅 32.5cm 総高 155.5cm	方量
(三猿がそれぞれ丸彫りで造られる)	(竿部分) 奉建立 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 暮冬吉日 元禄七甲戌天	(竿部分) 奉建立石燈籠庚申供養 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 十一月吉日	(ウイン) 峯元禄七甲戌申天 (二鶏) (二)	(一層目に二猿の飾り二層目に二鶏)	峯宝永七庚寅天 五月日同行五拾四人 峯庚申供養	(青面尊六臂像)	(庚申の文字五列七段) 百庚申塔 (庚申の文字五列七段) (裏)庚申の文字三十字 文化七庚午十一月吉日	銘 文
丸彫り		中台に三猿	石殿型 唐破風付	層塔型 四層	光背型	舟形 光背型 三猿	尖頭 角柱型 一石百庚申	備考

8	7	6	5	4	3	2	1	番
青 面	青 面	青 面	青 面	青 面	青 面	文	文	館 林 市
竜泉寺 五本町四丁目	本町二丁目 大道寺	加法師町三 教王院	仲町一二 千眼寺	台宿町 熊野神社	仲町一二 千眼寺	台宿町 熊野神社	朝日町九 法高寺	所在地
元禄元	貞享 3	延宝 8	延宝 7	延宝 2	寛文 12	寛文 8	延宝 8	年代
高さ 116cm 幅 41cm 総高 196cm	高さ 123cm 幅 49cm 総高 133cm	高さ 135cm 幅 45cm 総高 166cm	高さ 118cm 幅 42cm 総高 132cm	高さ 112cm 幅 44cm 総高 cm	高さ 114cm 幅 44cm 総高 133cm	高さ 119cm 幅 47.5cm 総高 cm	高さ 83cm 幅 36.5cm 総高 91cm	方量
元禄元癸酉 〇〇〇〇〇〇 敬白	奉建立同行四十一人 石川茂兵衛 (他五名)	(裏) 延宝八庚申歳 卯月吉祥日	現世安穩 〇生善処為度受樂亦得聞法 延宝七己未年三月二十二日 萩野孫兵衛(他五名)	延宝二甲寅年 十月晦日 稲見十工門(他五名)	奉供養庚申請願安穩心所 寛文十二年子九月十五日 (注 庚申像の首欠損) 敬白	寛文八年 奉壽進庚申待供養 申三月廿一日 前沢傳左工門 (他七名)	延宝八年 奉建立為庚申二世 申九月吉日 東 〇利右工門 (他九名)	銘 文
没 一部地中埋	柱型 像浮彫り	舟型背面 像 三猿浮 彫り	舟型背面 像 三猿浮彫り	舟型背面 像浮彫り	舟型背面 像浮彫り	舟型背面 文字	舟型背面 三猿浮彫り	備考

13	12	11	10	9	番
文	文	文	文	青面	形
五本町四丁目 龍泉寺	五宝寺 台宿町七	〃	朝日町九 法高寺	仲町一〇 觀性寺	所在地
寛政12	寛政3	天明7	元文5	宝永元	年代
高さ91cm 幅48.5cm 総高121cm	高さ95cm 幅47cm 総高133cm	高さ44cm 幅24.5cm 総高56cm	高さ91cm 幅30cm 総高100cm	高さ99cm 幅44cm 総高119cm	方量
庚申塔 (台表)寛政十二庚申歳 十一月吉祥日 馬場跡 講中 谷越村	寛政三年亥年 庚申塔 四月吉祥日 (台表) 足利町 石工 佐七 壹宿町施主次方不同 増田三良左エ門 (他四十四名) 荒井六右衛門	天明丁未年 青面金剛 三月吉日 兼田氏	元文五庚申歳十二月 青面金剛塔 臺宿町講中 加法師	奉納庚申供養 施主 叶院 一雲 禁譽 □田□□門 和田安右衛門 □□□□□□ 左衛門	銘
自然石 文字	厚碑型 文字	駒型 文字	駒型 文字	舟型背面 像 三猿浮彫り	備考

20	19	18	17	16	15	14	番
文	青面	青面	青面	青面	青面	青面	形
千塚判官塚	宝寿院 四ツ谷	田谷墓地	宝寿院 四ツ谷	薬師堂 当郷	御堂 新当郷字大	細内墓地東	所在地
享保20	享保11	宝永5	元禄5	貞享2	延宝7	寛文5	年代
高さ98cm 幅32cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高167cm	高さ124cm 幅50cm 総高 cm	高さ86cm 幅44cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高210cm	高さ cm 幅 cm 総高167.5cm	高さ cm 幅 cm 総高213cm	方量
享保廿乙卯天十一月吉祥日 青面金剛供養塔	奉造立庚申供養塔上劔邑楽郡四ツ谷村 享保十一年丙午年二月吉祥日施主村中	奉造立庚申供養塔 上野國邑楽郡 宝永五年戊子十月吉祥日 佐実(貫か)庄田谷村	元禄五壬申年 十月吉祥日 奉造立 庚申 供養塔 敬白	(台裏) 施主 敬白 于時 貞享二年乙丑歳 上野國邑楽郡土橋村 法印祐範 寛譽 法印重笛	足利町 櫻井藤七郎建立 延宝七天己未二月吉日	中島市兵衛(他六名) 寛文五乙卯年 □□□□□□	銘
柱型 文字	柱型笠あり 青面金剛像 三猿浮彫り	舟型背面 青面金剛像 三猿浮彫り	舟型背面 青面金剛 三猿浮彫り	柱型笠あり 青面金剛 三猿浮彫り 台石、表、右 左に七十名 の名前あり どく判読ひ きず	※台石は後 につくら れたもの 彫り 三猿浮 像	笠あり 青面金剛 三猿浮彫り 風化のため 文字の判読 大半不可	備考

上州の庚申塔（館林市）

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
青面	青面	青面	猿	文	文	文	青面	文	文	所在地
内子ノ大神社境 大字赤生田 宝秀寺境内	本宿 大字羽附 宝秀寺境内	新築 大字羽附 薬師堂境内	内八幡神社境 大字羽附 中宿神社境	松林寺 八郷 当郷一九六	蔵前 山王日限地 大島	前 本郷天満宮 大島	岡里 大島	岡里墓地 大島	寄屋 大島	
貞享3	延宝7	延宝7	寛文12	享保19	寛政6	享保18	元禄15	寛文5	万治4	年代
高さ99cm 幅39.5cm 総高111cm	高さ76cm 幅37.5cm 総高108cm	高さ64cm 幅64cm 総高146cm	高さ72cm 幅34cm 総高	高さ129cm 幅64cm 総高153cm	高さ80cm 幅27cm 総高	高さ51cm 幅51cm 総高260cm	高さ110cm 幅45cm 総高	高さcm 幅cm 総高cm	高さcm 幅cm 総高157cm	方量
八月吉日 同行三十八人 (像) 貞享三丙寅年	奉造立青面金剛 延宝七年己未十一月吉日羽付村 (種子)(像) 施主 敬	奉造立青面金剛像二世安楽祈所有縁 是歳延宝七己未天冬十月良日 羽付新田村 施主ホ	奉彫形庚申待供養二世安楽 寛文十二壬子九月吉□□ 白 敬	奉保十九甲寅年 (梵字) 青面金剛 五月吉祥日	庚申 寛政六甲寅六月吉日 南たてばやし 東ふじおか 西あしかが 北杉のわたしさの道	享保十八年癸丑歳十月大吉日 南無青面金剛 施主 當村中	奉供養庚申如意満尼之所 元禄十五年壬午九月吉日 願主	寛文五乙巳年 施主 奉供養庚申待之正堂□□□□ 八月七日 敬白	萬治四辛丑年三月十日建之 大出氏 諸衆敬白 (以下略「庚申」の文字あり) 濱野氏	銘文
三猿 舟型光背	三猿 舟型光背	三猿 舟型光背	三猿 舟型光背	文字 駒型	兼道標 南向き	二猿 柱型	青面金剛 三猿浮彫 鳥居あり	柱型笠あり 二猿 境内 より移動	二猿浮彫り 舟型	備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
文	文	青面	文	文	文	文	文	文	青面	所在地
釈迦堂境内 淵ノ上 大字羽附	口白山神社入 下新田 大字赤生田	下新田 大字赤生田	宝秀寺境内 本宿 大字羽附	長竹 大字羽附	口白山神社入 下新田 大字赤生田	釈迦堂境内 淵ノ上 大字羽附	観音堂境内 上赤生田 大字赤生田	〃	口白山神社入 下新田 大字赤生田	
寛政12	寛政8	天明2	明和6	明和5	明和4	寛保3	元文5	享保9	宝永7	年代
高さ75cm 幅29cm 総高	高さ109cm 幅38cm 総高133cm	高さ64cm 幅28cm 総高77cm	高さ31cm 幅31cm 総高88.5cm	高さ46cm 幅35cm 総高90cm	高さ78cm 幅29.5cm 総高105cm	高さ133cm 幅33cm 総高	高さ68cm 幅29cm 総高	高さ105cm 幅55.5cm 総高163cm	高さ92cm 幅38cm 総高107cm	方量
青面金剛 十月吉祥日	寛政八丙辰歳十一月吉日 上州邑楽館林領 赤生田村	天明二庚年二月吉日 (像)	明和六丑年 青面金剛 八月吉祥日 當宿中	明和五戊子十月吉日(台十六名略) 庚申供養塔 長竹十六人の内 東観音道 北方淡島道	上野國邑楽郡赤生田村講中 奉庚申待禮拜供養青面金剛 尊重恭敬 明和四丁亥天霜月吉小謹言	寛保三癸亥天 庚申供養塔 十一月吉祥日 (台)願主敬白 淵之上講中	上赤生田村中 願主敬白 青面金剛塔 元文五庚申仲秋穀旦	上野國邑楽郡館林赤生田村 講中 敬白 奉造立庚申供養塔為二世安楽也 維時享保九甲辰天九月吉祥日立之	奉造立庚申二世安楽処也 (像) 宝永七庚寅九月吉日 赤生田村	銘文
櫛形柱型	柱型 西墓地より 移転	三猿光背 庚申(檜塚)	柱型	自然石 道標重複	柱型 三猿 約三十年前 西墓地より 移転	宝珠欠損 型 三猿	唐破風付柱 型 三猿	笠部欠損 柱型	唐破風付柱型 三猿約三十年前 北方西墓地 より移転 舟型光背三猿	備考

上州の庚申塔 100頁は

個人情報が含まれるため非公開

59	番形
文	形
神明宮境内 下早川田	所在地
延享3	年代
高さ 73cm 幅 25cm 総高 100.5cm	方量
養意山 林泉菴 庚申供養塔 禁葷 延享三丙寅年十一月吉日 當所 講中	銘
	文
	備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
青面	文	文	文	文	文	文	層	層	殿	所在地
上郷	並木町 真光寺	元町 秋葉神社	〃	〃	〃	並木町 真光寺	上郷 藍園墓地	並木町 遍照寺	上郷 島街道	渋川市
元禄7	寛政8	享保5	元禄9	元禄5	元禄5	延宝8	万治元	明暦4	寛永15	年代
高さ 96cm 幅 44cm 総高 cm	高さ 90cm 幅 37cm 総高 150cm	高さ 107cm 幅 34cm 総高 180cm	高さ 195cm 幅 58cm 総高 cm	高さ 133cm 幅 46cm 総高 cm	高さ 191cm 幅 87cm 総高 311cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ 274cm 幅 62cm 総高 cm	高さ 200cm 幅 52cm 総高 252cm	高さ 114cm 幅 46cm 総高 cm	方量
元禄七年卯三月	庚申塔 寛政八歲次丙辰仲冬 導師真光寺権僧正亮應 講師堀口善次郎他七人	奉造立庚申供養塔 享保五庚子天林鐘吉日 金子市右衛門他五人	南無阿弥陀佛 元禄九丙子天九月十六日 阿部清九郎他八人	南無阿弥陀佛奉造立庚申供養所 元禄五壬申天十一月吉日 円明他六人	南無阿弥陀佛 奉造立庚申供養所 梵余時元禄五壬申天十一月大吉日 大島五左門他五人	奉待庚申二世安全処次兵衛他六人 延寶八庚申霜月大吉日	萬治元 (五層塔)	明暦四天八月十日 □□者も施主當村三十七人□□□	于時寛永十五年	銘
角柱	角柱	角柱	基礎に二鶏 二猿を刻む 笠付角柱	笠付角柱	角柱笠付	鶏猿日月を 刻む 板碑形	日月 二鶏二猿	日月 二鶏二猿		備考

19	18	17	16	15	14	13	12	11	番
殿	殿	文	文	文	文	文	青面	青面	形
金井 庚申山	川島 (綿貫家) 下川島	上郷 上之原	〃	寄居町 妙法寺	入沢 入沢百庚申	入沢 渋川八幡宮	入沢 花欠地藏	並木町 真光寺	所在地
明暦2	寛永6	寛政12	万延元	万延元	文政7	寛政12	正徳2	元禄10	年代
高さ97cm 幅63cm 総高118cm	高さ88cm 幅57cm 総高118cm	高さ70cm 幅40cm 総高118cm	高さ116cm 幅75cm 総高144cm	高さ95cm 幅60cm 総高118cm	高さ140cm 幅65cm 総高118cm	高さ130cm 幅55cm 総高118cm	高さ85cm 幅46cm 総高118cm	高さ128cm 幅48cm 総高153cm	方量
本鉢真如 于時明暦二丙申九月十五日 願主敬白 九右衛門他	寛永六年己六月五日	青面金剛 寛政十二年庚申季冬	庚申塔 駒形山十八世延壽代 万延元年庚申十一月吉日 発起人足立儀兵衛他十六人 七十有二源賢樹 信脇高遠石工 中山十吉	庚申塔 萬延元年庚申十一月吉日 源賢樹謹書	猿田彦 文政七甲申仲冬 桑島織部	庚申塔 寛政十二年歲次庚申十一月吉辰 明治三拾四年五月 三里ま除	奉供養 元町 正徳二壬辰十一月吉日 依田治左衛門他七人	奉造立庚申供養 請願成就之所 為二世安樂也 元禄十丁丑九月吉日	銘文
二鶏二猿	石堂内部に 石像あり 三猿二鶏あり						舟形	舟形	備考

28	27	26	25	24	23	22	21	20	番
文	文	百庚申	文	百庚申	文	像	青面	青面	形
川島 息耕庵	金井 下金井 旧薬師堂	金井 百庚申	祖母島 宗光寺跡	祖母島 千庚申	川島 上川島	祖母島 宗光寺跡	祖母島 福島家墓地	祖母島 宗光寺跡	所在地
天保15	元保9	寛政12	元禄4	万延元	万延元	寛文11	享保4	元禄12	年代
高さ195cm 幅19cm 総高220cm	高さ200cm 幅47cm 総高250cm	高さ145cm 幅66cm 総高175cm	高さ155cm 幅55cm 総高154cm	高さ170cm 幅200cm 総高210cm	高さ182cm 幅44cm 総高210cm	高さ125cm 幅20cm 総高125cm	高さ90cm 幅50cm 総高118cm	高さ130cm 幅30cm 総高118cm	方量
梵守庚申夜塔 天保十五庚辰星舎仲春吉辰惣村中 昭明老人書	庚申 七十九翁賢和 天保九戊戌年五月吉祥良旦 岸治右エ門他七人	百庚申 寛政十二庚申歲次七月建立 当村講中	梵奉造立庚申供養為之 西上州群馬郡祖母島村 元禄四辛未天七月十六日 施主拾人	大青面金剛 萬延元年庚申十一月吉旦	大青面金剛 兩峯正大先達勅得法大阿闍梨光流書 萬延元年庚申十二月吉辰 加藤又右エ門他加藤姓八人	(竿) 奉修庚申供養攸 于時寛文十一辛亥下四月吉日 良辰 敬白 宗光院	庚申供養 享保四巳天八月日 施主三十三人敬白	(梵字)庚申供養 西上州群馬郡祖母島村 當元禄十二乙辰年七月吉日宗光寺 福島茂左衛門 他十五人の銘あり	銘文
自然石	自然石加工	自然石 多数の庚申あり	自然石 梵字を刻む	自然石加工	自然石加工	竿 円柱 如来像あり	舟形光背 六臂二猿	青面金剛像 二鶏二猿あり 笠付角柱 元禄十二は己卯	備考

上州の庚申塔 (渋川市)

37	36	35	34	33	32	31	30	29	番形
文	灯	文	文	殿	灯	文	文	文	所在地
有馬 上有馬	半田 早尾神社	有馬 宝幢寺	半田 早尾神社	八木原 諏訪神社	阿久津 十玉堂	金井 矢ノ頭	祖母島 富貴原	南牧 十二社下	所在 地
寛政12	寛文11	享保16	元禄13	宝永4	享保3	天保5	不 明	万延元	架
高さ206cm 幅 70cm 総高288cm	高さ190cm 幅 60cm 総高 cm	高さ 98cm 幅 33cm 総高137cm	高さ 63cm 幅 25cm 総高 80cm	高さ142cm 幅 73cm 総高 cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ135cm 幅 34cm 総高150cm	高さ 51cm 幅 39cm 総高 69cm	高さ 88cm 幅 50cm 総高 cm	方量
庚申塔 上有間村中 寛政十二庚申十二月吉日	奉造立庚申供養塔 願主二十二人敬白 願現世安穩後世得具所 寛文十二 辛戌天十月吉日	庚申供養塔 南無十方常住三宝 享保十六亥天六月吉日	庚申千年供養 元禄十三年庚辰十月吉祥 高橋伊兵衛他五人	奉造立庚申御堂大小信□心寄進 且中祈願成就 惣而堂村繁昌長久息才如意祈文 當供 狼清泰寺十一世實賢 寶永四丁亥天九 月十一日	奉造立庚申供養石燈籠 享保三戌戌歲三月吉日	猿田彦大神 天保五甲午仲春謹立	八千庚申 平六	十庚申 万延元庚申年 田中權兵衛	銘
	灯籠	角柱 日月 三猿	角柱		灯籠	自然石	自然石	自然石	文
									備考

45	44	43	42	41	40	39	38	番形
文	文	文	青 面	殿	青 面	文	文	所在地
高源 石原地	中村 早尾神社	行幸田 中筋百庚申	石原 猿田彦神社	石原 手川	中村 早尾弁天	有馬 若加保神社	有馬 若加保神社	所在 地
万延元	寛政12	安永5	元禄3	寛文6	慶応4	安政7	文政13	架
高さ 95cm 幅 50cm 総高 cm	高さ125cm 幅 60cm 総高217cm	高さ 95cm 幅 36cm 総高185cm	高さ 86cm 幅 50cm 総高118cm	高さ108cm 幅 48cm 総高 cm	高さ 99cm 幅 51cm 総高122cm	高さ111cm 幅 57cm 総高130cm	高さ115cm 幅 36cm 総高175cm	方量
庚申塔 万延元年庚申十一月吉日 木暮賢樹拜書 郷内講中謹立	庚申塔 光疏書 寛政十二年歲宿庚申冬十一月良辰建 焉	庚申供養塔 安永五丙申歲十一月吉祥日 中筋中	元禄三年庚午卯月吉日 施主同行拾二人	奉待庚申靈位 寛文六年十二月大吉日	慶応四年戊辰孟夏謹立 當村中	青面金剛王 維時安政七庚申年三月吉祥鳥 定岩拜書	信陽善光寺在川合村酒師山嵯重藏 庚申塔 文政十三庚寅年四月吉日	銘
		角柱			丸彫 立像	自然石	日月	文
								備考

藤岡市

番	1	2	3	4	5	6	7	8
形	文	殿	殿	文	文		文	文
所在地	保美赤坂 天陽寺	下栗須 西勝寺本堂	岡之郷温井 光蓮寺	森新田上宿 東福院	下栗須 西勝寺本堂	下日野芝平 示春院	中島 宝昌寺	根岸 薬王寺跡
年代	元和6	寛文4	寛文7	延宝元	延宝8	正徳元	享保元	享保9
方量	高さ 95cm 幅 38cm 総高 95cm	高さ 66cm 幅 57cm 総高 76cm	高さ 58cm 幅 44cm 総高 58cm	高さ cm 幅 cm 総高 cm	高さ 194cm 幅 79cm 総高 220cm	高さ 99cm 幅 54cm 総高 99cm	高さ 95cm 幅 37.5cm 総高 121cm	高さ 67cm 幅 26.4cm 総高 75.5cm
銘	庚申塔 (裏)元和六庚申年 寛政十二庚申年改再	奉造立庚申御宮殿 于時寛文四天甲辰霜月 (二猿)	寛文七年未ノ十月吉日	延宝元年癸丑天十一月吉日 奉造立庚申供養所 一結衆等	奉供養石塔 延寶八歳庚申四月朔日 施主敬白	奉修庚申供養塔 正徳元十月吉日 (2猿)	享保元丙申年月日 奉造立庚申供養塔 西上野緑埜郡藤岡領中嶋村	奉建立庚申供粮 享保九歳庚辰十 一月吉日
備考		硬砂岩 唐破風付屋 根	石堂方形造 硬砂岩 二猿向き合 い握手北 の塔と一対 か	頂部に一鶏 日月の線刻 猿底部に三 猿	板碑形 砂岩 日月	緑泥片岩 板碑形日月	山状角柱 瑞雲日月 三猿	舟形 日月、三猿

番	9	10	11	12	13	14	15	16	17
形	文	文	文	文	文	文	文	文	文
所在地	三木本中宿	西平井 仙蔵寺	立石 立石寺	篠塚 西宝院門前	緑埜一四六 斉藤家墓地	緑埜 板倉墓地脇	上日野 小相	南町上組	三本木 興福寺参道
年代	享保13	享保20	元文5	元文5	元文5	元文5	元文5	寛保3	明和8
方量	高さ 77cm 幅 48cm 総高 100cm	高さ 170cm 幅 41cm 総高 270cm	高さ 76cm 幅 30cm 総高 100cm	高さ 114cm 幅 34cm 総高 cm	高さ 134cm 幅 33cm 総高 252cm	高さ 84cm 幅 32cm 総高 114cm	高さ 135cm 幅 48cm 総高 155cm	高さ 56cm 幅 25.5cm 総高 56cm	高さ 174cm 幅 73cm 総高 194cm
銘	造立庚申供養塔享保十三戊申天 二月吉祥日 (裏)納寶篋印陀羅尼經塔下息災延命火盜 潜消諸縁吉利 當三本木村中□祈□ 施主同村植竹仁兵衛	奉勸請庚申寶塔 享保二十己卯年九月吉祥日 下宿講中	元文五年庚申十二月日 三戸絶彭処 高木八人組	元文五歳庚申四月吉日 篠塚村施主 上講中 庚申供養塔 (台石に三猿)	元文五年庚申七月吉日 (台右妙儀道 緑野邑 緑野邑)	板倉邑中 庚申供養塔 元文五天十月穀旦 (三猿)	元文五歳庚申天 庚申供養塔 十二月吉祥日	庚申供養塔 寛保三癸亥天十月吉日 (施主六人)	青面金剛塔 明和八卯天七月庚申日 (裏)山十三代 村中
備考	自然石 綠色片岩	山状角柱 砂岩	山状角柱	尖頭角柱 日月	山状の角柱 砂岩	隅丸角柱	自然石 綠色片岩 日月	山状角柱 中程から折 れる白米 を供える	自然石

上州の庚申塔（藤岡市）

27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	番号
文	文		文	文	文	文	文	文	文	文
郵便局前 神田中神田	上栗須 赤城神社	上日野 小柏	下日野 芝平 示春院	高山中組 新井(真久) 消火器具置 場前	御巡部 神社 矢場	白石 北原 十二天社	藤岡大戸町 天竜寺 庚申堂	養浩院 入口 上日野 鹿島	上日野 鹿島	所在地
安政2	文政2	寛政12	寛政12	寛政12	寛政12	寛政12	寛政12	天明3	安永3	年代
高さ140cm 幅54cm 総高140cm	高さ71cm 幅45cm 総高91cm	高さ215cm 幅92cm 総高267cm	高さ158cm 幅60cm 総高158cm	高さ186cm 幅70cm 総高248cm	高さ231cm 幅126cm 総高245cm	高さ84cm 幅53cm 総高99cm	高さ158cm 幅56cm 総高192cm	高さ118cm 幅44cm 総高118cm	高さ233cm 幅65cm 総高233cm	方量
(裏)安政二乙卯年三月立 庚申 神田中組	文政二年〇八日孟春建 かのえさる(万葉仮名)	庚申塔 寛政十二年庚申十二月 小柏村中 高崎山彰書	庚申塔 中山茨応需書 下府村惣講中 寛政十二年冬十月	庚申塔 寛政十二庚申歲卯月吉祥日 山室 悪矢場講中 新井	寛政十二庚申才五月吉祥日 村中	猿田彦大神 寛政十二龍舎庚申六月大吉祥	庚申塔 三ツ木 白石 寛政十二庚申年〇〇〇〇	庚申塔 無原道人書 青面金剛塔 三月吉祥日	安永三甲午年 講中 庚申供娘塔 當所 九月吉〇	銘
自然石 緑色片岩	自然石 砂岩 シメ縄を巻く	自然石 (板状) 緑色片岩	自然石 緑色片岩 篆書	自然石 下はコンク リート台	自然石 片岩 真中 ら三つに折れ 継いである	自然石 瑞雲日月	硬砂岩 板石状 六三除の信 仰篆書	自然石	緑色片岩 自然石 (板状)日月	備考

37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	番号
文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
高倉寺 神田中神田	神田中神田 郵便局前	中大塚 平地神社境 内	上葉合 宗永寺入口	中栗須 神明宮	立石 立石寺	岡之郷 観音 寺本堂西	岡之郷 下郷 東光庵	下栗須 稻荷神社	藤岡山崎 庚申山	所在地
万延元	万延元	安政7	万延元	安政7	万延元	万延元	万延元	万延元	安政7	年代
高さ205cm 幅77cm 総高205cm	高さ300cm 幅90cm 総高300cm	高さ166cm 幅64cm 総高218cm	高さ77cm 幅50cm 総高77cm	高さ325cm 幅71cm 総高390cm	高さ136cm 幅55cm 総高152cm	高さ129cm 幅40cm 総高151cm	高さ160cm 幅72cm 総高226cm	高さ122cm 幅56cm 総高152cm	高さ173cm 幅115cm 総高213cm	方量
(裏)萬延元庚申年三月立 信濃高遠向山一字之介 庚申塔 宿神田〇中武井端謹書	猿田彦大神 萬延元庚申年閏三月本〇建藤古山敬彫	庚申 (背面) 尚賢道人拜書 (台中郷)	無為斎宮拜書 萬延元年閏三月庚申日建之 惣村中	猿田彦大神 安政七季庚申三月吉日當郷中	庚申 萬延紀元庚申歲 十一月吉日茨谷戸中 講中	庚申 萬延元庚申年四月吉日建	(裏)萬延元庚申年四月吉日建 庚申 蓮道瀬尚賢謹書印 下郷中	(裏)萬延元年庚申稔九月吉日 庚申	(裏)安政七年庚申二月発起人 芦田氏子連 山崎	銘
自然石	自然石 緑色片岩 横山鶴年筆	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	緑色片岩 板状	自然石	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石 男坂百庚申塔 の由来と関係 するものか	備考

46	45	44	43	42	41	40	39	38	番形
青面	青面	文	猿田	文	文	文	文	百庚申	所在地
地 金井西浦 金コウ寺墓	下戸塚北方 三叉路	下栗須 稻荷神社	上戸塚久保 堀端	西平井 三島神社下 社境内	神田宿神田 公会堂	上日野 鹿島	高山上組 泉光院跡	御岳山 矢場	所在地
享保 8	宝永元	万延元	万延元	安政 7	天保 6	安政 7	安政 7	安政 7	年代
高さ 76cm 幅 37cm 総高103cm	高さ108cm 幅 49cm 総高140cm	高さ135cm 幅 130cm 総高 140cm	高さ102cm 幅 37cm 総高109cm	高さ162cm 幅 90cm 総高175cm	高さ117cm 幅 100cm 総高131cm	高さ156cm 幅 58cm 総高156cm	高さ140cm 幅 63cm 総高140cm	高さ 81cm 幅 63cm 総高 94cm	方量
享保八天十一月吉日 (青面尊六臂像)	奉供養庚申 西上野緑壱郡高山庄下戸塚村 (青面金剛像) 寶永元年甲申九月廿三日	青面王 庚申(百字体)米山高柳 (裏)依心願一百体の庚申□于春米山撰書 頭釜石□皆萬延元庚申年歲次九月庚 申日建之 開眼主小島□正 発起人(二名略) 世話人下栗須惣村(九名略)	猿田彦太神 (浮彫坐像) (裏)萬延元庚申年一月吉日 久保講中	安政七庚申歲三月建 猿田彦太神 翠城 折茂恪拜書	猿田彦大神 大己貴命少彦名命 (裏)天保六年歲乙未五月吉日建置 麻生寛兵衛	庚申塔 安政七上章浄業沙門 涇灘春精譽謹書	(裏)安政七申年 庚申塔 景山敬書	安政七庚申年二月二十五日現廣沢瑞□ 庚申塔	銘文
板碑型 日月二猿	浮彫り立像 舟型光背 下部に二鶏 三猿を刻む	招然石 綠色片岩 一石百庚申	砂岩舟型光背 穴明き石を供 えらる 眼病に 効験	自然石 綠色片岩	自然石	自然石	自然石 綠色片岩	自然石 綠色片岩 計五五基	備考

51	50	49	48	47	47	番形
文	文	文	文	文	青面	所在地
中大塚 平地神社	三ツ木東組 稚蚕飼育所	下栗須 稻荷神社	上日野田本	下日野印地 地藏堂前	小林舞台	所在地
不明	万延元	万延元	安永 3	宝永 5	明和 4	年代
高さ 93cm 幅 35.5cm 総高106cm	高さ175cm 幅 80cm 総高203cm	高さ120cm 幅 58cm 総高120cm	高さ128cm 幅 45cm 総高 120cm	高さ137cm 幅 57cm 総高147cm	高さ 89cm 幅 40cm 総高 91cm	方量
庚申祭塔 夫庚申明王 能救世間苦也□□□ 僧心當中□力一心而多年□供怙丹悃	庚申 無為齊□拜書 (裏)万延元庚申歲十二月吉日 村中	猿田彦大神 雪庵小島豊鏡拜書印 (裏)皆萬延元年歲在庚申穉九月建 西組講中 彫工平山	青面金剛靈 安永三甲午年 三月吉祥日	青面金剛 宝永五戊子年十月□ □右門 (3猿)	明和四年亥九月吉日 (青面尊六臂像) (3猿)	銘文
山状角柱 砂岩	自然石 綠色片岩 行書	自然石 綠色片岩カ	自然石 日月	自然石 綠色片岩	自然石 綠色片岩	備考

上州の庚申塔（藤岡市・富岡市）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	番
文	文	文	文	文	文	文	文	文	形
高橋組 上高尾 小野	上高尾 小野 千升	下高尾 岩鼻 小野	藤木 小野	藤木 小野 日影	桑原 小野 日影	蕨 小野 松山	白岩 小野	後賀 小野	所在地
延宝8	元文5	寛保3	寛政10	文化4	宝暦13	延宝3	天明8	寛政7	年代
高さ 91cm 幅 39cm 総高 cm	高さ 86cm 幅 34cm 総高 cm	高さ108cm 幅 53cm 総高 cm	高さ108cm 幅 44cm 総高 cm	高さ152cm 幅 43cm 総高 cm	高さ121cm 幅 47cm 総高 cm	高さ120cm 幅 34cm 総高 cm	高さ104cm 幅 50cm 総高 cm	高さ 87cm 幅 79cm 総高 cm	方量
庚申供養塔 延宝八年 十月日 (2猿)	元文五庚申年 庚申供養塔 十月吉祥日 講中	寛保三癸亥天 青面金剛塔 八月吉日 講中 下高尾村	庚申塔 (裏) 寛政十龍集戊午歲季秋良辰 豐華周書 當所講中	庚申守夜塔 (裏) 文化丁卯晚春吉日 中山瑛書 願主 講中	寶暦十三癸未歲 青面金剛塔 十一月吉祥日 講中	延宝三乙卯天 奉造龍庚申供養二 世安樂諸願成就所 十月六日是八龍立 敬白 施主	天明八戊申星 青面金剛塔 九月吉日供養 願主茂木長吉	寛政龍舎己卯盛夏良辰 庚申塔 城谷 寛周書	銘文
		瑞雲日月		中山瑛親					備考

18	17	16	15	14	13	12	11	10	番
文	文	文	青面	文	文	文	文	文	形
野額部 上 加生	〃	〃	野額部 上 長福寺	〃	野額部 上 岡本上北根 (西方寺)	野額部 上 岡本川久保	野額部 上 岡本川手上	野額部 上 岡本	所在地
享保12	延宝8	享保7	享保9	元文5	万延元	寛文10	寛政12	享保8	年代
高さ112cm 幅 47cm 総高 cm	高さ 90cm 幅 42cm 総高 cm	高さ 90cm 幅 30cm 総高 cm	高さ 42cm 幅 22cm 総高 cm	高さ130cm 幅 37cm 総高 cm	高さ183cm 幅 71cm 総高 cm	高さ 84cm 幅 45cm 総高 cm	高さ324cm 幅 56cm 総高 cm	高さ126cm 幅 38cm 総高 cm	方量
享保十二丁未年 奉造立庚申塔 十一月吉日 施主	延宝八年 庚申供養塔	享保七 庚申供養塔 (裏) 于時享保七歲十一月吉日 施主十九人 敬白	庚申童子 (庚申童子像) 享保辰三月廿二日	庚申供養塔 元文五庚申歲 七月吉祥日	庚申供養塔 前高頭亮道謹書 (裏) 萬延元年九月 當山現住義賢建之	寛文十庚戌年 庚申供養奉刻尊像之者也 十一月六日	奉禮庚申塔 (裏) 寛政十二孟夏吉辰	奉請庚申供養之塔 享保八癸卯曆 四月吉祥旦	銘文
日月		日月		瑞雲日月	瑞雲日月	日月	瑞雲日月		備考

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	番形
文	文	文	文	文	文	文	百庚申	文	灯	所在地
上黒岩中央	下黒岩向戸	下黒岩砂田	下黒岩芹田	黒川橋場	黒川御霊	黒川手代坂	〃	額部野上	野上日影	所在地
嘉永5	正徳3	寛政6	享保5	万延元	享保21	万延元	文政7	延宝8	寛政12	年代
高さ52cm 幅30cm 総高cm	高さ116cm 幅38cm 総高cm	高さ135cm 幅69cm 総高cm	高さ76cm 幅33cm 総高cm	高さ125cm 幅112cm 総高cm	高さ79cm 幅47cm 総高cm	高さ100cm 幅55cm 総高cm	高さcm 幅cm 総高cm	高さ77cm 幅39cm 総高cm	高さcm 幅cm 総高cm	方量
□田彦大神 嘉永五子九月吉日	下黒岩村 奉造立庚申供養 施主廿九人	庚申塔 (裏)寛政六寅申仲春吉日 高龍書 當村講中	享保五年 奉待庚申供養 十一月吉日	大青面金剛尊 沙門英證 萬延元歳在庚申十有一月 上黒川村講中	享保廿一丙辰天 庚申供養塔 三月吉日 黒川村	庚申塔 雲涯裕敬書 (裏)万延紀元庚申歳吉祥日	庚申塔 篁種徳 文政七甲申年十一月吉日 (裏)岡野源五右衛門生富建立	延宝八年庚申九月四日 奉造立庚申之供養 西上州甘楽郡野上村施主 敬白	(竿)寛政十貳庚申首夏吉日	銘
	日月	瑞雲日月	日月	日月			瑞雲日月 計七九基		灯籠	備考

32	31	30	29	番形
文	百庚申	文	文	所在地
下丹生打越	〃	上黒岩機足	上黒岩大日	所在地
万延元	天保7	文政7	元禄6	年代
高さ127cm 幅60cm 総高cm	高さ56cm 幅60cm 総高cm	高さ61cm 幅25cm 総高cm	高さcm 幅cm 総高cm	方量
庚申 無幻釋光流撰 本邦之俗庚申守夜已古矣蓋 是道家祛裁之術乎知識七〇 結社数年今茲歳庚申樹石以 永社盟于萬世云萬延元冬日 楽圃仁維惠書	天保七年に百庚申塔が建立されたと思 われる 天保七年丙申霜月廿八日 蘭齋書 (他に) 庚申塔 九八基 □申塔 一基 無銘碑 一基 奉造立庚申供養 一基 石燈籠 一對 天保七丙申十一月廿八日 同行九人 中山瑛親	庚申塔 願主 願主 権右衛門 曳野秀右衛門 藤井萬治郎 野口喜代松 同 榮七 須藤仙松 親庚申 (篆書) 計一〇二基 と石灯籠一 対	元禄六年 □□供養 癸酉四月八日 (2猿) (右)南無阿弥陀佛	銘
				備考

上州の庚申塔 (富岡市)

41	40	39	38	37	36	35	34	33	番
文	文	文	文	百庚申	文		文	文	形
〃	吉田 稲荷沢	吉田 蚊沼	吉田 新堀	〃	吉田 神成	丹生 上丹生 霜降	丹生 上丹生 小屋敷	丹生 品川区 下丹生	所在地
延宝8	寛政3	寛保3	元文5	天保14	寛政12	万延元	万延元	寛政12	年代
高さ 76cm 幅 29cm 総高 cm	高さ 140cm 幅 34cm 総高 cm	高さ 135cm 幅 47cm 総高 cm	高さ 58cm 幅 46cm 総高 cm	高さ 43cm 幅 25cm 総高 cm	高さ 165cm 幅 105cm 総高 cm	高さ 97cm 幅 95cm 総高 cm	高さ 131cm 幅 92cm 総高 cm	高さ 281cm 幅 72cm 総高 cm	方量
己 奉造立庚申 十一月五日同行八人	維時寛政辛亥龍舎極月穀旦 庚申供養塔 爰元文五庚申之夏庚申供養塔三屋村 普門寺稻荷澤村講中之寄浄心建立 右之千古幾年歴倒崩亦右三ヶ邑講中 之乘願力再造立者也	寛保三癸巳天 當村 青面金剛塔 五月吉祥日 講中	元文五庚申年 當村 庚申供養塔 九月吉祥日 講中	天保十四龍次癸卯歲 百庚申供養 世話人(二十六名略) 發願 寒念佛同行 十二月上旬吉辰 計二十基ほ ど現存	庚申塔 (裏) 寛政十二龍舎庚申初冬吉辰 舞幻道人書	庚申 (裏) 萬延紀元在庚申十二月吉日 (寒念佛 同行 上組	庚申塔 (一石百庚申塔) (裏) 萬延元年庚申歲星在仲冬造之	庚申尊 (裏) 寛政十二龍集庚申歲冬吉旦 釋氏梵拜書	銘 文
日月	瑞雲日月						瑞雲日月	瑞雲日月	備考

51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	番
文	文	青 面	文	文	文	文	文	文	青 面	形
高瀬	内匠 高瀬	富岡 小沢	富岡	一の宮 坂井	一の宮 宇田 おみ堂	一の宮 宇田 南組	一の宮 光明院	〃	一の宮 神農原 地獄谷	所在地
元禄10	寛政12	文化元	不 明	元文5	延宝8	万延元	寛政12	万延元	寛政12	年代
高さ 65cm 幅 25cm 総高 cm	高さ 57cm 幅 32cm 総高 cm	高さ 61cm 幅 25cm 総高 cm	高さ 60cm 幅 24cm 総高 cm	高さ 140cm 幅 118cm 総高 cm	高さ 95cm 幅 34cm 総高 cm	高さ 146cm 幅 64cm 総高 cm	高さ 141cm 幅 30cm 総高 cm	高さ 137cm 幅 82cm 総高 cm	高さ 111cm 幅 62cm 総高 cm	方量
元禄十丁丑季 奉造立庚申 十月吉日	猿田彦大神 (裏) 寛政十二年 (庚申十二月吉日	(青面尊六臂像) 文化甲子壮月吉日	辻庚申供養為二世安樂也 上野甘楽郡瀬下村 田中秋野新井下山 (二鶏) (二猿)	元文五天 坂井村 青面金剛供養塔 庚申十月廿三日 講中	延寶八年 同行 南無妙法蓮華經奉庚申天王守護 卯月吉日 七人	青面尊 (裏) 時萬延庚申天十一月吉祥日 大先達飯命院歎與 敬白	庚申塔 寛政十二庚申十月吉日 東江源鱗書 下講中	開運一百庚申塔 研齋謹書 (裏) 萬延元年庚申吉祥日	(青面金剛像) 寛政十二 庚申龍舎 十二月吉日 當村中	銘 文
日月	瑞雲日月	日月 壮月 八月					東江源鱗書		瑞雲日月	備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	番
文	文	文	幢	灯	文	文	百庚申	文	形
〃	東富岡 曾木	東富岡 下田篠	東富岡 下田篠 慈覚寺	〃	東富岡 下田篠	東富岡 原田篠	高瀬 庚申山	高瀬 上高瀬	所 在 地
天明 8	寛政12	寛政12	元禄 4	享和 3	万延元	享保13	寛政12	寛政12	年 代
高さ156cm 幅 78cm 総高 cm	高さ200cm 幅 47cm 総高 cm	高さ210cm 幅 81cm 総高 cm	高さ 80cm 幅 67cm 総高150cm	高さ 44cm 幅 24cm 総高 cm	高さ206cm 幅 78cm 総高 cm	高さ153cm 幅 92cm 総高 cm	高さ376cm 幅 64cm 総高 cm	高さ290cm 幅 52cm 総高 cm	方 量
庚申塔 (裏)開眼沙門忍暁 曾木村講中 無原衛人書	青面金剛尊 (裏)寛政庚申臘月庚申 上宗岐村寸夜舎中	庚申塔 井坂一清謹書 田篠村講中 (裏)維時寛政十有二年星次 庚申穉八月望	奉建立庚□□ 元禄辛未年十月吉祥日 為二世安楽	庚申 (裏)享和三癸亥	青面尊 (裏)萬延開元歲次庚申十有一月 釋儀沙門英證謹書	享保十三戊申年 施主 十一月吉祥日 原村中	庚申塔 (裏)寛政第十二龍集 庚申夏四月 雲山源陽書	庚申供養塔 當村講中 寛政拾二庚申夏卯華月造敬 (裏)大寶元庚申年七月七庚申日御出現 但し當歳まで一千百年也	銘 文
無幼? 篆書	篆書	篆書	石幢型	石燈籠型		日月	親庚申 計一五基	月 卯華月は四	備 考

62	61	番
文	百庚申	形
〃	東富岡 原田篠	所 在 地
安政 4	文政 7	年 代
高さ113cm 幅 64cm 総高 cm	高さ166cm 幅 50cm 総高 cm	方 量
他に紀年銘 のないもの □申塔 一基 □申塔 一基 □申塔 一基 庚申(二石に複数) 一四基 庚申 一基 庚申 一基 庚申 一基	大青面尊護摩 安政四年丁巳三月庚申日 (裏)法主大藏院英證 三十三年供養 原田篠村中 庚申塔 一〇基 庚申塔(二石に複数)二基 庚申塔 一基 庚申塔 一基 庚申塔 一基 青面金剛尊(裏)奉造立百庚申塔 施主 當村講中	銘 文
	親庚申 計八十七基	備 考

8	7	6	5	4	3	2	1	番
文	青面	文	青面	殿	文	百庚申	文	形
東上秋間 池尻 東神社	中秋間 榎山	中秋間 熊の貝	中秋間 三角	下秋間日向	下秋間 八重巻	下秋間後平	下秋間吉ヶ 谷 薬師堂	所在地
元禄4	天保15	元禄3	元禄7	不明	延宝4	寛政10	享保17	年代
高さ175cm 幅30cm 総高188cm	高さ45cm 幅28cm 総高45cm	高さ122cm 幅85cm 総高139cm	高さ100cm 幅45cm 総高150cm	高さ75cm 幅42cm 総高121cm	高さ120cm 幅40cm 総高140cm	高さ140cm 幅33cm 総高190cm	高さ60cm 幅40cm 総高90cm	方量
元禄四丁辛未 奉造立庚申供養二世安穂 十一月十一日 敬白	天保十五辰二月吉日 (青面尊像)	元禄三年庚午十一月九日 奉造立庚申供養塔 二猿	元禄七天六月吉日 奉造立庚申供養四十六人 横塚大沢 現世安全二世安楽也	(二鶏二猿 石殿)	延宝四〇月日 庚申供養塔	寛政十午天九月吉日 吾邦以庚申之日祭祀青面守夜神者亦 知共始何代何人之所為……云々 (青面尊像) 住桂昌寺慧胤野衲敬撰 願主高橋林右衛門 高橋太郎衛門 田島源三衛門 田島伊右衛門 湯浅甚右衛門	享保十七年壬子天 奉造立庚申供養 十月初六日 施主 村中	銘文
		板碑形			舟型	親庚申 他に一〇二 基あり		備考

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	番
文	文	青面	百庚申	文	文	文	殿	灯	文	形
鷺宮 五賀観音堂	西上秋間 二軒茶屋 傘松	西上秋間 貝戸沢百庚申	西上秋間 貝戸沢 百庚申	東上秋間 伊豆村 鈴木家墓地	西上秋間 滝之入 山の神入口	東上秋間 久保薬師堂	東上秋間 馬場 田島家墓地	東上秋間 十二様	東上秋間 長岩 戸塚家墓地	所在地
寛政4	元禄16	宝永3	万延元	万延元	万延元	享保8	天明3	天保15	元禄2	年代
高さ168cm 幅34cm 総高180cm	高さ75cm 幅31cm 総高95cm	高さ78cm 幅37cm 総高88cm	高さ132cm 幅100cm 総高180cm	高さ77cm 幅55cm 総高97cm	高さ130cm 幅24cm 総高201cm	高さ90cm 幅31cm 総高111cm	高さ82cm 幅32cm 総高110cm	高さ110cm 幅30cm 総高120cm	高さ125cm 幅37cm 総高138cm	方量
庚申塔 秋良辰 寛政四季龍舎壬子 当邑佐藤氏 寛周書	元禄十六癸未 奉造立庚申供養 八月二十日 五人敬白	宝永三庚申天 (青面金剛像) 七月吉日	万延元龍集庚申 庚申塔 松山東宗書 庚申建立 發起世話人 十七人	万延元年大呂良辰 庚申 西園拜書 宗印	万延元申年 庚申塔 十一月吉祥日	享保八年关卯 庚申供養塔 八月吉祥日	(側面)明暦元乙丑年十一月吉日 (台座前面に)時天明三龍次癸貳とある 村講中	天保十五年卯長〇〇〇 庚申供養現等安楽所祈願 玄英造立	元禄二巳天 奉造立庚申供養為二世安楽所也 七月吉祥日	銘文
	日月		あり	親庚申 計一二四基			石祠形	灯籠 一對		備考

27	26	25	24	23	22	21	20	19	番形
文	猿	百庚申	文	文	文	文	百庚申	文	所在地
堂 中島家薬師	岩井(西) 神社境内	鷺宮 小久保 居内	下間仁田 円明寺	中野谷 大門	東 中村公会堂	中間仁田 円明寺	鷺宮 居内 一〇六七	鷺宮 宮本 公民館	所在地
正徳4	寛政10	文政12	享保11	享保13	不明	万延元	文政12	7保享	年代
高さ82cm 幅23cm 総高198cm	高さ65cm 幅35cm 総高80cm	高さ300cm 幅55cm 総高330cm	高さ120cm 幅28cm 総高140cm	高さ88cm 幅30cm 総高106cm	高さ130cm 幅74cm 総高126cm	高さ90cm 幅60cm 総高110cm	高さ54cm 幅25cm 総高73cm	高さ117cm 幅63cm 総高150cm	方量
十月吉祥日 当村中 施主九人	寛政拾年庚申十月十一日 猿一匹(不言像)	文政十二己丑天 青面金剛妙法童子 村中 久昌山主 信州伊奈末良郷野口村 石工 向山民平計年	享保十一丙未 奉造立青面金剛塔 十月吉日 下間仁田村中三十三人	享保十三戊申天 青面金剛供養 十一月吉日	裏面「道家之説云人身中三彭虫以毎庚申夜 伺……ほとんど読めず摩滅している	庚申祭祀碑 冬十一月吉日 蘭州処士達拜書	文政十二己丑天 下平村 つ弥女 四月日	享保七壬寅仲春吉辰 奉造立庚申供粮満定所 居村同修講中拾有六人	銘
二鶏三猿		塔台引取人彭光子鷺宮 彭常子上平命氏乎下平 五体は桑社 拝書とあり			緑泥岩		計九四基 百本の内九十 五体は桑社拜 書とあり		備考

37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	番形
文	文	文	灯	殿	殿	文	文	青面	文	所在地
尾崎前	水口毘沙門 堂境内	並木西端 原市	原市八本木 地藏堂	原市立場 茶屋北側 地藏堂	嶺 真福寺	原市中町 真光寺境内	原市悪途 観乘院内	大谷 大谷山福泉 寺	野殿(北) 宮沢家墓地	所在地
正徳3	万延元	天保4	延宝8	寛永2	不明	寛文元	寛政6	宝暦7	宝永5	年代
高さ85cm 幅60cm 総高cm	高さ98cm 幅43cm 総高103cm	高さ125cm 幅42cm 総高146cm	高さ180cm 幅36cm 総高200cm	高さ90cm 幅50cm 総高100cm	高さ102cm 幅31cm 総高112cm	高さ111cm 幅42cm 総高128cm	高さ125cm 幅90cm 総高145cm	高さ145cm 幅45cm 総高195cm	高さ95cm 幅35cm 総高135cm	方量
正徳三乙未天 奉供養青面金剛塔造立同 十一月吉日 左松井田道	庚申塔 九十二翁二徳齊書 願主 当村中	天保四辛未曆 奉造立青面金剛明王二世安樂 九月吉日 原市村 施主 敬白	(燈籠) 延宝八年十二月吉日 庚申供養悉地攸如意輪像 右趣意者 乃至法界平等和合諸衆敬白	于時寛永二 二月日 庚申供養所願成就	「庚申像のある」石殿	寛文元十一月吉日 奉造立庚申供養現世安穩二世安樂也	寛政六甲寅年 庚申塔 念佛講中 林鐘吉祥日	宝暦七丁丑年 (青面金剛像) 十一月吉日 講中廿八人	宝永五戊子天 庚申供養塔 五月吉日	銘
自然石 (碓氷真石) 道標	自然石		願主田中次 兵衛ほか四 名			二猿			下段に動物 像あり	備考

上州の庚申塔（安中市）

47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	番形
文	文	文	青面	文	文	文	文	文	百庚申	所在地
中後閑 山寺城橋東	〃	中後閑 三木観音	上磯部新寺 観音堂	前信村西 照照寺山磯部 寺山門中	薬師堂舞 師堂境内台	西上磯部 舞台	薬師堂 田中	東上磯部 田中	阿弥陀堂 馬場	尾崎前 下磯部
元禄5	元禄3	寛保元	元禄9	宝永4	寛政3	延宝8	享保3	享和元	寛政4	年代
高さ89cm 幅39cm 総高112cm	高さ67cm 幅38cm 総高104cm	高さ117cm 幅32cm 総高127cm	高さ108cm 幅52cm 総高140cm	高さ101cm 幅31cm 総高108cm	高さ200cm 幅120cm 総高260cm	高さ94cm 幅39cm 総高114cm	高さ110cm 幅60cm 総高120cm	高さ90cm 幅80cm 総高95cm	高さ90cm 幅55cm 総高120cm	方量
奉供養庚二世 三月吉祥日 楽 元禄五年壬申安 （一猿）	元禄三〇〇〇〇 奉供養庚申二世 安 〇〇〇〇〇〇〇 施主 〇〇	寛保元辛酉天三月吉祥日 大青面金剛供養	元禄九 （青面金剛六臂像） 十月共二日 （一猿）	宝永四丁亥〇 奉納青面施為二世安楽也 九月吉日 （蓮花）	寛政三季龍舎辛亥仲冬良辰 庚申塔 城谷峯寛周書	延宝八 奉供養庚申 萩原 諸願成就所 十一月吉日 （二猿）	享保三戌年 奉造立庚申供養塔 十二月十七日	申庚守夜神 享和元星次辛酉 四月吉祥日 当村講中	庚申塔 正月吉日 寛政四壬子年	銘文
	舟形	尖頭角柱 二鶏三猿 日月	舟型光背	尖頭角柱	巨大自然石 塔	日月	自然石 日月	自然石 日月	自然石 親庚申 計五三基 瑞雲日月	備考

55	54	53	52	51	50	49	48	番形
文	文	文	殿	青面	文	文	文	所在地
伝馬町 東町	中宿宿中央 宮街道分岐 点	中宿川向 下の淀橋際	板鼻館石 称名寺入口	板鼻一八九 五 按昌寺	板鼻一丁目 大乘院前	下後閑 小井戸	下後閑 芝原	年代
慶応4	享和2	寛政7	寛永2	享保7	寛政9	寛政12	宝永2	方量
高さ105cm 幅60cm 総高 cm	高さ65cm 幅26cm 総高80cm	高さ120cm 幅36cm 総高101cm	高さ76cm 幅46cm 総高98cm	高さ60cm 幅24cm 総高 cm	高さ212cm 幅170cm 総高242cm	高さ115cm 幅53cm 総高115cm	高さ88cm 幅36cm 総高98cm	銘文
庚申塔 鷹巣山住役祐順謹書 当国群馬郡宮原庄〇倉〇〇 城主金井淡路守天正十八年〇 野尻郷住十世〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 慶応四年戊辰〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	享和二壬戌九月吉日 庚申塔 中宿村講中高龍書 世話人木下左衛門 大ノ宮街道 一日街門	中宿村 庚申塔 守夜講中 一月春 寛政七年	梵 庚申供養之 寛永二乙丑年 白敬	享保七年三月吉日 （青面金剛六臂像）	寛政九年丁巳 奉二月吉日 青面塔（一猿） 石工信陽高遠工藤光助	寛政萬年庚申霜月 庚申塔 右〇〇〇 左〇〇〇	宝永二乙天 六月廿五日 奉造立庚申供養二世安楽祀 兵右左門門 竹左左門門 辰左左門門 佐藤右門門 萬藤右門門 蔵門	備考
	（復道標）	日月	石殿塔身 前部破損	箱形 日月	巨大塔 自然石	埋没し道し るべは読め ない日月	はすの花の 先に猿が一 匹	

上州の庚申塔 114頁は

個人情報が含まれるため非公開

上州の庚申塔 (安中市・北橋村)

15	14	13	12	11	10	9	番形
像	文	文	文	文	殿	文	所在地
小室第二 東丸山 萩原家墓地	小室第二 東丸山 萩原茂理平 宅庭	小室第二 西丸山 転作促進集 落センタ	小室第一 上小室生活 共同館	〃	小室第一 向原靈園	八崎日向 堀口甚太郎 宅前	
元禄 5	延宝 7	万延元	万延元	寛政12	延宝 5	安政 7	年代
高さ 88cm 幅 42cm 総高 cm	高さ 75cm 幅 34cm 総高 cm	高さ 167cm 幅 53cm 総高 cm	高さ 120cm 幅 63cm 総高 cm	高さ 130cm 幅 55cm 総高 cm	高さ 34cm 幅 30cm 総高 93cm	高さ 80cm 幅 31cm 総高 221cm	方量
巖元 巖元 三月吉日法主敬白 (観音像) 為二世安全之也 利兵衛 (他七名略)	奉納庚申供養所 己天今月日 延宝七年 (六名略)	庚申塔 萬延改元庚申年十一月吉辰	庚申塔 竹幽谷謹書 萬延元年 十一月吉日 星野佐平 (ほか二四名略) 世八人 上組中	庚申塔 (裏)寛政十二庚申歲 初冬吉祥日 講中	星野茂右衛門(ほか五名略) 于時延宝五丁巳天 十二月十七日 井上源兵衛(ほか二名略)	維時安政七庚申如月吉日 青面金剛 石工 信州高遠 渡辺門司郎 恒勝 講中 狩野傳右工門(ほか八名略)	銘文
日月	二猿				石殿 二猿		備考

23	22	21	20	19	18	17	16	番形
文	文	文	文	文	文	文	文	所在地
箱田 五六橋	箱田 木曾三柱神 社	箱田 今井藤三宅 前	上箱田 甘酒地藏	上箱田 石田沢治宅 前	上箱田 中屋敷 森田福太郎 宅東	下南室 中谷戸 薬師堂	下南室 東谷戸	
寛政12	安政 5	不 明	寛政12	寛政12	寛政12	寛政 6	天明 5	年代
高さ 175cm 幅 110cm 総高 cm	高さ 115cm 幅 40cm 総高 260cm	高さ 70cm 幅 64cm 総高 93cm	高さ 100cm 幅 48cm 総高 130cm	高さ 133cm 幅 120cm 総高 cm	高さ 235cm 幅 54cm 総高 280cm	高さ 135cm 幅 50cm 総高 210cm	高さ 50cm 幅 22cm 総高 82cm	方量
庚申塔 寛政十二年歲次庚申十二月良辰	安政五戊午檢未明庚申日建立 猿田彦大神 八十二老満丹丘敬書 願主 高梨八右衛門 補佐(七名略) 願主(六名略)	庚申年塔 石工 江戸勇治郎 講中	寛政十二星舎庚申 石田忠右衛門 (ほか八名略) 庚申塔 季秋吉日建焉	天朝寛政拾貳年当在上久原 赤羽根 講中拾八人 庚申塔 庚申鴻廣月吉祥良辰	寛政十二庚申之冬 高崎山影書 講中 庚申塔 講中 拾四人	寛政六甲寅年孟秋良辰 庚申塔 講中 拾四人	天明五巳六月吉祥日 庚申塔	銘文
	瑞雲日月 二七名の人 名と地名あり		瑞雲日月	瑞雲日月		瑞雲日月	瑞雲日月 三猿二鶏	備考

31	30	29	28	27	26	25	24	番
文	文	文	文	文	文	文	文	形
真壁下 八幡宮	〃	下箱田 玉泉院	〃	下箱田 今井家墓地 (十二ノ墓)	〃	下箱田 觀音山今井 堂	下箱田 木曾三社神 社	所 在 地
万延元	享保 3	元禄 8	万延元	寛政 3	寛政12	享保 7	万延元	年 代
高さ173cm 幅 30cm 総高321cm	高さ 92cm 幅 31cm 総高140cm	高さ 94cm 幅 27cm 総高145cm	高さ 64cm 幅 30cm 総高100cm	高さ142cm 幅 28cm 総高167cm	高さ 96cm 幅 45cm 総高 cm	高さ 75cm 幅 29cm 総高 96cm	高さ 97cm 幅 54cm 総高117cm	方 量
庚申塔 雪城澤俊卿書 萬延元庚申年十一月吉日	七月吉日 奉造立庚申供養 享保三戊戌季 為二世安樂 下箱田 月堂 安西 太左衛門 武衛門 半兵衛 長兵衛 武衛門	九月吉日 奉造立庚申供養 為二世安樂 元禄八乙亥年 塔并石橋施主三十八人 下箱田村	萬延元庚申季 庚申 九月庚申日 八十五老人丑兵 筆 建立今井男女平兼寿	寛政三亥年二月 庚申供養塔 施主 今井伊左衛門 同講中	寛政十二年庚申年十一月吉日 庚申塔	享保七寅天 奉造立庚申供養 十月吉日 (六名略)	萬延元年庚申九月之吉□ 庚申 幽谷書院 今井善兵衛兼明建	銘 文
	三猿					三猿二鶏 日月		備 考

39	38	37	36	35	34	33	32	番
青 面	文	文	文	文	文	宝 篋	文	形
八崎角谷戸 葉師如来	真壁 味噌野	〃	真壁新屋敷 葉師様	真壁 伊勢山	真壁 愛宕神社	真壁 愛宕様社務 所裏	真壁下 桂昌寺	所 在 地
宝永 7	寛政12	享保 9	安政 7	万延元	万延元	延宝 8	享和 2	年 代
高さ cm 幅 cm 総高227cm	高さ124cm 幅 80cm 総高154cm	高さ110cm 幅 58cm 総高 cm	高さ 81cm 幅 29cm 総高 cm	高さ138cm 幅 70cm 総高 cm	高さ173cm 幅 52cm 総高198cm	高さ cm 幅 57cm 総高 57cm	高さ107cm 幅 38cm 総高133cm	方 量
(青面金剛像) 施主 藤兵衛(ほか六名略) 宝永七年八月八日 寅九月廿四日	庚申塔 寛政十二庚申年孟冬吉祥日 當所中久保連中	于時享保九歳辰八月吉日 奉庚申供養現當安樂所 教院 勸衛門(ほか二四名略)	千庚申供養 安政七庚申年 二月吉日 組中	庚申塔 竹幽谷謹書院 萬延元庚申歳八月吉日 中真壁 施主 五十老人	庚申塔 萬延元庚申歳十一月吉日 上向曲輪中	猿田彦大神 庚申奉供養所 延宝八年庚申 宝篋印塔の 塔身のみ	庚申塔 享和二年壬戌十月 吉日 下講中	銘 文
鈴 縄 劍 蛇をもつ				日月				備 考

上州の庚申塔（北橋村）

46	45	44	43	42	41	40	番 形
文	文	文	青 面	青 面	青 面	青 面	所 在 地
下南室 中谷戸 馬落観音	〃	分郷八崎 東円山千手 観音	上箱田 西小玉 秋太郎 町東	上箱田石田 甘酒地藏	上箱田 石田沢治宅 前	小室第一 上小室生活 共同館	年 代
享保2	寛政12	寛政12	元禄10	元文元	元禄10	元禄11	方 量
高さ cm 幅 cm 総高111cm	高さ 73cm 幅 32cm 総高235cm	高さ133cm 幅 33cm 総高240cm	高さ 75cm 幅 45cm 総高127cm	高さ 65cm 幅 34cm 総高110cm	高さ 93cm 幅 45cm 総高145cm	高さ 67cm 幅 28cm 総高155cm	銘
奉情青面金剛菩薩 十一月吉日 三猿	寛政十二年龍集庚申 青面金剛王 抄冬十二月吉祥穀且信州高遠 石工 伊藤政八 當所 生形五良兵衛 (他五名略) 講中	寛政十二年庚申年十二月日當山主 青面金剛塔 吉田善右衛門(ほか五名略)	奉造立庚申供養 (青面金剛像) 于時元禄十丁丑天十月吉辰日	奉納諸願成就 (青面金剛像) 元文元丙辰十月吉日	(蓮弁) 村中施主敬白 (青面金剛像) 于時元禄十丁丑年九 月吉辰日 奉造立庚申供養成就	元禄十一寅ノ年十八人 施主 九月 日吉	文
三猿 一鶏	裏に 代 とある		三猿 劍弓蛇繩	輪宝 三猿二鶏 蛇	弓劍蛇繩 瑞雲日月 三猿	繩劍蛇 (不明)をも つ 三猿二鶏 日月	備 考

47	番 形
文	所 在 地
上箱田 中屋敷 森田福太郎 宅東	年 代
万延元	方 量
高さ230cm 幅 62cm 総高285cm	銘
青面金剛 □□大納言□□□□ 萬延元庚申年十二月吉辰 森田仁兵衛(ほか二三名略) 八崎石工 渡辺常一 門司郎	文
瑞雲日月	備 考